

# 井ノ原遺跡第1地点

畑地帯総合整備事業における埋蔵文化財発掘調査報告書(8)

2022年3月

宮崎県西諸県郡  
高原町教育委員会



# 序 文

本書は、「県営畑地帯総合整備事業（担手育成）」に伴い、宮崎県西諸県農林振興局から委託を受け、平成 29 年度から令和元年度にかけて高原町教育委員会が行った井ノ原遺跡第 1 地点発掘調査の調査報告書です。

高原町は霊峰高千穂峰をいただく、神話と歴史に溢れた町です。特に「高原」という地名は、「高天原」から転化したと言われており、町内各所に神話にまつわる地名が残されています。高原町は初代天皇である神武天皇の御降誕地であり、また若年期に過ごされたという伝承をもつ場所としても名高い町であります。

高原町教育委員会では、畑地帯総合整備事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成 27 年度から実施しており、この井ノ原遺跡第 1 地点では、縄文時代を中心とした遺物が出土しました。また、遺構も多数検出されており、特に縄文時代早期の竪穴建物跡や、調理施設と推定されている集石遺構が多く検出されました。

今回の調査で得た様々な成果が、学術資料としてだけでなく、学校教育や生涯学習の場で活用され、埋蔵文化財の保護に対する認識と理解の一助になることを期待しています。

最後になりますが、この発掘調査及び整理作業にあたり、多大なる御理解と御協力をいただきました。土地所有者の方や周辺住民の方々をはじめ、御指導・御援助をいただきました関係諸機関の方々に心から御礼を申し上げます。

令和 4 年 3 月

高原町教育委員会  
教育長 西田 次良

# 例 言

- 1 本報告書は、平成 29 年度から令和元年度にかけて実施した後川内地区における畑地帯総合整備事業（担手育成）に伴う井ノ原遺跡発掘調査報告書の、2 分冊のうちの 1 冊であり、井ノ原遺跡第 1 地点の成果を収録している。
- 2 当遺跡は宮崎県西諸県郡高原町大字後川内字井ノ原に所在する。
- 3 当遺跡の発掘調査及び報告書作成のための整理事業、執筆については宮崎県西諸県農林振興局農村整備課の委託を受けて、高原町教育委員会が主体となって実施した。
- 4 当遺跡の発掘調査については、宮崎県教育委員会文化財課の指導・助言を受けて、高原町教育委員会教育総務課社会教育係の非常勤職員（発掘調査員）面高哲郎が中心となって実施した。
- 5 現場における遺構実測は調査員、調査補助員及び作業員が行った。なお、遺構実測図の一部を有限会社ジバング・サーベイに委託した。
- 6 遺物の整理、実測図作成、トレースについては、調査員、調査補助員及び作業員が整理事業室にて行った。遺物の実測図作成及びトレースの一部を有限会社ジバング・サーベイに委託した。
- 7 本報告書で使用した遺構の写真撮影は面高調査員、高原町教育委員会教育総務課文化財係玉谷鮎美が行い、空中写真については九州航空株式会社に委託した。遺物写真撮影は玉谷が実施した。
- 8 本報告書で使用した出土炭化物の放射線炭素年代測定、樹種同定、種実同定、およびテフラ分析は株式会社古環境研究センター及び株式会社古環境研究所に委託した。
- 9 本報告書で用いた標高は海拔高であり、方位は真北・磁北であり、図面ごとに図示した。
- 10 本報告書で使用した遺構記号は以下の通りである。  
SA…竪穴遺構、竪穴状遺構 SC…土坑 SE…溝、溝状遺構 SI…集石遺構 SJ…集石遺構周辺の礫密集地・範囲 ST…落し穴 SQ…ビット列、柵列 SZ…その他遺構 P…ビット、小穴
- 11 本報告書の執筆・編集は玉谷が行った。各遺構の実測図、所見については調査を主導した面高調査員の意向を尊重し、表現の統一等以外は、調査時の記録をそのまま使用している。
- 12 発掘調査に伴う出土遺物・実測図面については、高原町教育委員会で保管している。
- 13 発掘調査および報告書作成においては下記の方々には御指導、御助言いただきました。記して御礼申し上げます。  
赤崎広志 井上誠二 大坪志子 新東晃一 菅付和樹 高橋信武 立神倫史 堂込秀人 中野和浩 永友加奈子 西嶋剛広 岸田優子 眞邊彩 水之江和同 前迫亮一 宮崎朝雄 吉本正典 宮崎県埋蔵文化財センター（公財）鹿児島県埋蔵文化財調査センター（有）黒木建設

## 本文目次

第1章 序説	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査組織	1
第3節 遺跡の立地と環境	4
第4節 調査の概要及び経過	4
第5節 調査区設定	7
第6節 遺跡の層序	8
第2章 調査の成果	11
第1節 小林軽石層下位の調査	11
第2節 アカホヤ火山灰下位の調査	12
1 遺構について	12
2 遺物について	62
第3節 アカホヤ火山灰上位の調査	98
1 遺構について	98
2 遺物について	116
第4節 時期不明の遺構・遺物について	122
第3章 自然科学分析	131
第4章 総括	181

## 挿図目次

図1 周辺遺跡分布図	5
図2 調査地位置図	5
図3 周辺地形及びグリッド配置図	6
図4 調査区設定図	7
図5 基本層序	8
図6 遺跡内土層ベルト	9
図7 小林軽石下位トレンチ配置図	11
図8 アカホヤ火山灰下位検出遺構配置図	13
図9 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図①及び出土遺物実測図	14
図10 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図②	15
図11 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図③及び出土遺物実測図	16
図12 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図④	17
図13 S8B出土遺物実測図①	18
図14 S8B出土遺物実測図②	19
図15 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図⑤及び出土遺物実測図	20
図16 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図⑥及び出土遺物実測図	21

図 17	アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図⑦及び出土遺物実測図	22
図 18	アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図⑧及び出土遺物実測図	23
図 19	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図①	24
図 20	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図②	25
図 21	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図③及び出土遺物実測図	26
図 22	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図④	27
図 23	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図⑤及び出土遺物実測図	28
図 24	アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図⑥及び出土遺物実測図	29
図 25	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図①及び出土遺物実測図	30
図 26	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図②及び出土遺物実測図	31
図 27	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図③及び出土遺物実測図	32
図 28	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図④及び出土遺物実測図	33
図 29	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑤	34
図 30	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑥及び出土遺物実測図	35
図 31	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑦及び出土遺物実測図	36
図 32	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑧及び出土遺物実測図	37
図 33	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑨及び出土遺物実測図	38
図 34	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑩及び出土遺物実測図	39
図 35	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑪及び出土遺物実測図	41
図 36	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑫及び出土遺物実測図	42
図 37	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑬及び出土遺物実測図	43
図 38	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑭及び出土遺物実測図	44
図 39	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑮及び出土遺物実測図	45
図 40	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑯及び出土遺物実測図	46
図 41	アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図⑰及び出土遺物実測図	47
図 42	アカホヤ火山灰下位検出 SQ 実測図	48
図 43	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図①及び出土遺物実測図	50
図 44	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図②	51
図 45	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図③及び出土遺物実測図	52
図 46	SZ4 出土平橋式土器接合状況	53
図 47	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図④及び出土遺物実測図	54
図 48	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図⑤及び出土遺物実測図	55
図 49	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図⑥及び出土遺物実測図	56
図 50	アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図⑦及び出土遺物実測図	57
図 51	アカホヤ火山灰下位検出 SZ14・15 出土遺物実測図	58
図 52	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図①	63
図 53	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図②	64
図 54	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図③	65
図 55	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図④	66
図 56	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑤	67
図 57	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑥	68
図 58	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑦	69
図 59	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑧	70

図 60	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑨	71
図 61	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑩	72
図 62	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑪	73
図 63	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑫	74
図 64	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑬	75
図 65	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑭	77
図 66	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑮	78
図 67	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑯	80
図 68	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑰	81
図 69	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑱	82
図 70	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑲	83
図 71	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑳	84
図 72	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図㉑	85
図 73	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図㉒	86
図 74	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図①	87
図 75	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図②	88
図 76	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図③	89
図 77	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図④	90
図 78	アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑤	91
図 79	アカホヤ火山灰上位検出遺構配置図	99
図 80	アカホヤ火山灰上位検出 SA 実測図①及び出土遺物実測図	100
図 81	アカホヤ火山灰上位検出 SA1 出土遺物実測図	101
図 82	アカホヤ火山灰上位検出 SA 実測図②	102
図 83	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図①	103
図 84	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図②及び出土遺物実測図	104
図 85	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図③	105
図 86	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図④	106
図 87	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑤及び出土遺物実測図	107
図 88	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑥	108
図 89	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑦及び遺物実測図	109
図 90	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑧	110
図 91	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑨及び遺物実測図	111
図 92	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑩及び遺物実測図	112
図 93	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑪・概略図及び遺物実測図	113
図 94	アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑫	114
図 95	アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図①	116
図 96	アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図②	117
図 97	アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図③	118
図 98	アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図①	119
図 99	アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図②	120
図 100	時期不明遺構配置図	122
図 101	時期不明 SC 実測図①	123
図 102	時期不明 SC 実測図②	124

図 103	時期不明 SE・ST 実測図	125
図 104	時期不明 SZ 実測図①	126
図 105	時期不明 SZ 実測図②	127
図 106	時期不明土器実測図	129
図 107	時期不明石器実測図	130

## 表目次

表 1	アカホヤ火山灰下位遺構内出土土器観察表	59
表 2	アカホヤ火山灰下位遺構内出土土器観察表	61
表 3	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器観察表	92
表 4	アカホヤ火山灰下位包含層出土土器観察表	96
表 5	アカホヤ火山灰上位遺構内出土土器観察表	115
表 6	アカホヤ火山灰上位遺構内出土土器観察表	115
表 7	アカホヤ火山灰上位包含層出土土器観察表	121
表 8	アカホヤ火山灰上位包含層出土土器観察表	121
表 9	時期不明遺構内出土土器観察表	128
表 10	時期不明土器観察表	129
表 11	時期不明石器観察表	129

## 図版目次

図版 1	調査区空中写真	183
図版 2	調査区空中写真及び周辺地形状況	184
図版 3	調査区土層写真	185
図版 4	小林軽石層下位の調査状況	186
図版 5	アカホヤ火山灰下位の調査区状況	187
図版 6	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況①	188
図版 7	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況②	189
図版 8	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況③	190
図版 9	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況④	191
図版 10	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑤	192
図版 11	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑥	193
図版 12	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑦	194
図版 13	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑧	195
図版 14	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑨	196
図版 15	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑩	197
図版 16	アカホヤ火山灰下位遺構調査状況⑪	198
図版 17	アカホヤ火山灰下位遺物出土状況	199
図版 18	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真①	200



図版 19	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真②	201
図版 20	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真③	202
図版 21	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真④	203
図版 22	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真⑤	204
図版 23	アカホヤ火山灰下位検出遺構内出土遺物写真⑥	205
図版 24	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真①	206
図版 25	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真②	207
図版 26	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真③	208
図版 27	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真④	209
図版 28	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑤	210
図版 29	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑥	211
図版 30	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑦	212
図版 31	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑧	213
図版 32	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑨	214
図版 33	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑩	215
図版 34	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑪	216
図版 35	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑫	217
図版 36	アカホヤ火山灰下位包含層出土遺物写真⑬	218
図版 37	アカホヤ火山灰上位の調査区状況及び遺構調査状況①	219
図版 38	アカホヤ火山灰上位遺構調査状況②	220
図版 39	アカホヤ火山灰上位遺構調査状況③	221
図版 40	アカホヤ火山灰上位遺構調査状況④	222
図版 41	アカホヤ火山灰上位遺物出土状況	223
図版 42	アカホヤ火山灰上位検出遺構内出土遺物写真①	224
図版 43	アカホヤ火山灰上位検出遺構内出土遺物写真②	225
図版 44	アカホヤ火山灰上位包含層出土遺物写真①	226
図版 45	アカホヤ火山灰上位包含層出土遺物写真②	227
図版 46	時期不明遺構調査状況①	228
図版 47	時期不明遺構調査状況②	229
図版 48	時期不明異形石器出土状況	230
図版 49	時期不明遺物①	231
図版 50	時期不明遺物②	232
図版 51	調査風景	233



## 第1章 序説

### 第1節 調査に至る経緯

宮崎県西諸県郡高原町大字後川内では、平成25年度に後川内2期地区川路山団地畑地帯総合整備（担手支援）事業が採択された。工事に伴い宮崎県文化財課は宮崎県西諸県農林振興局から文化財の所在の有無について照会を受けた。県文化財課が一带の確認調査を実施したところ、事業実施計画によって切土となる範囲で遺跡が残存しており、発掘調査が必要であることが分かった。

その結果を受け、西諸県農林振興局、宮崎県文化財課、高原町農政畜産課、高原町教育委員会で協議を行い、圃場整備事業実施計画によって削平される井ノ原遺跡の約12,000㎡について、発掘調査を実施することとなった。平成29年度には段丘部分の約5,200㎡、平成30年度については丘陵状の約4,965㎡と舌上台地状の約1,730㎡、令和元年度には丘陵部の一部を調査した。なお、段丘部及び丘陵部を第1地点、舌状台地上にある調査区を第2地点とした。調査期間は、平成29年7月19日から平成30年3月30日、平成30年4月23日から平成31年3月27日、平成31年4月8日から令和元年5月31日にかけてである。

### 第2節 調査組織

調査組織については下記の通りである。

平成29年度

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 江田正和

教育総務課長 田上則昭

社会教育係長 中原圭一郎

社会教育係 主任主事 新福竜太（庶務担当）

社会教育係 主任主事 玉谷鮎美

調査担当者 社会教育係 非常勤職員（発掘調査員） 面高哲郎

社会教育係 主任主事 玉谷鮎美

調査補助員 竹中美智子

発掘作業員 池崎良夫 内村組代 岡崎順子 岡元義一 奥 喜代司 上村勝雄  
上村恭子 川畑英春 久德利雄 窪田貴代子 久保田光信 小村俊男  
正入木政喜 關田克己 瀬戸口長経 竹内愛子 田中幸吉 鶴田孝徳  
寺師時信 橋口廣海 原田賢雄 花牟禮照雄 松本タケ子 丸山修平  
村山保夫 安岡健二 柳 桂子 山崎啓子 湯舟玲子

整理作業員 福田 稔

平成30年度

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会

教育長 西田次良

教育総務課長 水町洋明

社会教育係長 中原圭一郎

社会教育係 主任主事 中村真琴（庶務担当）  
 主事 瀬戸口洋介（庶務担当）

調査担当者 社会教育係 非常勤職員（発掘調査員） 面高哲郎  
 社会教育係非常勤職員（発掘調査員） 竹中美智子  
 社会教育係 主任主事 玉谷鮎美

調査補助員 田中 祐紀

発掘作業員 安藤 護 池崎良夫 池田信子 入木松男 内村絹代 岡崎順子  
 岡原 弘 奥 喜代司 勝吉末雄 上村勝雄 上村恭子  
 久德利雄 窪田貴代子 黒木和美 下村富貴子 正入木政喜  
 關田克己 瀬戸口長経 平良 廣 竹之下民子 田崎広海  
 谷山龍人 鶴田孝徳 寺師時信 泊 かよ子 永田輝昭  
 橋口廣海 原田賢雄 眞方幸雄 松本タケ子  
 丸山修平 村山保夫 安岡健二 柳 桂子 山崎啓子 山田町子  
 山室つゆ子 湯舟玲子 吉村 繁

整理作業員 梅本かよ子 福田 稔

#### 令和元年度

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会  
 教育長 西田次良  
 教育総務課長 水町洋明  
 社会教育係長 江田雅宏  
 社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）  
 主任主事 玉谷鮎美（庶務担当）  
 主事 瀬戸口洋介（庶務担当）

調査担当者 社会教育係 主任主事 玉谷鮎美  
 社会教育係非常勤職員（発掘調査員） 竹中美智子

調査補助員 田中祐紀 福田 稔

発掘作業員 安藤 護 飯田千代子 池崎良夫 池田信子 入木松男 内村絹代  
 岡崎順子 岡原 弘 奥 喜代司 勝吉末雄 上村勝雄 上村恭子  
 河野春行 久德利雄 窪田貴代子 黒木和美 下村富貴子 正入木政喜  
 鈴木睦子 關田克己 瀬戸口長経 平良 廣 竹之下民子 田崎広海  
 谷山龍人 鶴田孝徳 寺師時信 泊 かよ子 永田輝昭 那須町子  
 鳴海フチエ 橋口廣海 原田賢雄 眞方幸雄 松本タケ子  
 丸山修平 安岡健二 柳 桂子 山崎啓子 山田町子  
 山室つゆ子 湯舟玲子 吉村 繁

整理作業員 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子

#### 令和2年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会  
 教育長 西田次良  
 教育総務課長 末永恵治  
 教育総務課 課長補佐兼社会教育係長 江田雅宏  
 社会教育係 主査 玉谷鮎美（庶務担当）

社会教育係 主任主事 中別府宏貴（庶務担当）  
社会教育係 主事 末山香織（庶務担当）  
調査担当者 社会教育係 非常勤職員（発掘調査員） 而高哲郎  
調査補助員 田中祐紀 福田 稔  
整理作業員 荒殿ミュキ 今西公実 梅本かよ子 瀬戸山美子 矢野秀城

令和3年度（整理作業）

調査主体者 宮崎県高原町教育委員会  
教育長 西田次良  
教育総務課長 末永恵治  
教育総務課 文化財係長 山下浩樹  
文化財係 主査 玉谷鮎美（庶務担当）  
調査担当者 文化財係 主査 玉谷鮎美

調査指導 松本 茂 藤木 聡 甲斐貴充（宮崎県文化財課）

調査協力 事業側 宮崎県西諸県部農林振興局

農村整備課 農村整備担当 主査 古城 潤（平成29・30年度）  
主査 上坂大輔（令和元年度）  
主査 蛭原稔文（令和2・3年度）

高原町農政畜産課（平成29・30年度）、

農畜産振興課（令和元～3年度）  
課長 末永恵治（平成29・30年度）  
田中博幸（令和元～3年度）

農村整備係長 増田仁志（令和元年度）  
田中伸一郎（令和2・3年度）

農村整備係 主査 下村健一（令和元・2年度）  
主査 東 一樹（令和3年度）

地元協力 西村岩夫 西村八千 西村正人 松本政次

### 第3節 遺跡の立地と環境

高原町は宮崎県の南西部に位置し、小林市、都城市、鹿児島県霧島市に隣接している。東西約18km、南北約10kmと東西に長く、面積は85.39km<sup>2</sup>であり、韓国岳（標高1,700m）、新燃岳（1,421m）中岳（1,332m）、高千穂峰（1,574m）等を中心とする霧島火山群の東麓にある。高原町の台地は火山灰により形成されたシラス台地上にある。シラスは約29,000年前に現在の鹿児島県の錦江湾付近（始良カルデラ）から噴出した火山灰で「始良丹沢（AT）火山灰」「始良大隅軽石」「入戸火砕流堆積物」等で構成されており、その堆積は厚いところでは約20mにもなる。さらにその後も、霧島火山群から多種の火山灰が噴出し、霧島小林軽石、牛のすねローム下部、鬼界アカホヤ火山灰、牛のすねローム上部、御池軽石、高原スコリア（霧島大谷4～6テフラ）等が降下しており、高原町を覆っている。これらの火山灰は地層の年代を特定するための鍵層となっている。

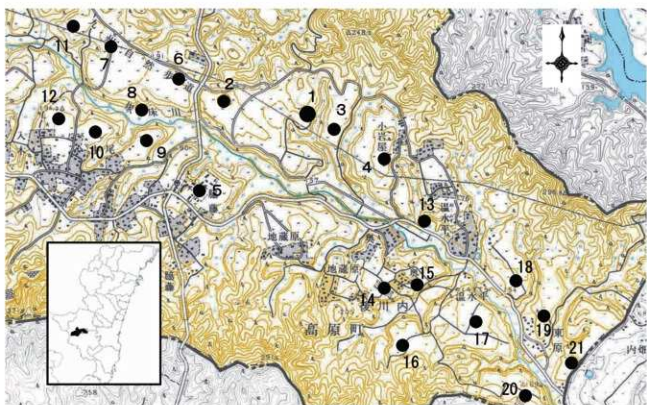
遺跡周辺も入戸火砕流が堆積した台地上に立地しており、標高は約179～199mである。遺跡の南側には炭床川、北西側にはシラス台地が刻んだ谷があり、湧水点がある。今回調査した井ノ原遺跡の第1地点は丘陵状に旧地形が残存している場所であり、第2地点はその丘陵地の裾部から舌状台地へと繋がる場所に位置している（高原町教育委員会 2021）。第1地点の調査地は南北に延びる尾根から西方向へ傾斜する地形となる。調査区の中央南寄りには、東西に延びる小谷があり、この小谷を挟んで北側と中央部の標高が高く、調査区の北端及び南端に向かって傾斜している。

遺跡周辺には多くの遺跡が存在しており、立切地下式横穴墓群、川除遺跡、川路山遺跡で発掘調査が行われた。後川内小学校屋内運動場建設に伴い調査された川除遺跡は、古代の畝状遺構等が見つかっている。縄文時代の遺物も少量ではあるが見つかっており、姫島産黒曜石やチャートの石鏃、轟B式土器が出土している。また川路山遺跡では塞ノ神式土器を中心とした土器が出土しており、集石遺構等が検出された。

### 第4節 調査の概要及び経過

井ノ原遺跡第1地点の調査は、平成29年7月19日から令和元年5月31日にかけて実施した。調査面積は10,165m<sup>2</sup>である。調査区が広範囲であったため、平成29年度及び30年度に段丘部（1～3区）、平成30年度及び令和元年度に丘部（4区）の調査を実施した。平成29年度は7月19日から8月26日、12月1日から12月20日にかけて表土剥ぎを行い、8月28日から発掘作業員を雇用し調査を行った。初めに1・3区の包含層掘削、精査を行い、随時遺構検出・調査を実施した。その後平成29年12月から2区の包含層掘削、精査、遺構検出を行った。平成30年度は4月23日から5月30日にかけて表土剥ぎを行い、5月16日から発掘作業員を雇用し調査を行った。1区の遺構の調査を4月から7月上旬にかけて実施した。併行して4区の包含層掘削、精査、遺構検出・調査を3月まで実施した。令和元年度は4月8日から5月30日にかけて作業員を雇用し、包含層掘削、精査、遺構検出・調査を実施し、令和2年5月31日に全ての調査を終了した。平成30年3月17日、平成31年2月24日には、現場説明会を実施した。また、高原町教育総務課社会教育係が実施する生涯学習講座（皇子原学園）、地元小中学校課外授業での見学を行った。

本調査の結果、縄文時代早期では竪穴建物跡10基、土坑15基、集石遺構60基、ビット列、その他遺構が検出された。遺物は、土器は平台式土器、塞ノ神式土器が中心に出土している。石器は打製石鏃、異形石器等が出土した。縄文時代中期から晩期については、竪穴建物跡2軒、土坑26基が検出された。遺物は、大平式土器、黒色磨研土器等が出土している。時期不明の遺構として、土坑2基、その他遺構3基、溝状遺構1基、陥し穴状遺構1基が検出された。



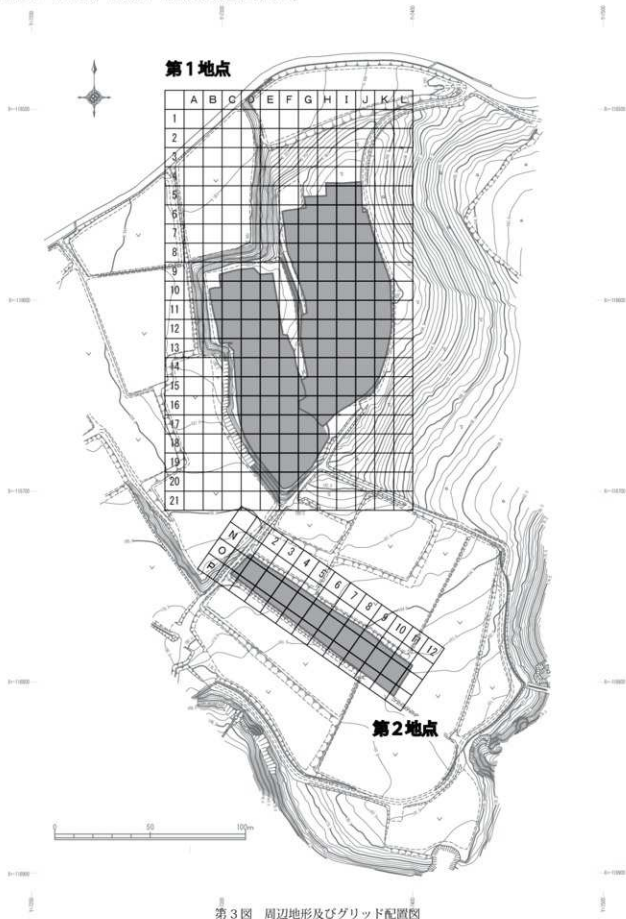
- 1 井ノ原道跡 2 川路山道跡 3 赤木八重道跡 4 橋木塚道跡 5 川除道跡 6 轟道跡 7 立切地下式横穴墓群 8 向原第1道跡  
 9 宮ノ谷道跡 10 向原第2道跡 11 立切第1道跡 12 向原第3道跡 13 温水第2道跡 14 温水第1道跡 15 奥城跡 16 大久保第2道跡  
 17 入木道跡 18 大久保第1道跡 19 東平道跡 20 上橋道跡 21 吉車田道跡

第1図 周辺道跡分布図 (S = 1/25,000)



第2図 調査地位位置図

調査における写真撮影は6×9版モノクロ・リバーサルフィルム、35mmモノクロ・リバーサルフィルム、NIKON D5100、NIKON D850で撮影を行った。



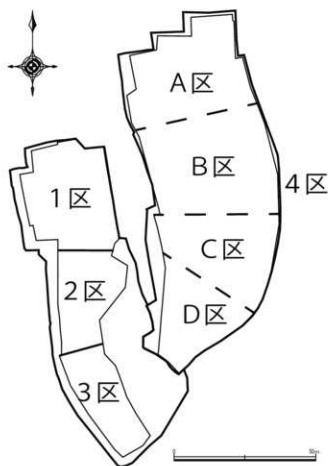
第3図 周辺地形及びグリッド配置図



## 第5節 調査区設定

調査区設定は、平成29年度に調査した遺跡の西側は、排土置き場の都合上1区から3区に分け、3区の調査終了後に、排土を移動し1・2区の調査を実施した。平成30年度から令和元年度にかけて調査を実施した遺跡の西側は4区とし、便宜上北からA区・B区・C区・D区と細分した。細分はC区とD区の境界は谷状地形に沿うように設定した。1～3区と4区は比高差が約3mあり、現況の畑を造成する際に丘陵地を削平しているため、1～3区と4区の境界周辺は遺物包含層が残存していなかった。

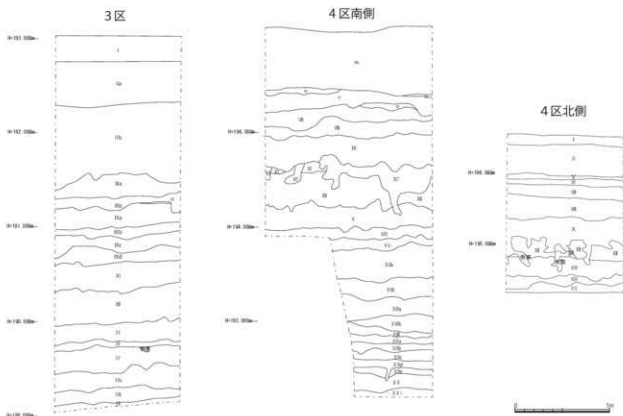
調査面は、上位から順に、1区ではアカホヤ二次堆積層（基本層序X層）とアカホヤ火山灰下位の黒色土～暗褐色土層（基本層序XIV～XVI層）、2区及び3区ではアカホヤ火山灰下位の暗褐色土層（基本層序XVI層）、4区においてはアカホヤ火山灰上位の黒色～褐色土（基本層序VII～IX層）、アカホヤ二次堆積層とアカホヤ火山灰下位の黒色土～暗褐色土層、小林軽石層下位の灰黄褐色粘質土層（基本層序XX層）である。1区及び4区南半においてはアカホヤ火山灰二次堆積層が存在し、他の区域では確認されなかった。またアカホヤ火山灰上位の黒色～褐色土層については、4区の西部分のみ残存し、その他の区域については畑地造成や耕作時のトレンチャー等の削平を受けており、遺物包含層は残存していなかった。



第4図 調査区設定図 (S=1/1500)

## 第6節 遺跡の層序

当遺跡では、調査区中央南寄りに存在する東西に延びる小谷を境に、北半と南半で地層が異なっており、堆積が調査区の一部にしか認められないものもあった。特にアカホヤ火山灰下の遺物包含層であるXV～XVI層にかけては、観察地点によって色度や含有する軽石の量に差異があったが、基本層序は第5図の通りとした。

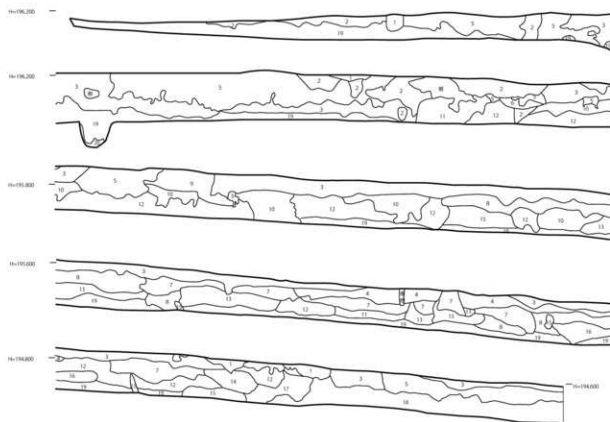


- I: 黒色粘板土 (10793/1) 遺土、特注①
- II: 黒色粘板土 (10792/2) 10 cm以下の自然砂を多く含む (編注)
- III: 黒色粘板土 (10793/2) 20 cm以下の自然砂を多く含む、黒色火山灰(アホヤ)の塊が混入している (注)
- IV: 黒色粘板土 (10793/3) 褐色スクリップを含む (アホヤ火山灰、黒色スクリップを多く含む) (注)
- V: 黒色粘板土 (10794/1) 褐色スクリップを多く含む (注)
- VI: 赤い軽石の層土 (12595/4) 25 cm以下の赤い軽石を多く含む (赤い軽石)
- VII: 黒色粘板土 (10792/1) (注)
- VIII: 赤い軽石の層土 (10793/1) 20 cm以下の赤い軽石を多く含む (褐色スクリップ)
- IX: 赤い軽石の層土 (10794/2) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む (注)
- X: 褐色粘板土 (10794/3) 2 cm以下の赤い軽石を多く含む (注)
- XI: 褐色粘板土 (10795/4) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、1 cm以下の自然砂を多く含む、X
- XII: 赤い軽石の層土 (10794/1) 1 cm以下の自然砂を多く含む、赤い土層
- XIII: 褐色粘板土 (10794/2) 下部に厚さ約1.5 cm以下の褐色粘板土を含む、アホヤ火山灰
- XIV: 褐色粘板土 (10794/1) 2 cm以下の自然砂を多く含む、赤い土層
- XV: 褐色粘板土 (10792/1) 3 cm以下の赤い軽石を多く含む、赤くくまらる
- XVI: 黒色粘板土 (10792/2) 8 cm以下の赤い軽石を多く含む、1 cm以下の自然砂を多く含む、しぼり入り
- XVII: 黒色粘板土 (10793/1) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、1 cm以下の赤い軽石を多く含む、20 cm以下の自然砂を多く含む、破り入り
- XVIII: 黒色粘板土 (10793/2) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、(編注参照)
- XIX: 黒色粘板土 (10793/3) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り
- XX: 赤い軽石の層土 (10794/1) 5 cm以下の赤い軽石を多く含む、10 cm以下の自然砂を多く含む、赤くくまらる
- XXI: 赤い軽石の層土 (10793/1) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXII: 赤い軽石の層土 (10793/2) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXIII: 赤い軽石の層土 (10793/3) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXIV: 赤い軽石の層土 (10794/1) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXV: 赤い軽石の層土 (10794/2) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXVI: 赤い軽石の層土 (10794/3) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXVII: 赤い軽石の層土 (10794/4) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXVIII: 赤い軽石の層土 (10794/5) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXIX: 赤い軽石の層土 (10794/6) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXX: 赤い軽石の層土 (10794/7) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXI: 赤い軽石の層土 (10794/8) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXII: 赤い軽石の層土 (10794/9) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXIII: 赤い軽石の層土 (10794/10) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXIV: 赤い軽石の層土 (10794/11) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXV: 赤い軽石の層土 (10794/12) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXVI: 赤い軽石の層土 (10794/13) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXVII: 赤い軽石の層土 (10794/14) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXVIII: 赤い軽石の層土 (10794/15) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXIX: 赤い軽石の層土 (10794/16) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXX: 赤い軽石の層土 (10794/17) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXI: 赤い軽石の層土 (10794/18) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXII: 赤い軽石の層土 (10794/19) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXIII: 赤い軽石の層土 (10794/20) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXIV: 赤い軽石の層土 (10794/21) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXV: 赤い軽石の層土 (10794/22) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXVI: 赤い軽石の層土 (10794/23) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXVII: 赤い軽石の層土 (10794/24) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXVIII: 赤い軽石の層土 (10794/25) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXIX: 赤い軽石の層土 (10794/26) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層
- XXXXX: 赤い軽石の層土 (10794/27) 10 cm以下の赤い軽石を多く含む、破り入り、赤い土層

第5図 基本層序 (S=1/40)

第Ⅰ層は黒褐色土で表土（耕作土）である。第Ⅱ層は黒色土で盛土である。Ⅱa層は盛土で黒色土を含み、10mm程度の灰色礫を含む。第Ⅱb層は高原スコリア、アカホヤ火山灰ブロックを含む混土である。第Ⅲ層は黒色土で旧耕作土である。第Ⅲa層は 黒色を呈する。Ⅱ層（盛土）前の旧表土と考えられる。第Ⅲb層は褐色みを帯びた黒色を呈し、高原スコリアを含む。同じく旧表土と考えられる。第Ⅳ層は橙色を呈する軽石層で、霧島享保軽石層である。第Ⅴ層は黒色粘質土である。第Ⅵ層はにぶい褐色のスコリア層で、高原スコリア層である。第Ⅶ層はにぶい褐色粘質土で、2mm以下の黄褐色軽石を少量含む。第Ⅷ層は褐色粘質土2mm以下の黄褐色粘質土を少量含む。第Ⅸ層は暗褐色土粘質土で、10mm以下の黄橙色軽石を含有、5mm以下の橙色軽石を微量含有する。軽石の含有量や詰まり具合によって4層に分層できる（Ⅸa～Ⅸd層）。第Ⅹ層は褐色土で、詰まりが弱い。二次堆積のアカホヤ火山灰層である。4区北側のみに堆積を確認した。第Ⅺ層はにぶい黄色シルト質土で、牛のスネ火山灰とアカホヤ火山灰の混土である。第Ⅻ層は明黄褐色を呈するアカホヤ火山灰層である。下部にはアカホヤ火山灰豆石を含有する。第Ⅼ層は褐色シルト質の牛のスネ火山灰層である。第Ⅽ層は黒色粘質土で、3mm以下の橙色軽石を多く含む。牛のスネ火山灰堆積前の表層（埋没

#### 4区南 東西土層



- 1 黒色粘質土（100/10/10）2mm以下の暗褐色軽石を含む。1mm以下の暗褐色砂を多く含む。詰まり強い。中～細砂層。10mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。
- 2 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を少量含む。2mm以下の暗褐色砂を含む。1mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。中～細砂層。10mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。
- 3 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。2mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。2mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。詰まり強い。中～細砂層。10mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。
- 4 淡褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を少量含む。2mm以下の暗褐色砂を含む。1mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 5 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。8mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。2mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 6 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。10mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。2mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 7 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 8 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 9 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 10 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 11 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。8mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。2mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 12 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。1mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。1mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 13 黒褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。2mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。2mm以下の暗褐色粘質土。詰まり強い。
- 14 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 15 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。3mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。詰まり強い。
- 16 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。2mm以下の暗褐色粘質土を少量含む。詰まり強い。
- 17 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 18 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 19 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。
- 20 暗褐色粘質土（100/10/10）8mm以下の暗褐色土を含む。詰まり強い。

第6図 遺跡内土層ベルト(S-1/60)

表層)である。第XV層は黒褐色粘質土で8mm以下の黄橙色軽石を多く含む。第XVI層は黒褐色粘質土8mm以下の黄橙色軽石を多く含む。締まりがある。縄文時代早期包含層で、地点によって色度の違いで細かく分けることができる(第6図)が、性質は同じであるため、大きく3層に分層した。XVIaは浦牟田軽石、瀬田尾軽石を多く含む。XVIbは褐色斑を含む。XVIcは暗褐色土でXVIaとXVIbの混土で、井ノ原遺跡調査区の北部(1区、4区北側)に堆積する。第XVII層はにぶい黄褐色粘質土で明黄褐色軽石と白色粒を含む土層である。その中でもXVIIa層は1mm以下の灰白色砂軽石を含み、XVIIb層は5mm以下の褐灰色砂を多く含んでいる。第XVIII層は褐色粘質土で15mm以下の黄橙色軽石を多く含む。5mm以下の褐灰色砂を含み、かたく締まる。第XIX層は黄褐色軽石層と暗灰黄色シルト質土の相互層で、霧島小林軽石層である。a～e層に細分できる。第XX層はにぶい黄褐色粘質土で、明赤褐色軽石、褐灰色砂粒を含み、かたく締まる。第XX層は灰黄褐色粘質土で、8mm以下の明赤褐色軽石、5mm以下の褐灰色砂粒を含み、固く締まる。縄文時代草創期以降の遺物包含層である。

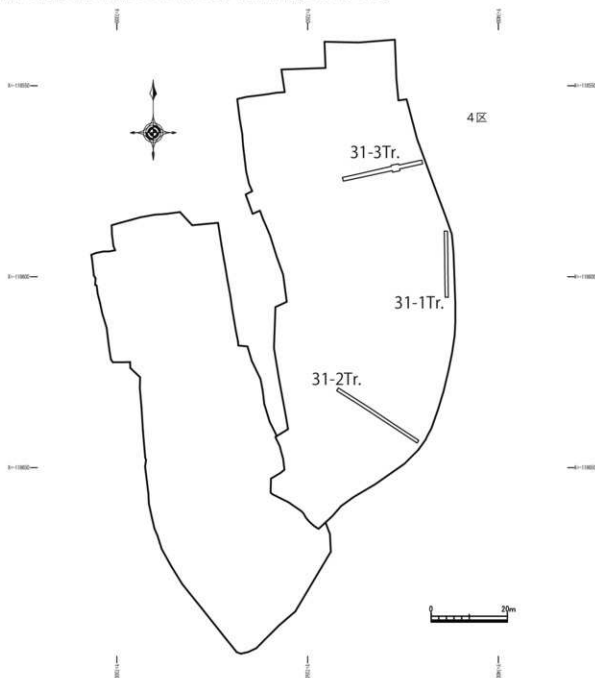
遺物包含層は1区ではアカホヤ二次堆積層(基本層序X層)とアカホヤ火山灰下位の黒色土～暗褐色土層(基本層序XIV～XVI層)、2区及び3区ではアカホヤ火山灰下位の暗褐色土層(基本層序XVI層)、4区においてはアカホヤ火山灰上位の黒色～褐色土(基本層序VII～IX層)、アカホヤ二次堆積層とアカホヤ火山灰下位の黒色土～暗褐色土層、小林軽石層下位の灰黄褐色粘質土層(基本層序XXI層)である。主な出土遺物はアカホヤ火山灰上位層では大平式土器、入佐式土器、黒川式土器、アカホヤ火山灰下位層では、手向山式土器、平橋式土器、塞ノ神式土器、石鏡、異形石器である。小林火山灰下位層ではチップが出土した。遺構検出は随時実施したが、最終遺構検出は、IX層、X層及びXX層で行った。

今回の報告においては、小林軽石層(今回報告のXX層)、アカホヤ火山灰(今回報告のXII層)の上位層と下位層で、遺構・遺物の様相が大きく異なるため、それらの層ごとに報告を行う。

## 第2章 調査の成果

### 第1節 小林軽石層下位の調査

工事設計上、小林軽石層下位にまで工事削平されることが判明していたため、小林軽石層下位の遺物包含層の有無についてトレンチ調査による確認を実施した。本調査実施前の確認調査では小林軽石層下位の包含層にまで確認が及ばなかったため、調査期間の都合により、一部分の確認となった。小林軽石層については重機による除去を行った。主に工事による削平面積が大きい4区に3本のトレンチを設定し、北から南に地形が傾斜する部分(31-1Tr.)、最も標高が低い谷部分付近(31-2Tr.)、丘陵の頂部付近(31-3Tr.)で確認を行った。重機による火山灰除去後は、人力で30cm深程掘削を行った。遺物は、31-1Tr.より黒曜石・頁岩製のチップ2点と、31-1Tr.より礫が3点出土した。遺物が出土した31-3Tr.ではトレンチ幅を広げ、確認を実施したが、周囲から遺物の出土は認められなかった。遺構は確認できなかった。



第7図 小林軽石下位トレンチ配置図 (S=1/1000)

## 第2節 アカホヤ火山灰下位の調査

アカホヤ火山灰下位では、一部造成等の影響により削平されていたが、第8図のとおり遺物包含層が残存していたため、調査を実施した。遺物の出土した層位は1区は黒色土～暗褐色土層（基本層序XV～XVI層）、2区及び3区では暗褐色土層（基本層序XVI層）、4区においては黒色土～暗褐色土層である。縄文時代早期の土器が出土しており、当地域の土器型式である、下剥峰式、手向山式、妙見式、平橋式、塞ノ神式などが認められる。遺物出土の90%以上は平橋式土器である（高原町教育委員会 2019）。なお平橋式については横沢滋（2018）、塞ノ神式については高橋信武（1997、1998）の細分に準拠して、基本的に配列した。遺構検出は随時行ったが、最終遺構検出面はXVI層である。遺構は竪穴遺構10基、土坑15基、集石遺構60基、その他ピット列や遺物出土状況等14基が検出された。遺構の分布の中心は北西側の緩やかな斜面上と丘陵地であり、調査区設定でいうところの1区と4区である。

### 1 遺構について

遺構として報告しているのは、竪穴遺構10基、土坑15基、集石遺構60基、その他ピット列や遺物出土状況等14基である。遺構の分布は標高195～196mに多く分布しており、また西向き斜面が密度が高くなっている。

#### (1) 竪穴遺構

SA 3は1区の西向き斜面で検出された。検出面上層では、縄文早期の遺物が密集しており、埋土の中ほどの高さより、土器、礫、磨石が出土している。土器は平橋式土器で刺突と沈線を施すもの（1）とキザミ目突帯を持つもの（2）が出土している。遺構の底面付近より炭化物も出土している。平面形は隅丸形状で、規模は約1.9×1.65m、検出面からの深さは約35cm程である。

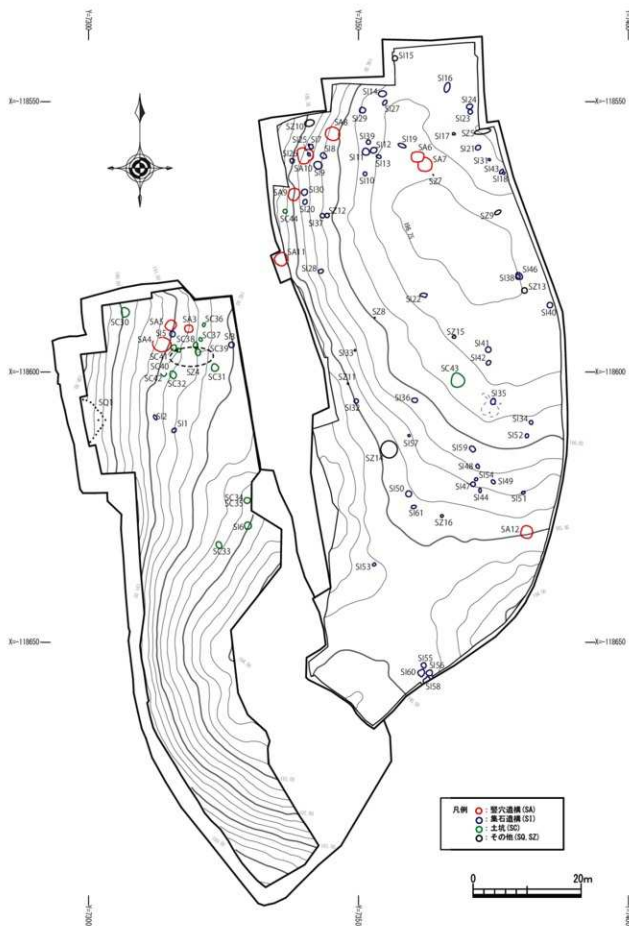
SA 4は1区で検出された。上面で礫等遺物が密集していたことで検出した。平面形は楕円状で、規模は約340cm×270cm、検出面からの深さは約20cmであった。柱穴と思われるピットが遺構壁から10～20cm内側で6箇所確認されている。ピットの直径は約10cmである。

SA 5は1区で検出された。上面で縄文早期の遺物密集が確認されたため、精査したところ検出した。平面形は隅丸形状で平面は約2.0×1.8mを測る。深さは検出面から約18cmである。底面は旧地形の傾斜に沿って西方になっている。

SA 6は4区の西側の丘上で検出されている。SA 7と切りあっており、埋土の堆積状況から、SA7が先行すると考えられる。上面からは礫が出土しており、土器等の遺物も出土している。また遺構壁の底面付近からも土器が出土している。竪穴遺構の平面形は、隅丸長方形で平面は約2.6×1.9m、検出面からの深さは約35cmを測る。底面は全面が小林軽石層面まで掘り込んでおり、平坦気味になっている。床面のピットは径13cm、深さ約18cmである。また、竪穴の周囲の検出面を下げ精査したところ、柱穴と思われるピットを6基検出した。

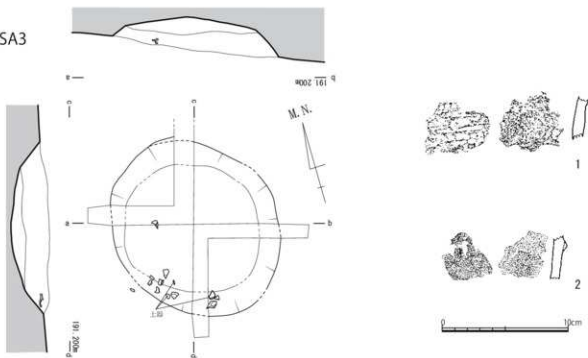
SA 7は円形状の竪穴でSA 6の精査中に検出している。規模は約2.6×2.55m、深さは検出面から約25cmである。竪穴の埋土は、自然層に比べ、若干黒味を帯びている。柱穴と考えられるピットは2箇所検出されており、P 1は遺構壁より50cmの位置にあり直径16cm、深さ15cm、P 2は遺構壁より60cmの位置にあり、直径16cm、深さ8cmである。P 1とP 2間は約80cmである。出土遺物は平橋式土器で、沈線・刺突を施す口縁～胴部片（3）と縄文を施す胴部片（4）である。

SA 8は遺物が密集していた西斜面の北側に位置しており、上面で楕円状に遺物がまとまっていたことで検出した。SA 8の平面形は、円形状であり、ほぼ中央部に長楕円状の土坑があり、二段掘りとなっている。

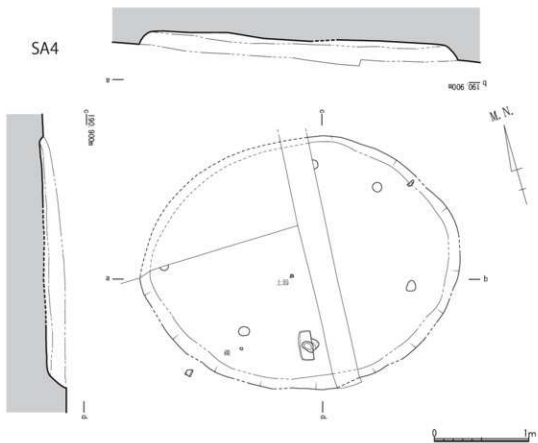


第8図 アカホヤ火山灰下位検出道構配置図 (S=1/700)

SA3

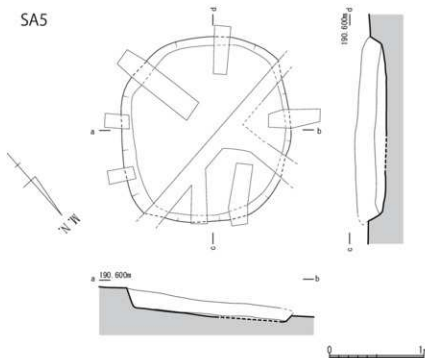


SA4



第9図 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図①出土遺物実測図 (S=1/40・1/3)





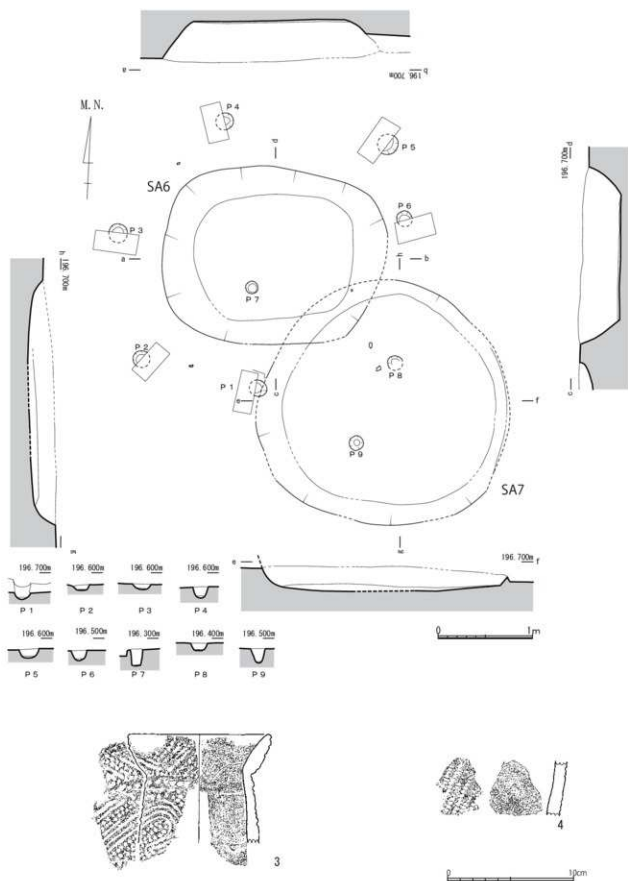
第10図 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図②(S=1/40)

遺構の規模は約2.6×2.4m、検出面からの深さは40cmである。遺構の底面は第XX層まで掘り込んでいる。竪穴遺構の外側では柱穴と思われるピットが13個検出されている。遺物が出土しているが、殆どは遺構の上面からの出土である。(5)は手向山式土器で、内面屈曲部に指おさえ痕がある。(6～19)は平栴式土器で沈線や縄文を施すものがある。(8)は頸部内径108mmを測る。口縁は方形である。(20)は磨石、(21)は石皿である。

SA9は遺物密集範囲が確認された際、南端において楕円状に埋土が落ち込んでいたことで検出した。規模は2.2×2.05mで楕円状である。竪穴の周囲の検出面を下げたところ、ピット10基が検出されている。ピットの直径は約14cm、深さは約10cmである。出土遺物は平栴式土器の胴部片であり、(22)はキザミ目突帯と結節縄文を施し、(23・24)は沈線と刺突を施す。(25)は安山岩製の石蹴で、基部が欠損しており不明瞭だが、凹基蹴と思われる。

SA10は遺物密集地で、黒褐色土が落ち込んでいたことで検出している。二段掘りの竪穴遺構である。西側は主軸が南北方向の隅丸長方形で、東側は二段掘りで円形状となっている。規模は2.9×2.8mである。検出面はXV層で、底面はXX層まで掘り込んでいる。埋土中には炭化物を含む。周囲からは柱穴と思われるピットが19基検出されている。遺物は(26)は手向山式土器で山形押型文を施す。遺構底面近くで出土している。(27)は沈線を施す。

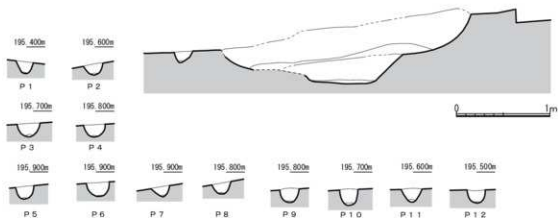
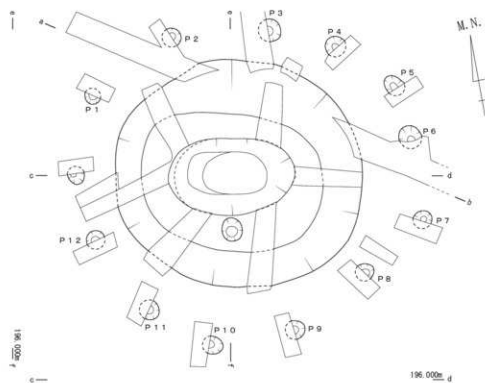
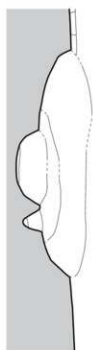
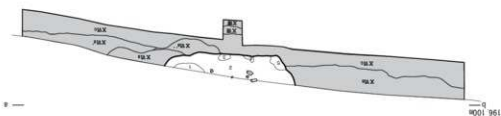
SA11は遺物がやや円形状にやや集中し、その周辺の土が黒味を帯びていたことから、検出している。竪穴の形状は円形状で、約2.45×2.4m、検出面からの深さ20cm程が計測される。竪穴の周囲で柱穴と思われるピット10基が検出されている。出土遺物は平栴式土器で、(28)は口縁部片で、沈線と連点を施し、突帯を持つ。(29)は口縁部片で肥厚した口縁部に突帯を巡らせる。(30)は口縁部～頸部片で肥厚した口縁部の下部に突帯を持つ。(31)は口縁～頸部片で、沈線と刺突を施す。(32)は口縁部片で縄文を施す。(33)は壺の頸部片で沈線と刺突文を施す。出土した石器は(34)で、石匙の握み部分は欠損している。石材は針尾島産黒曜石である。



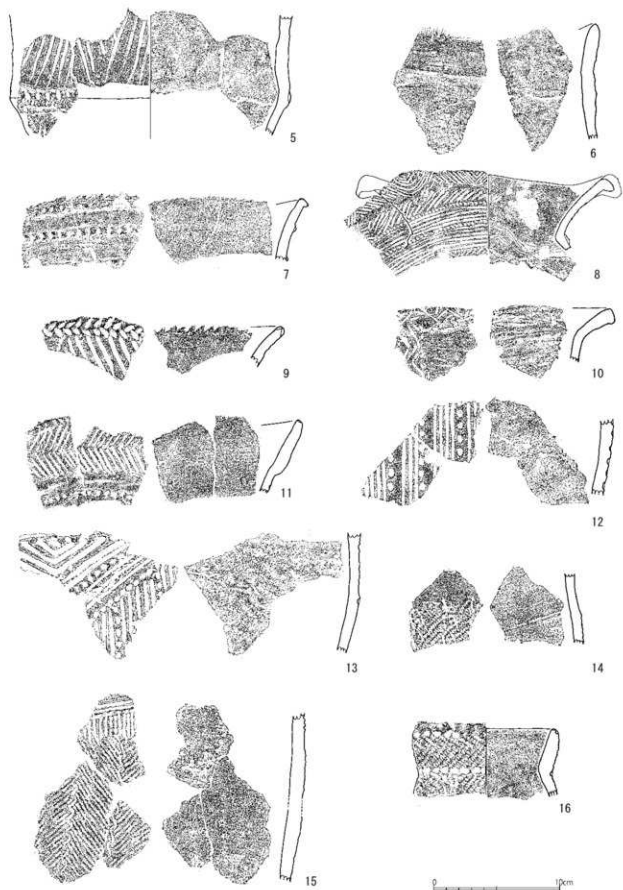
第 11 図 アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図③及び出土遺物実測図 (S=1/40・1/3)

1. 調査目的: 火山灰下位検出  
 2. 調査場所: アカホヤ火山  
 3. 調査日時: 平成25年10月10日  
 4. 調査者: 〇〇〇〇  
 5. 調査結果: 火山灰下位検出あり  
 6. 調査方法: 〇〇〇〇  
 7. 調査器具: 〇〇〇〇  
 8. 調査結果: 〇〇〇〇  
 9. 調査結果: 〇〇〇〇  
 10. 調査結果: 〇〇〇〇

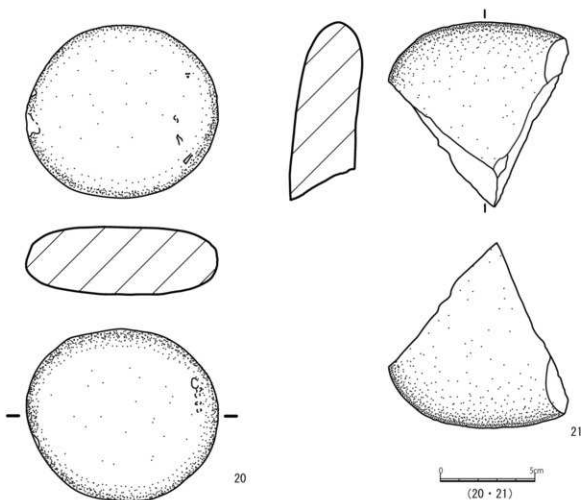
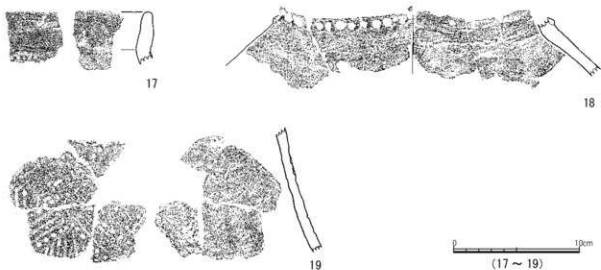
SA8



第12図 アカホヤ火山灰下位検出SA実測図④(S=1/40)



第13图 SA 8出土遺物実測図① (S-1/3)

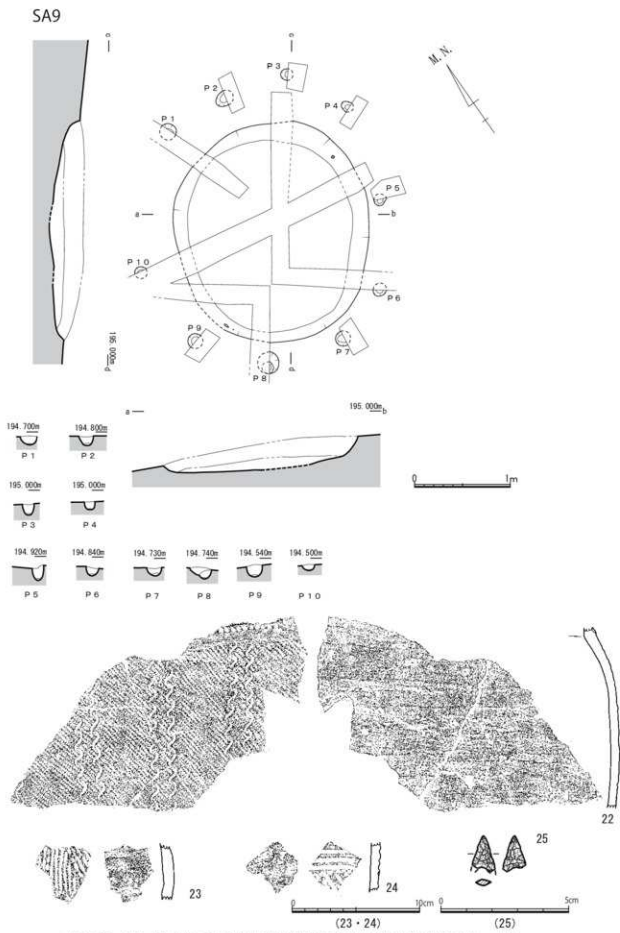


第14図 SA 8出土遺物実測図② (S=1/3・1/2)

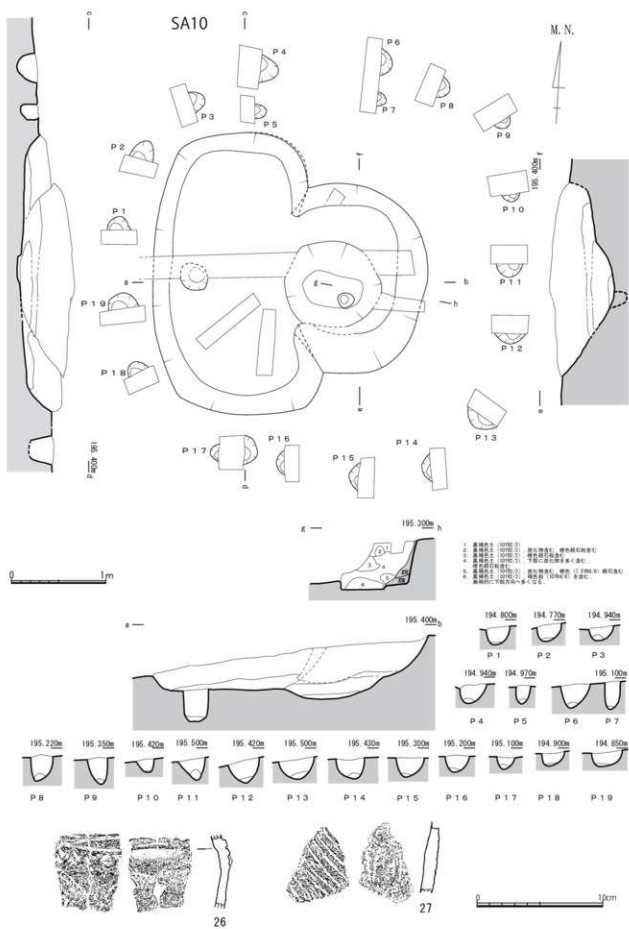
SA12は自然層より黒味がやや強い部分が円形に広がっていたため、検出した。検出面は第VII層である。遺構底面付近から磨石が1点出土している。平面プランは隅丸方形に近い円形で規模約2.3×2.2m、検出面からの深さは30cmを測る。

## (2) 土坑

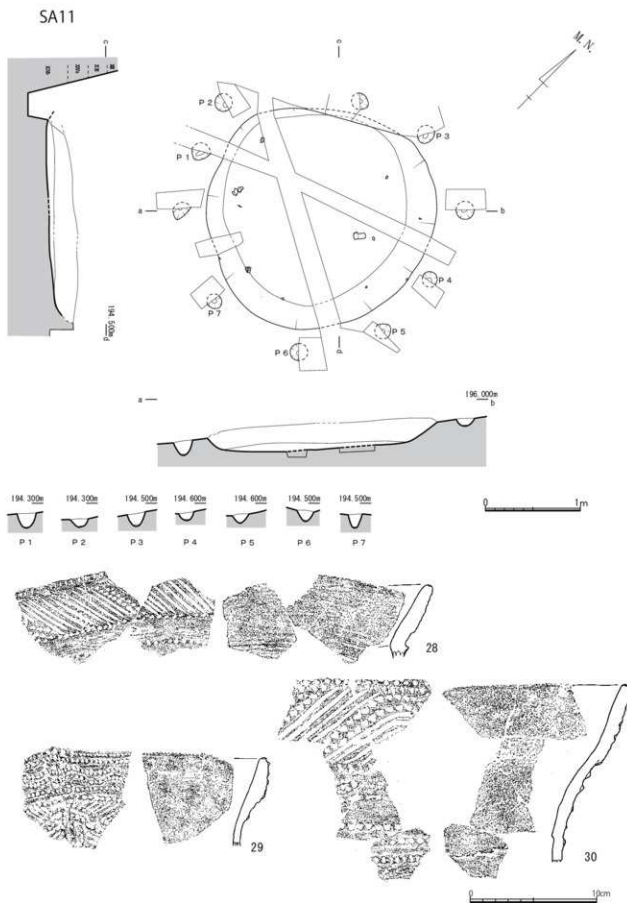
SC30は1区に位置し、緩やかな傾斜地に所在する。平面形は隅丸三角形状で、長軸約1.8m、短軸約1.5m、



第 15 図 アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図⑤及び出土遺物実測図 (S-1/40・1/3)

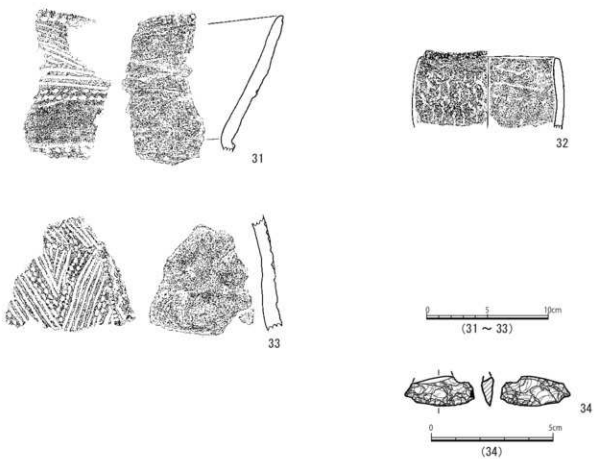


第 16 図 アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図⑥及び出土遺物実測図 (S-1/40・1/3)

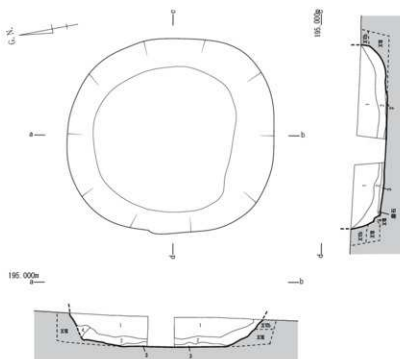


第 17 図 アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図⑦及び出土遺物実測図 (S=1/40・1/3)

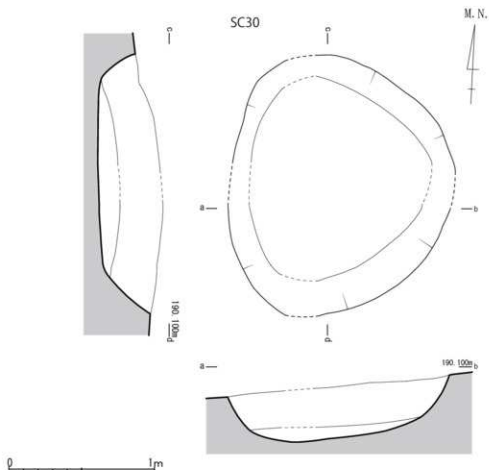




SA12



第 18 図 アカホヤ火山灰下位検出 SA 実測図®及び出土遺物実測図 (S=1/40・1/3)



第19図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図①(S=1/30)

検出面からの深さは約35cmである。遺物は検出面で土器が出土している。また検出時から炭化物が多く確認されており、埋土中にも炭化物が含まれていた。

SC31は1区で検出されている。遺構の残存状況が悪く、詳細は不明であるが、平面形は楕円状、規模は長軸約1.7m、短軸約1.3m程と思われる。検出面からの深さは約50cmである。出土した遺物は土器、礫である。

SC32は1区で検出されている。平面形は楕円状で、上端の長軸1.4m、短軸1.2mである。平格式土器(35)が出土しており、SC32で出土した破片と、1～3区及び4区で出土した破片が接合している。

SC33は2区で検出されている。平面形は楕円状で、上端は長軸約1.3m、短軸約1.0m、深さ約30cmである。土坑内からは土器小片や礫が出土している。SC33から出土した炭化物3点の放射性炭素年代測定の結果、1点目は広葉樹のcalBC6500-6423、2点目はコナラ属でcalBC6465-6397、3点目はcalBC6591-6465の年代が出ている(第3章第2節及び第3節)。

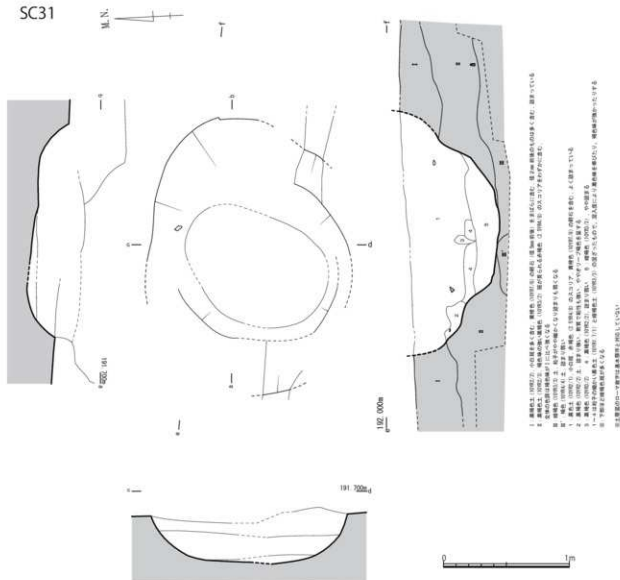
SC34は2区で検出されている。埋土中から土器が出土している。土坑は円形状で、規模は約1.1×1.1m、深さは約35cm程である。SC34から出土した炭化物はツバキ属で、calBC7046-6756の放射性炭素年代測定の結果が出ている(第3章第2節)。

SC35は2区に位置しており、SC34の南東で検出されている。SC34と切りあっているが、前後関係は不明である。埋土は黒褐色土である。平面形は楕円形で、規模は約0.5×0.4m程と思われる。

SC36は1区で検出されている。平面形は楕円形で、長軸0.7m、短軸0.5m、検出面からの深さ15cmである。

SC37は1区で検出されている。平面形は楕円形で、長軸約0.65m、短軸約0.5mである。埋土中の上層にて焼礫が出土している。

SC31



第20図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図② (S=1/30)

SC38は1区で検出されている。平面形は楕円状で、規模は長軸1.2m、短軸0.8mである。遺構の底面付近にて礫が2点出土している。そのうち1点は砂岩製の板石で、直立して出土している。

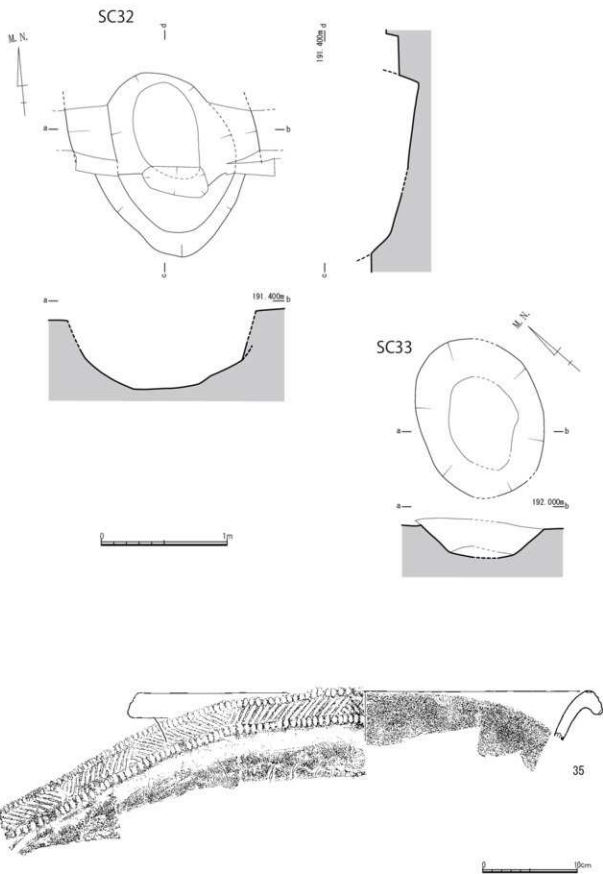
SC39は1区に位置している。平面形は楕円状で長軸1.2m、短軸0.95m、検出面からの深さは約20cmである。

SC40は1区で検出されており、平面形は円形である。規模は約 $0.75 \times 0.75$ mである。検出面からの深さは約5cmである。遺構の底面付近にて炭化物が出土している。

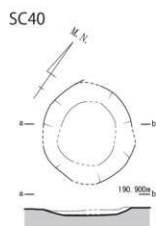
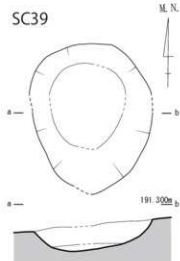
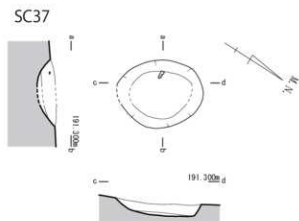
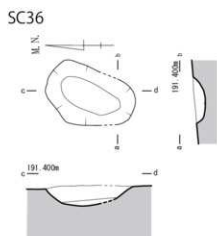
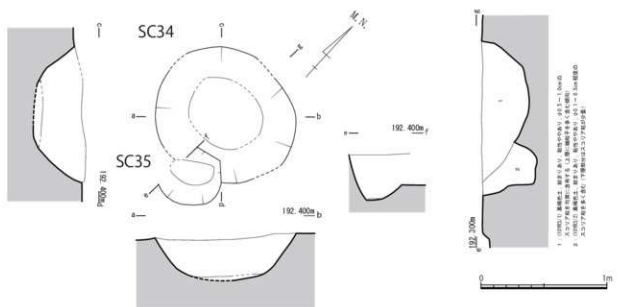
SC41は1区に位置しており、SC40と隣接している。平面形は円形状である。検出面に焼礫が出土している。規模は長軸1.1m、短軸1.0mである。遺構の深さは検出面から約10cmで、底面の中央がやや盛り上がった形をしている。出土遺物は土器胴部片(36)で突帯を持ち、燃糸を施す。

SC42は1区に位置している。ベルト断面で確認し、検出された。規模は残存で長軸1.0m、短軸0.55mである。埋土の中層で、礫が出土している。

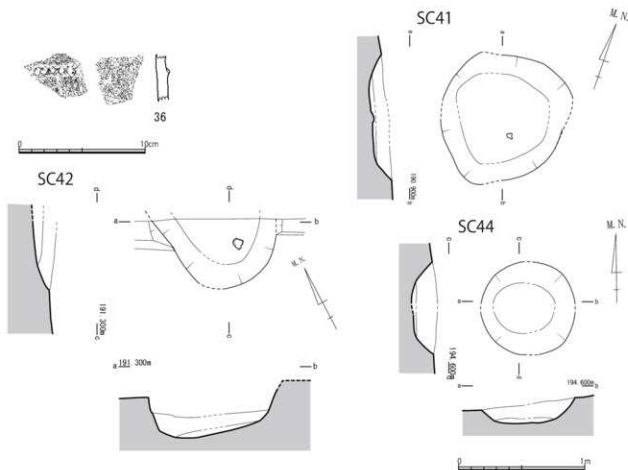
SC43は4区で検出されており、土坑2基(東側A、西側B)の切り合いであることが確認された。SC43Aの平面形は楕円状であり、規模は残存で約 $1.5 \times 1.0$ mである。SC43Bは隅丸方形状で、規模は残存で約 $2.45 \times 1.3$ mである。土坑内の埋土の中層を中心に土器や礫が出土している。(37)は横位の押型文を施す口縁部片である。口縁端部は摩耗している。(38)は平府式土器で沈線を



第 21 図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図③及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/4)



第22図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図④ (S-1/30)



第23図 アカホヤ火山灰下位検出 SC 実測図⑤及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

施す。(39)は姫島産黒曜石、(40)はチャート、(41)は安山岩製の鎌形鏃である。(42)は黒曜石、(43)は姫島産黒曜石製の凹基鏃、(44)はチャート製の石鏃未製品である。

SC44は4区の北東隅で検出されている。平面形は円形で、規模は $0.75 \times 0.7\text{m}$ を測る。検出面からの深さは約15cmである。

### (3) 集石遺構

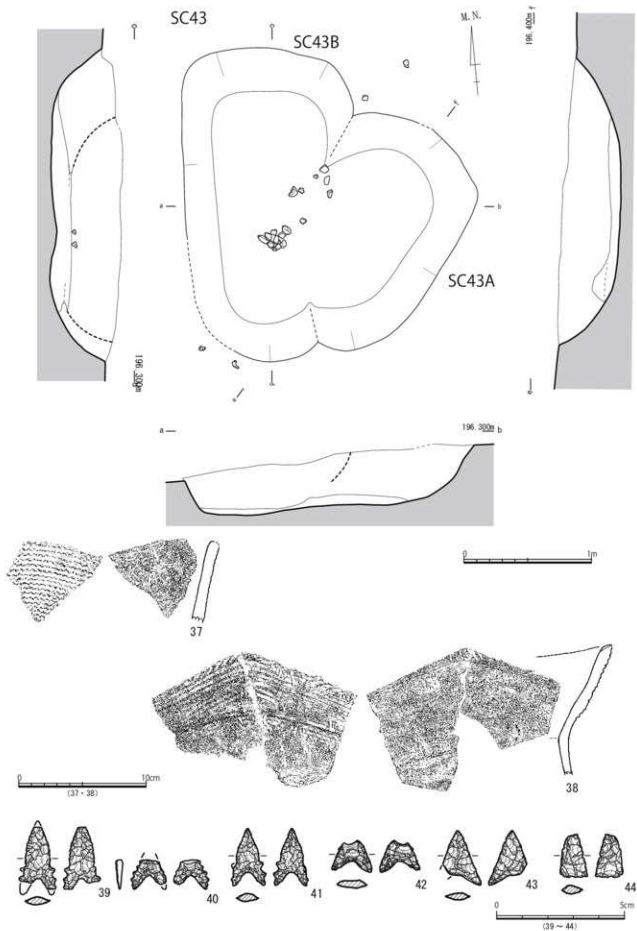
SI1は1区で検出されている。礫の検出は円形状で約 $0.2 \times 0.2\text{m}$ の範囲である。下層は花卉状に配石が配置されていた。掘り込みはごく浅く、配石の深さと殆ど同じである。遺物は土器の細片が出土している。

SI2は1区で検出されている。礫の検出範囲は約 $0.2 \times 0.1\text{m}$ である。掘り込みは約 $0.25 \times 0.2\text{m}$ 、検出面からの深さは約5cmである。断面形は半円状である。遺物は土器の細片が出土している。

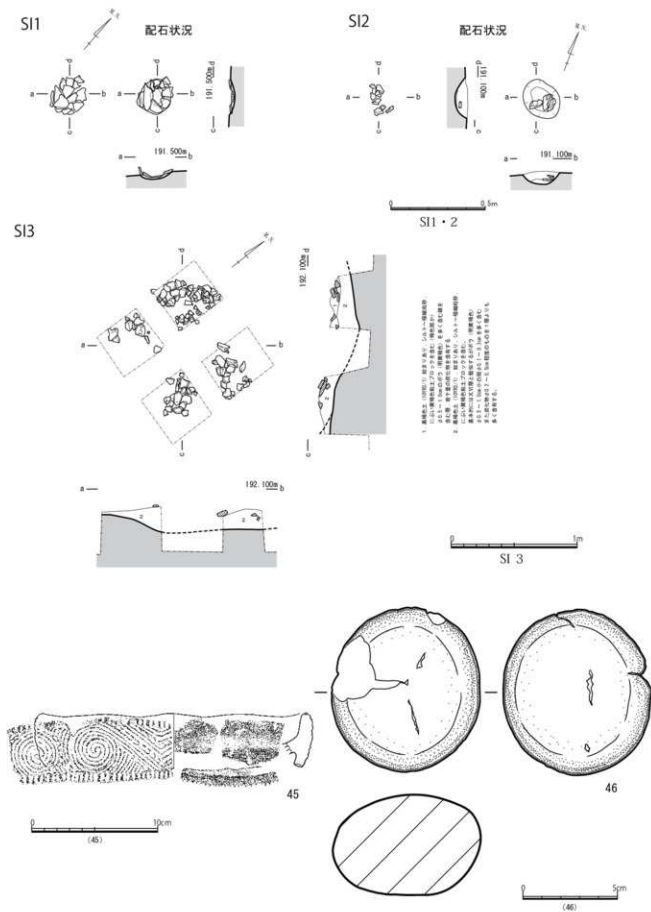
SI3は1区に位置している。トレンチャーによる攪乱を受けているが、残存している部分で、礫の検出範囲は約 $1.1 \times 1.1\text{m}$ である。平面形は円形と推定される。礫の検出面と殆ど同じレベルで、平椀式土器(45)が出土している。沈線と連点の文様を施しており、沈線は渦巻状である。また遺構内で使用されていた磨石(46)と遺構外から出土した破片が接合している。また埋土中から炭化物も確認されている。

SI5は1区で検出されている。礫の分布範囲は約 $1.4 \times 1.0\text{m}$ で掘り込みは持たず平面的に分布している。平面形は楕円状である。遺物は貝殻腹縁刺突文を施す土器の細片が出土している。

SI6は2区で検出されている。礫の範囲は約 $1.7 \times 1.5\text{m}$ で、円形状に礫が密集している。掘り込みは約 $1.35 \times 1.35\text{m}$ 、検出面からの深さ15cmである。断面形は皿状、遺構の下端は、旧地形に沿うように西側に寄っている。土器が出土しており、竹管と思われる施文工具で文様を施す平椀式土器(47)やナデ調整のものが確認できる。また埋土中では炭化物も確認されている。また、遺構内から出土した炭化物を5点

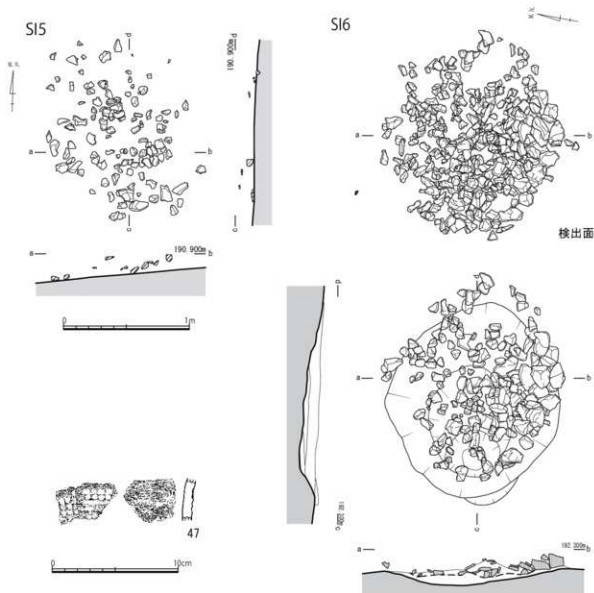


第24図 アカホヤ火山灰下位検出SC実測図<sup>⑥</sup>及び出土遺物実測図 (S-1/30・1/3)



第 25 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図①及び出土遺物実測図





第26図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図②及び出土遺物実測図(S=1/30・1/3)

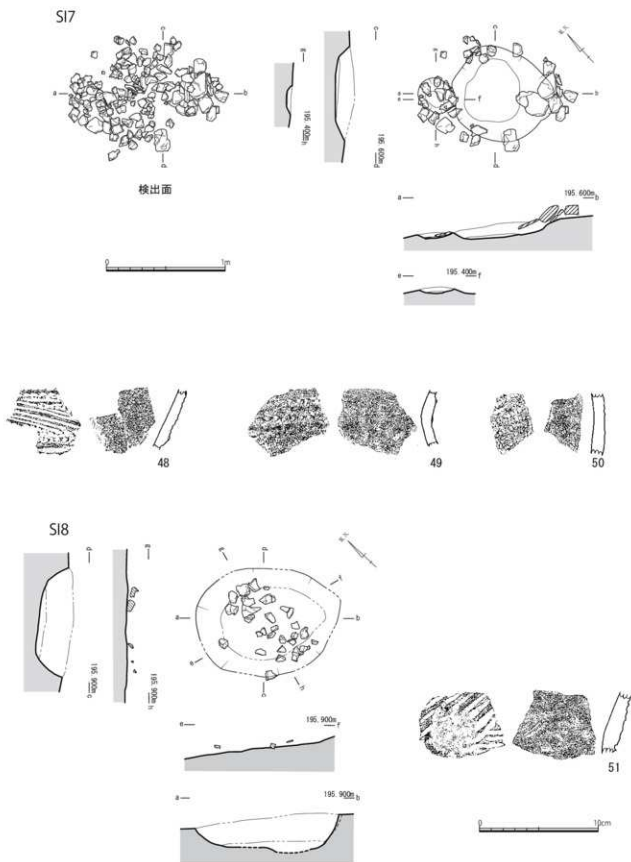
を放射性炭素年代測定にかけた結果、1点目はコナラ属クヌギ節で calBC7063-6901、2点目は広葉樹で calBC7043-6768、3点目はカヤで、calBC7040-6725、4点目はコナラ属コナラ節で calBC7059-6900、5点目もコナラ属コナラ節 aIBC7066-7022 が確率が高い年代となっている（第3章第2節及び第3節）。

SI7は4区の北西隅に位置している。礫の分布は約1.2×1.0mの範囲である。掘り込みの規模は約0.85×0.75mと0.3×0.3mの2箇所あり、2基の集石遺構が隣接していると考えられる。断面形は皿状である。遺物は、平格式土器（48・49）や、集石遺構の北東側から縄文を施文する胴部片（50）が出土している。

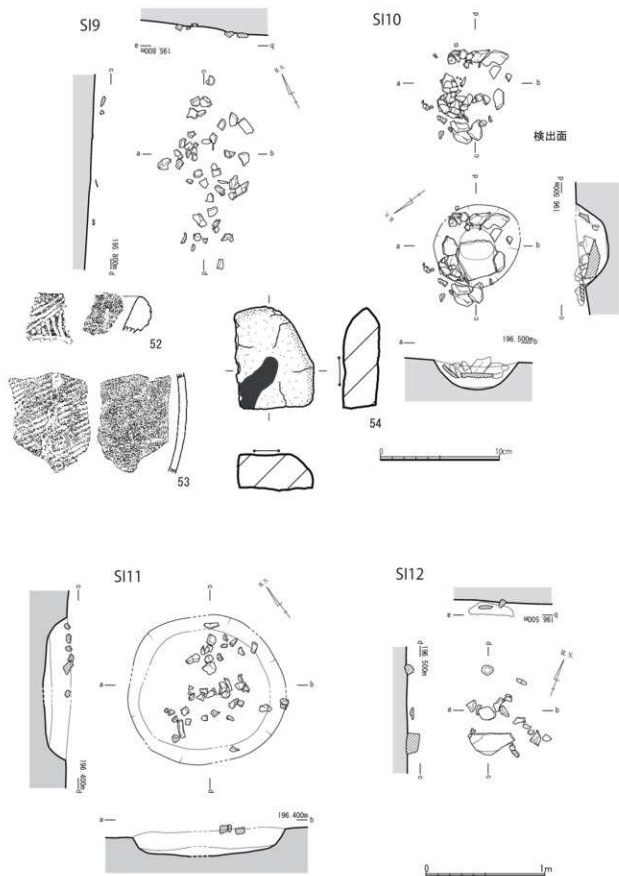
SI8は4区の北西隅に位置している。0.9×0.6mの範囲に礫が密集している。掘り込みの規模は1.2×0.6m、検出面からの深さは深さ25cmである。遺物は沈線を施す土器小片（51）や底部片が確認されている。

SI9は4区の北西隅で検出されている。礫の範囲は1.3×1.0mである。掘り込みは確認されていない。遺物は平格式土器を伴っており、沈線と連点文を施す口縁部（52）や複数の小片が出土している。結節縄文施す胴部片（53）は集石遺構の中央部付近の検出面で出土している。また使用されていた礫の中には転用されたと思われる凹み石（54）が含まれていた。

SI10は4区の北側に位置している。約0.55×0.5mの範囲に礫が密集しており、検出された。掘り込みの規模は0.8×0.75m、検出面からの深さは25cmを測る。遺構底面の中央付近には約30cm四方の平石が

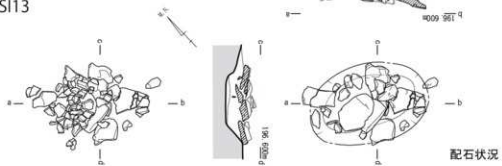


第 27 図 アカホヤ火山灰下位検出 S1 実測図③及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

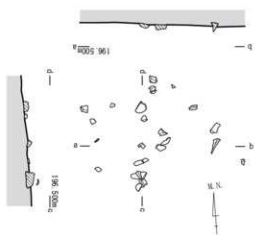


第28図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図④及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

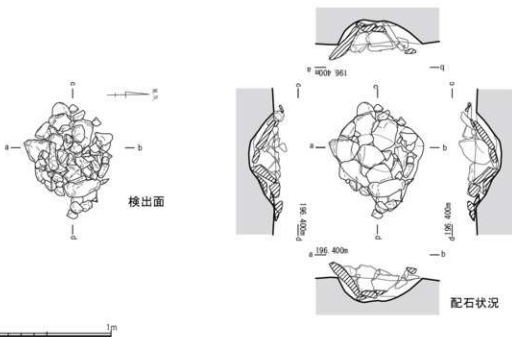
SI13



SI14

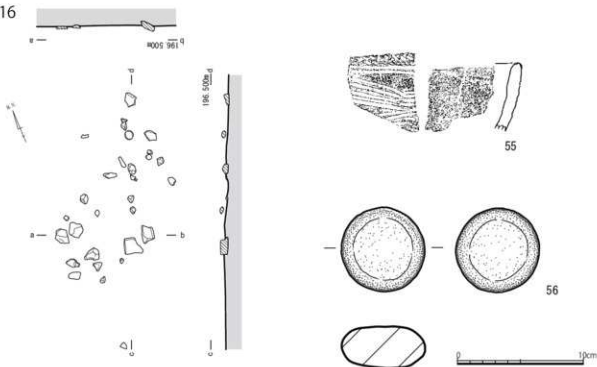


SI15

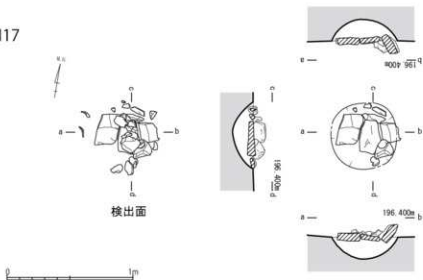


第29図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑤ (S=1/30)

SI16



SI17



第30図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑥及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

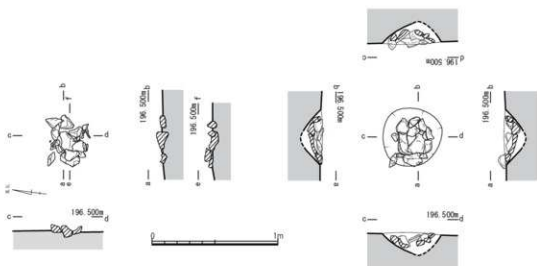
配石されている。配石の下部からは炭化物が多数検出され、埋土は軟質であった。

SI11は4区の北側に位置する。礫の範囲は約 $1.0 \times 0.6\text{m}$ である。掘り込みは約 $1.3 \times 1.3\text{m}$ で礫の検出よりも広範である。検出面からの深さは20cm、断面形は皿状である。

SI12は4区の北側に位置する。 $0.7 \times 0.6\text{m}$ の範囲に礫が検出されており、中央付近から軽石も出土している。また、検出面から少量の炭化物も確認されている。遺物はナデ調整を施す土器が出土している。

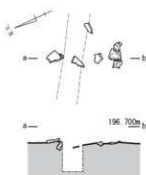
SI13は4区の北側で検出されている。礫の範囲は $0.9 \times 0.7\text{m}$ である。下部に長軸約20～30cm、厚さ

SI18

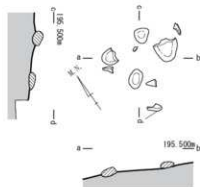


57

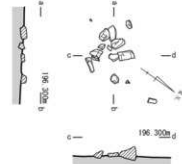
SI19



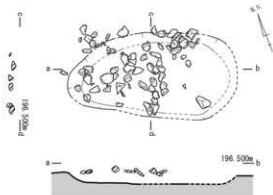
SI20



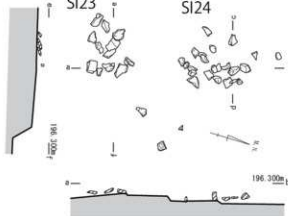
SI21



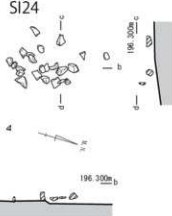
SI22



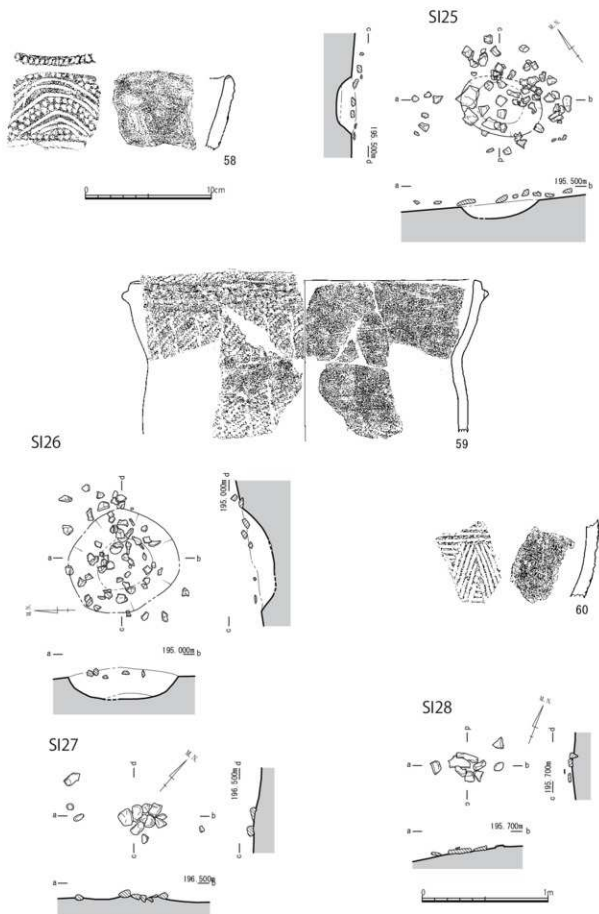
SI23



SI24

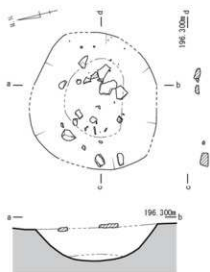


第31図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑦及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

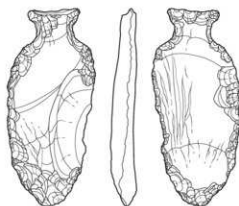
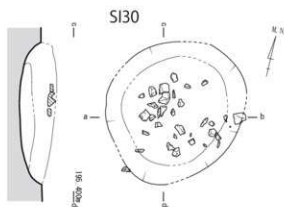


第32図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑧及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

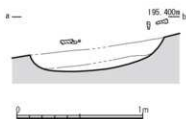
SI29



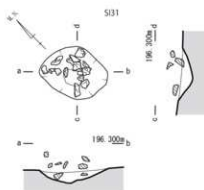
0 10cm



0 5cm

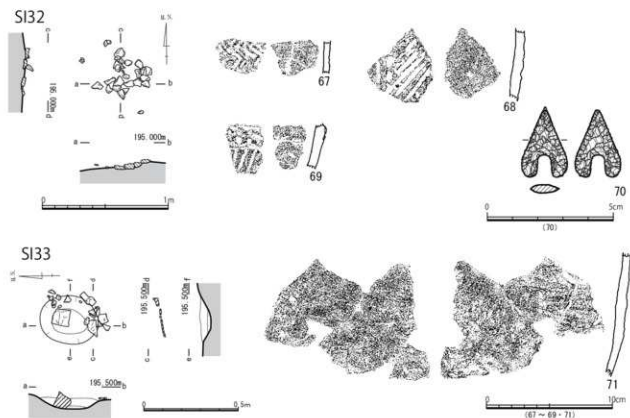


66



第33図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑨及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)





第34図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/20・1/3)

約5～8cmの平石を配石としている。周囲からは炭化物も出土している。礫の下層の埋土は褐色を呈する。掘り込みの規模は0.9×0.7mと礫の範囲と概ね重なり、平面形は楕円形である。

SI14は4区の北隅に位置している。礫の密集範囲は1.0×0.9mである。SI14に伴う掘り込みは確認されていない。

SI15は4区の北隅から検出されている。調査区壁にかかっていたため、範囲を広げ、全面検出している。約0.9×0.7mが礫の検出範囲である。検出面はⅩⅢ層中である。下層には配石があり、掘り込みの形状に沿うよう配置されている。掘り込みは礫の範囲と概ね重なる。結節縄文を施す平格式土器の細片やナデ調整の土器2点が出土している。

SI16は4区の北東隅に位置している。1.5×0.9mの範囲が礫の検出範囲である。掘り込みは確認されていない。検出面では沈線を施す口縁部(55)を含む土器小片や磨石(56)、軽石が出土している。また炭化物も確認されている。

SI17は4区の北東隅に位置している。礫の検出範囲は0.55×0.5m、掘り込みは0.55×0.55mの円形である。下層には配石があり、0.25×0.15mの同規模の平石2点を平行に配置している。

SI18は4区の北東側に位置している。調査区東のり面近くに位置し、ⅩⅢ層とⅩⅣ層の層理面から5cm程下で検出される。0.4×0.3mの範囲に礫が検出されている。掘り込みを持ち、0.4×0.4m、深さ18cmを測り、断面形状は円錐状である。壁面全面に礫を配石している。遺物は沈線を施す底部片(57)が出土している。

SI19は4区の北側で検出されている。礫が0.6×0.4mの範囲に密集していた。掘り込みは確認されていない。

SI20は4区の北側で検出されている。円礫が0.7×0.6mの範囲で検出された。掘り込みは検出されていない。

SI21は4区の北東側で検出されている。0.5×0.5mの範囲で礫が密集していた。中心部から炭化物が検出された。掘り込みは持たない。

SI22は4区の中央部付近に位置する。礫の範囲は1.2×0.8mの範囲に密集している。1.4×0.7mの楕円形の掘り込みを持ち、礫は掘り込みの南東側には残存していなかった。土器の細片が出土している。

SI23は4区の北東隅に位置しており、SI24と隣接して検出された。0.4×0.3mの範囲に礫が検出された。掘り込みは持たない。

SI24は0.8×0.4mで礫が密集していた。掘り込みは検出されていない。南東側で(58)が出土している。沈線と連点を施する平格式土器の口縁部である。口唇部のキザミを持つ。

SI25は4区の北西隅で検出されており、SA10の上面に位置している。1.3×1.0mの範囲で礫が多く検出された。0.6×0.5mの楕円形の掘り込みを持つ。掘り込み外から遺物の多くは出土している。(59)は炒見式土器の口縁～胴部片で、口縁端の下部に突帯を持ち、突帯の下より結節縄文を施す。また口唇部には縄文を施す。

SI26は4区の北西隅に位置する。礫の検出範囲は1.0×1.0mで掘り込みは0.8×0.8mの円形状である。検出面の東側で(60)が出土している。沈線と刺突を施す平格式土器の胴部片である。その他ナデ調整を施す土器の小片も出土していた。

SI27は4区の北側で検出された。0.4×0.3mの範囲に礫が密集しており、周囲からはナデ調整を施す土器小片や磨石が出土していた。

SI28は4区の西側で検出された。0.6×0.4mの範囲で礫が検出されており、含まれる礫は板石が多い。検出面の東側では磨石が出土していた。周囲からは炭化物も出土している。

SI29は4区の北側に位置する。0.8×0.6mの範囲に礫が分布し、1.1×1.0mの掘り込みを持つ。掘り込みの中央部付近は暗褐色土で、礫が下層からも連続して検出されている。また周囲からは安山岩の剥片や土器小片、炭化物が多数出土していた。(61)は縦位の山形押型文を施す胴部片である。(62・63)は平格式土器で、口縁部と胴部片である。(64)は沈線を施す胴部片である。(65)は安山岩製の石匙である。

SI30は4区の北西で検出された。1.0×0.8mの範囲に礫が分布する。礫の殆どは検出面で確認された。115×110cmの円形状の掘り込みを持つ。出土遺物は押型文土器(66)で縦位の山形押型文を施す。

SI31は4区の北東で検出されている。0.4×0.4mの範囲に礫が密集する。掘り込みは0.55×0.5mの楕円状である。埋土は暗褐色土(7.5YR2/3)、自然層は暗褐色(10YR3/3)である。

SI32は4区西側で検出された。礫の分布範囲は0.6×0.5mであり、掘り込みは持たない。周囲から土器小片12点が出土している。(67)は押型文土器で縦位の押型を施す。(68)は平格式土器の胴部片で、沈線と刺突を施す。集石遺構の検出面中央付近で出土している。(69)は微高する突帯を持つ小片で、沈線を施す。(70)はチャート製の鍬形鏝である。

SI33は4区西で検出された。1.4×0.7mの範囲に礫が密集している。掘り込みは確認されていない。集石遺構の範囲内からは土器も複数出土していた。(71)はナデ調整を施す胴部片で検出面の、南側の礫のまわりの中から出土している。

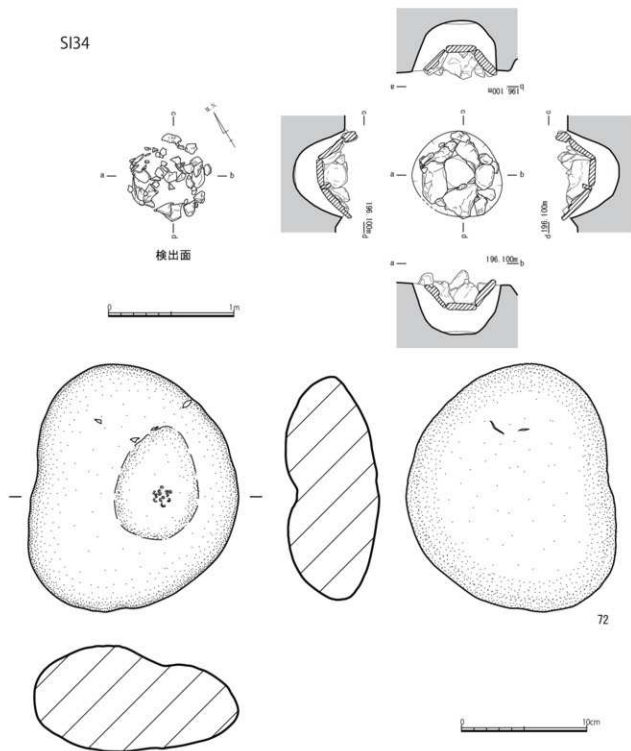
SI34は4区の東側に位置している。配石の検出状況は見通し断面図を作成している。検出面は0.7×0.65mの範囲で礫を検出している。配石は中央部に板石に配置し、掘り込みに沿って板石を花卉状に配置する。掘り込みは0.7×0.65mであり、礫の範囲と重なるが、深さは40cmで配石の配置より深くなっている。集石遺構の埋土は、検出面から配石までで上層と下層に分けることができ、上層は暗褐色土(7.5YR2/3)で、やや詰まりがある。下層の埋土は黒褐色土(7.5YR2/2)で粒子が細かく粘性がある。出土土器は底部の細片がある。また、(72)は凹み石で集石遺構の下層で出土している。

SI35は4区の東で検出されている。礫は0.65×0.6mの範囲で密集している。炭化物が多く出土している。

1.0×0.95mの楕円状の掘り込みを持つ。礫の含有は少ない。掘り込みは2段掘りになっている。また土器小片が数点出土しており、(73)は手向山式土器の口縁部である。

SI36は4区の中央部付近に位置している。1.1×0.55mの範囲が礫の検出範囲である。掘り込みは

SI34



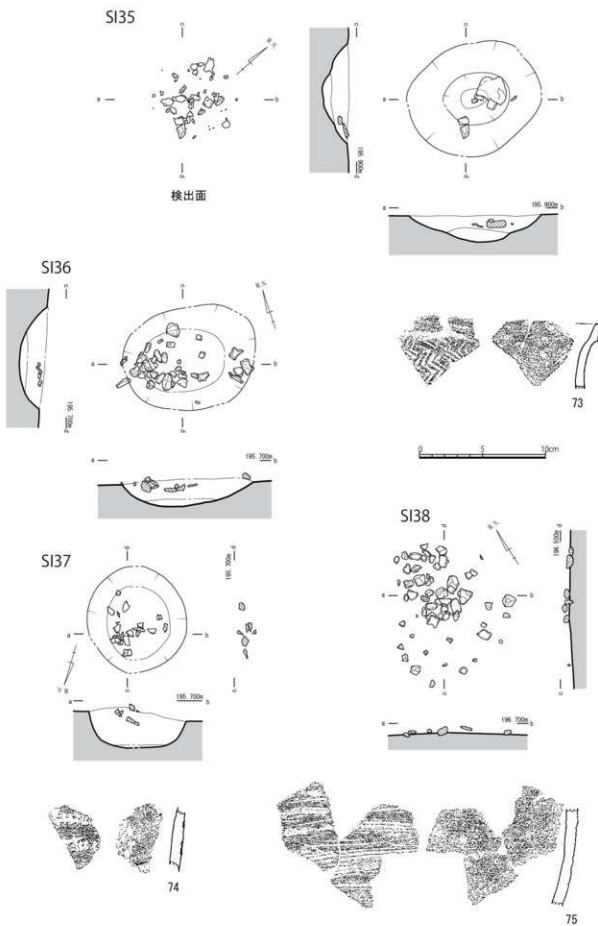
第35図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図①及び出土遺物実測図(S=1/30・1/3)

1.1 × 0.8mである。ナデ調整を施す土器小片が2点出土している。

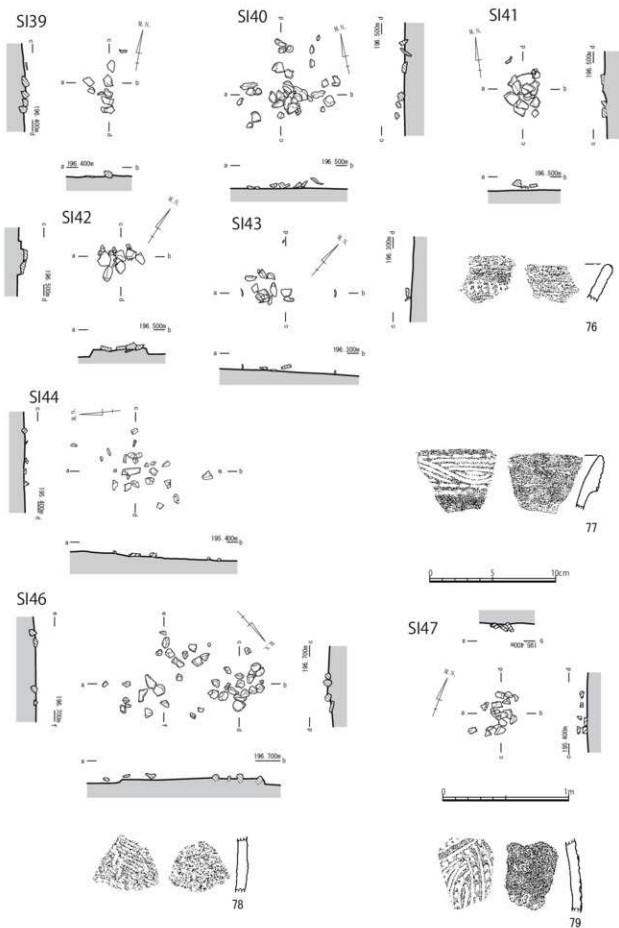
SI37は4区北西に位置している。0.55 × 0.5mで礫が検出されている。掘り込みは0.85 × 0.85mの円形状である。集石遺構内の礫2点が接合している。

SI38は4区の東側で検出されている。0.6 × 0.5mの範囲に礫が密集する。掘り込みは持たない。集石遺構南西側の周囲からは貝殻縁刺突を持つ小片(74)や貝殻条痕を施す胴部片(75)、底部片やナデ調整の土器片が出土している。

SI39は4区の北側に位置している。0.35 × 0.25mの範囲で礫が密集している。掘り込みは持たない。土

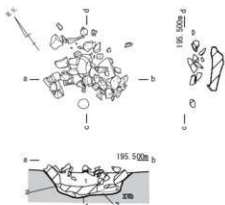


第36図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図及び出土遺物実測図(S=1/30・1/3)



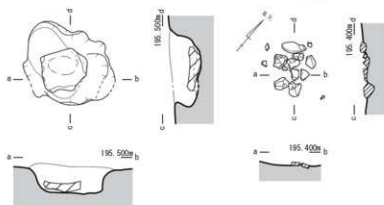
第 37 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図③及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

SI48



1. 黒褐色シルト質土 (7.5YR2/2) 2cm以下の褐色軽石を含む、0.5cmの白色粘土を含む。
2. 黒褐色シルト質土 (10YR2/2) 2cm以下の褐色軽石を含む、0.5cmの白色粘土を含む。
3. 黒褐色粘質土 (5YR2/2) 10 cm以下の褐色軽石を含む、白色粘土を含む。
4. 暗褐色粘質質土 (7.5YR2/2) 1cm以下の砂粒を含む、1cm以下の褐色軽石を含む、白色粘土を含む。やや粘性が高い。

SI49



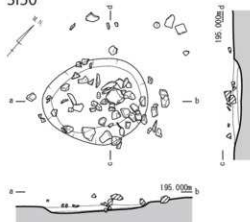
80

SI50

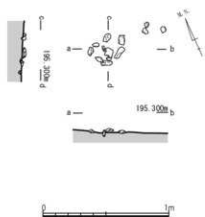


81

0 10cm

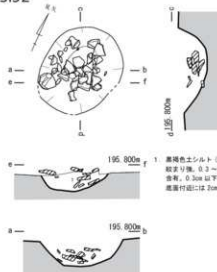


SI51



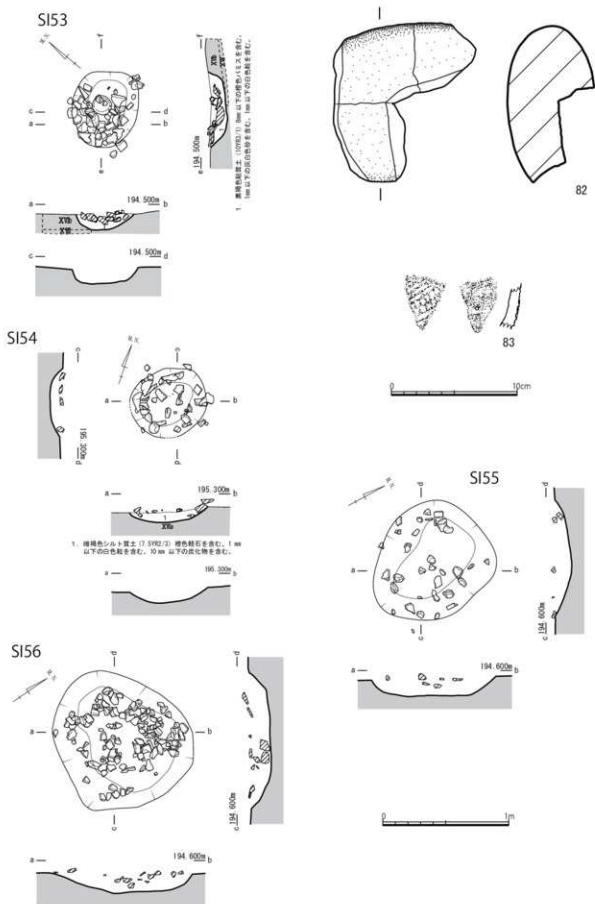
0 1m

SI52



1. 黒褐色シルト (10YR2/1) エー種細砂粒、粘まり強。0.2 ~ 1cmの黄褐色粘土を多く含有。0.3cm以下の炭化物を含む。また、産層付近には2cm以下の小礫を少量含有。

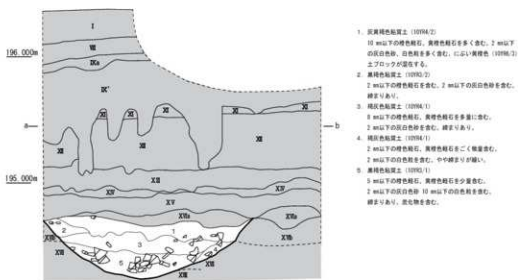
第38図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)



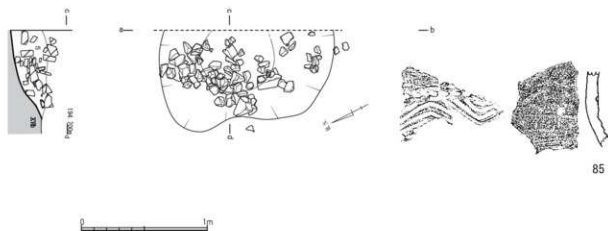
第 39 図 アカホヤ火山灰下位検出 SI 実測図<sup>②</sup>及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)



SI58



1. 灰黄褐色粘質土 (10194-2)  
10 m以下の褐色粘石、黄褐色粘石を多く含む。2 m以下の灰白色粘石、白色粘石を多く含む。濃い黄褐色 (10194-2) 土ブロックが混在する。
2. 黄褐色粘質土 (10193-2)  
2 m以下の褐色粘石を含む。2 m以下の灰白色粘石を含む。粘まりあり。
3. 褐色粘質土 (10194-1)  
8 m以下の褐色粘石、黄褐色粘石を多量に含む。2 m以下の灰白色粘石を含む。粘まりあり。
4. 褐色粘質土 (10194-1)  
2 m以下の褐色粘石、黄褐色粘石を多く含む。2 m以下の白色粘石を含む。やや粘まりが強い。
5. 黄褐色粘質土 (10193-1)  
5 m以下の褐色粘石、黄褐色粘石を少量含む。2 m以下の灰白色粘石 10 m以下の白色粘石を含む。粘まりあり。炭化物を含む。



第40図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑧及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

器小片が出土している。

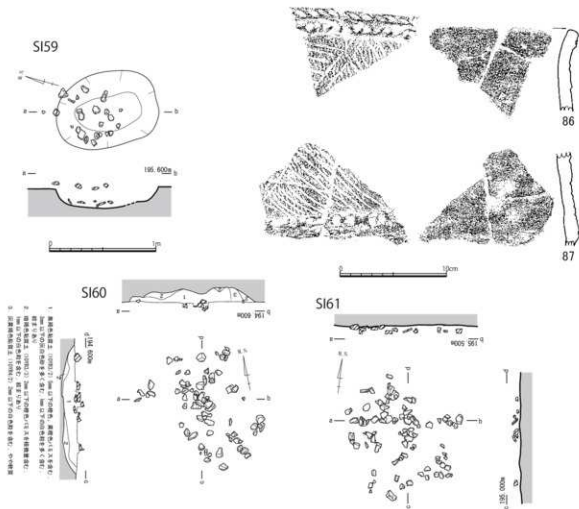
SI140は4区東で検出された。0.75 × 0.7mが礫の分布範囲である。掘り込みはない。

SI141は4区東に位置している。0.35 × 0.25mの範囲に礫が密集する。掘り込みは持たず、礫の分布は平面的である。(76)は貝殻復縁刺突を持つ口縁部片である。

SI142は4区東で検出された。0.4 × 0.3mの範囲で礫が検出されている。掘り込みは持たない。

SI143は0.4 × 0.25mの範囲で礫が分布していた。掘り込みは確認されていない。ナデ調整の土器小片、結節縄文を施す土器細片が出土している。





第41図 アカホヤ火山灰下位検出SI実測図⑦及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)

SI44は検出面での礫の分布は $0.6 \times 0.45\text{m}$ を測る。礫の分布は平面的で、掘り込みは確認できなかった。集石遺構を構成する礫は砂岩製の角礫であった。(77)は平椀式土器の口縁部である。沈線と刺突文を施す。

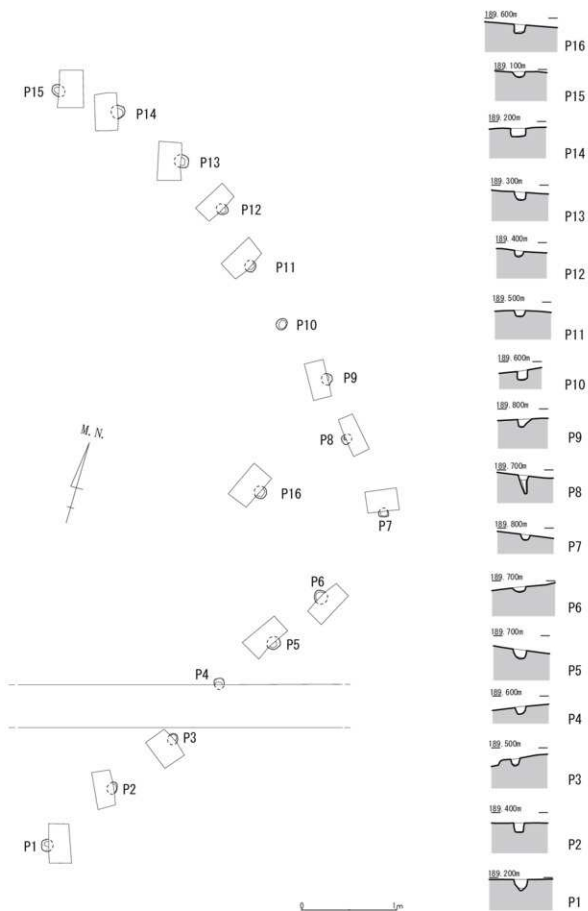
SI46は4区の東側に位置する。 $1.3 \times 0.6\text{m}$ の範囲に礫が密集する。ナデ調整を施す土器細片が出土している。

SI47は4区の中央南で検出された。 $0.4 \times 0.3\text{m}$ の範囲で礫が分布する。SI47の上部でも礫が多く検出されていた。掘り込みは持たない。集石遺構の上面より平椀式土器の小片が出土しており、(78)は結節縄文を持つ胴部片、(79)は沈線と連点を持つ胴部片である。

SI48は4区中央付近の南側で検出された。検出面の礫の分布は $0.66 \times 0.66\text{m}$ を測る。礫が多く密集しており、検出面で掘り込みを確認できた。掘り込みは不定形で $0.7 \times 0.55\text{m}$ で検出面からの深さ20cmを測る。掘り込みの底面には板石の配石を持つ。

SI49は検出面の礫の分布は $0.22 \times 0.22\text{m}$ を測る小規模な集石である。4区の中央付近のやや南側に位置する。礫の分布は平面的であり、掘り込みは持たない。構成礫はほぼ角礫であるが、一部円礫を含む。(80)は結節縄文を持つ胴部片である。

SI50は4区の南西側で検出された。検出面の礫の分布は $1.13 \times 0.8\text{m}$ を測る。掘り込みは $0.85 \times 0.7\text{m}$ で深さ6cmを測る。埋土と地山は色度に違いはほとんど見られず、埋土中に礫もほとんど含まない。土器が4点出土している。集石遺構の中央付近で(81)が出土している。結節縄文を持つ底部に近い破片である。また集石遺構の構成礫は多くが角礫だったが、磨石が含まれており、二次利用されていると思われる。炭化物を多く含む。



第 42 図 アカホヤ火山灰下位検出 SQ1 実測図 (S=1/40)

SI51は4区の南東側に位置する。検出面の礫の分布は $0.3 \times 0.25\text{m}$ を測る小規模な集石である。礫は角礫がほとんどで検出面のみの分布であった。半載して確認したが、掘り込みは持たない。

SI52は4区の中央付近で検出された。検出面の礫の分布範囲は $0.5 \times 0.25\text{m}$ を測る。検出面では数点の礫と堀込らしき黒褐色土が確認できた。サブトレンチを入れて確認したところ、下層から礫が出土し、土層断面で掘り込みを持つことが分かった。掘り込みは $0.73 \times 0.6\text{m}$ で深さ20cmである。集石遺構の構成礫は砂岩製で、特に下層から出土したものは赤変し脆弱であった。底部の土器小片が出土している

SI53は4区の南西に位置している。礫の分布は検出面で $0.65 \times 0.6\text{m}$ を測る。検出時、周囲では礫の散布は少なかつたが、掘り込みと思われるプランを平面で検出した。精査したところ、北東側以外は推定掘り込みと礫の分布が重なっていた。北東側も、下層は他方向と同程度の礫が検出された。集石遺構の構成礫は砂岩製で、ほとんどが角礫であったが、円礫が3破片出土し、それらは接合できた(82)。また配石を持ち、完形の円礫が出土した。掘り込みは不明瞭だが、埋土に炭化物が混じり、礫を取り除いた面で精査したところ、灰黄褐色土面が出てきたため、その範囲を掘り込みとしている。掘り込みは $0.6 \times 0.5\text{m}$ で深さ13cmを測る。また土器細片が出土している。

SI54は4区の中央付近南で確認された。検出面の礫の分布は $0.65 \times 0.55\text{m}$ を測り、不明瞭であるが、掘り込みらしき範囲を平面で確認できた。下層に礫はほとんどない。 $0.61 \times 0.55\text{m}$ で深さ7cmの浅い掘り込みを持つ。集石遺構の礫の下位より、沈線と刺突を施す平格式土器の胴部片(83)が出土した。また炭化物も採取されている。

SI55は4区の南東に位置している。検出面の礫の分布は $0.9 \times 0.83\text{m}$ で、礫のまとまりはあまり認められない。平面で掘り込みと思われる範囲を確認した。半載したところ、断面でも掘り込みを確認し、また少量の礫が出土した。掘り込みは $1.0 \times 0.9\text{m}$ で深さ14cmである。埋土は地山よりやや黒味が強い。

SI56は4区の南東で検出された。上層から礫が多く出土し、数回精査したところ、平面で掘り込みプランを確認できたため、検出した。検出面の礫の分布は $1.08 \times 0.92\text{m}$ で、完掘後の掘り込みは $1.15 \times 1.05\text{m}$ 、深さ15cmである。埋土は極細の粒子で、埋土中の礫は検出面よりも大きめのものを含んでいた。

SI57は4区の中央付近の南西側で確認された。上層の礫がほとんど残存しておらず、検出面と配石の出土レベルがほぼ一致している。配石は砂岩製の板石である。配石と礫の間から平格式の小片が出土している。掘り込みは残存している範囲で、 $0.45 \times 0.38\text{m}$ で深さ10cmである。(84)は平格式土器の口縁部片で、沈線を持つ。また穿孔を持つ。

SI58は4区の南東で検出された。上層から礫が多く出土し、数回精査したところ、平面で掘り込みプランを確認できたため、検出した。調査区壁付近で検出されたため、一部平面のプランの確認まで至らなかった。礫の分布は検出面で $0.65\text{m} \times 1.25\text{m}$ を測り、北西側は分布がまばらであった。(85)は平格式土器の頸部片で沈線と刺突文を施す。

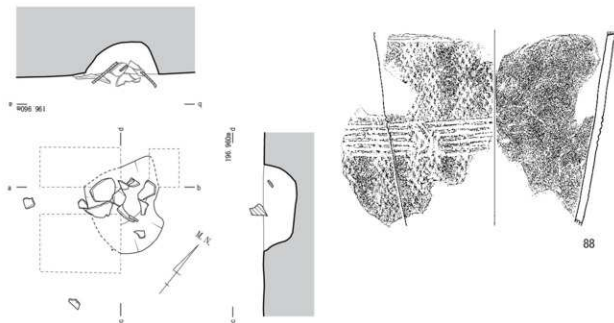
SI59は4区の中央付近のやや南側で検出された。検出面の礫はまばらで、 $0.9 \times 0.67\text{m}$ を測る。掘り込み内の礫は少ないが、底面付近にやや礫が集中していた。掘り込みの範囲は残存している範囲で、 $1.2 \times 0.9\text{m}$ で深さ17cmである。同一個体と思われる手向山式土器の口縁部片(86)と胴部片(87)が出土しており、縦位の山形押型文の上から沈線を施す。

#### (4) その他遺構

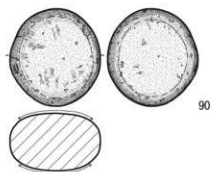
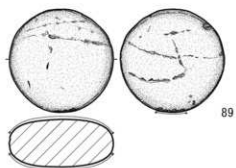
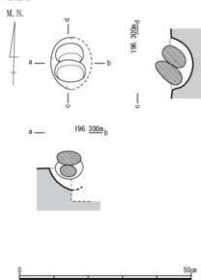
アカホヤ火山灰下位で検出された上述以外の遺構をここで記載する。遺構の性格別に報告しており、報告順はSQ1(ピット列)、SZ7・8(埋納遺構)、SZ11・16(礫出土状況)、SZ4・5・9・10・12・13・14・15(遺物出土状況)である。本項では対応する図版を本文中に記載している。

SQ1(第42図)はピット列である。1区の調査区西壁付近で検出された。16箇所のピットが検出されており、P16以外は方形に並んでいる。各ピットは径10～15cm、検出面からの深さ5～12cmを測る。ピッ

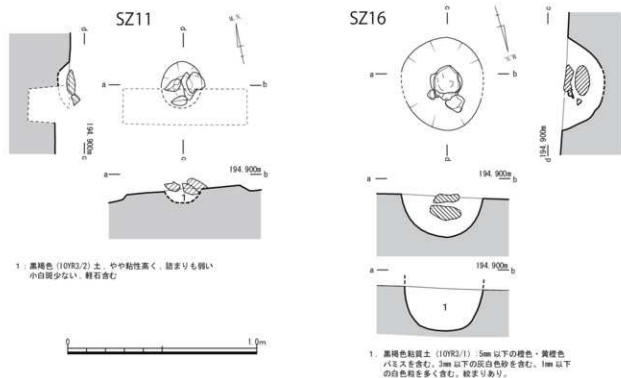
SZ7



SZ8



第 43 図 アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図①及び出土遺物実測図 (S=1/10・1/3)



第44図 アカホヤ火山灰下位検出SZ実測図② (S=1/20)

ト間の距離は60～90cmで、P1からP15までの距離は7.8mである。

SZ7 (第43図) は土器埋納遺構で、沈線と燃糸文を持つ塞ノ神式土器(88)が花卉状に出土した。4区の北側に位置しており、SA6・7の南で検出された。丘陵頂部からやや下る地点に位置している。埋納土坑は不定形で0.5×0.45mを測る。

SZ8 (第43図) は磨石埋納遺構である。4区の西側斜面で検出されている。磨石2点を並べて、地表面に対し50°の角度で斜めに配置している。埋納土坑は楕円状で長軸は0.15m、短軸は残存箇所から推測すると0.1m程度と思われる。SZ8から10cmほど北側からは甌式土器と思われる土器小片が出土している。(89)が南側で埋納されていた磨石である。霧島山系花崗岩で、表裏面とも擦りがあり、また鼓打痕を持つ。(90)は北側で埋納されていた磨石で、同じく霧島山系花崗岩製で、表裏面とも擦りがあり、擦痕が見られる。

SZ11 (第44図) は4区の西側斜面に位置する。径22cm、深さ7cmの土坑に4点の礫を配置する。4点の礫のうち、3点は接合された。

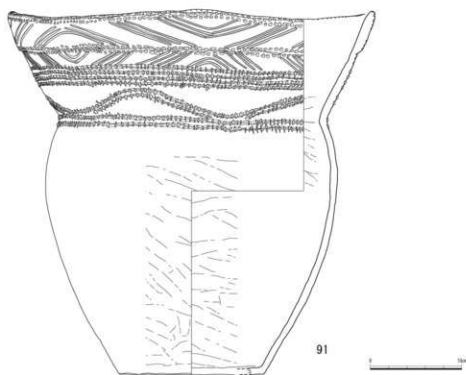
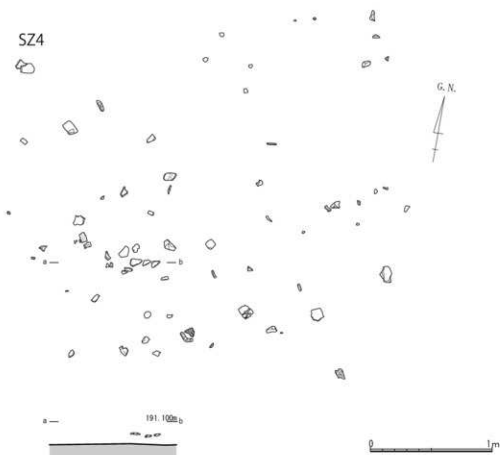
SZ16 (第44図) は4区の中央付近の南向き斜面で検出された。0.5×0.45mの楕円状の土坑を持つが、自然層との境界は不明瞭であった。楕円形の礫の上に礫3点が出土している。

SZ4 (第45図) は平椀式土器(91)の出土状況である。口縁部から頸部までは沈線と連点を持ち、胴部はナデ調整を施す。口縁部の肥厚帯の下部はキザミ目突帯が巡る。

SZ5 (第47図) は塞ノ神式土器の遺物出土状況である。4区の北側の調査区壁側で確認されている。出土した層はXIII層直下の、黒褐色土(10YR2/3)に黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/3)のブロックが混在し、強い絞まりがある層であった。(92)はSZ5で出土したナデ調整を施す口縁部～胴部片である。(93)は遺構図面では図化はされていないがSZ5の上面から出土しており、同一個体の底部と思われる。

SZ9 (第48図) は4区の東側で検出された。丘陵の頂部からやや下った地点に位置している。苫浜式土器(94)の遺物出土状況である。波状口縁で、微隆するキザミ目突帯を持つ。貝殻条痕で内外面を調整している。

SZ10は平椀式土器の壺(95)の遺物出土状況である。出土状況の実測図は作成していない。出土した平

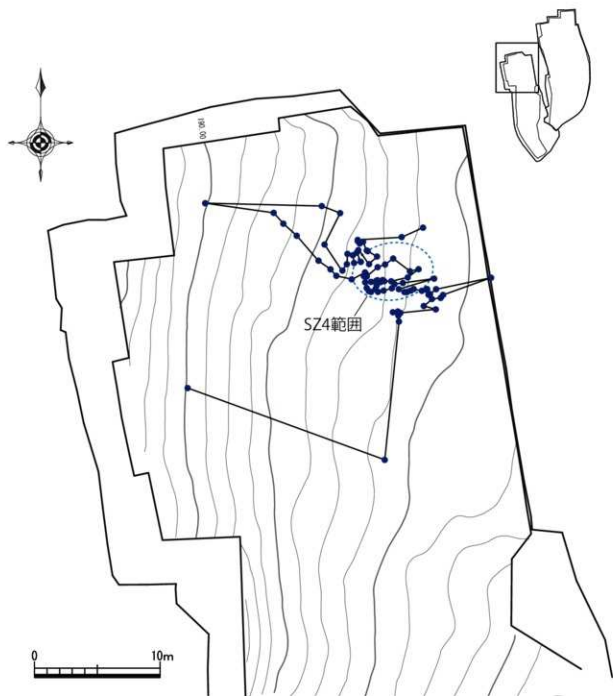


第45図 アカホヤ火山灰下位検出SZ実測図③及び出土遺物実測図(S=1/30・1/4)

柶式土器は沈線と連点を施し、胴部下半はナデ調整を施す。調査区北西隅で検出された。

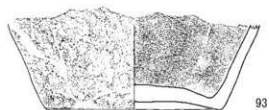
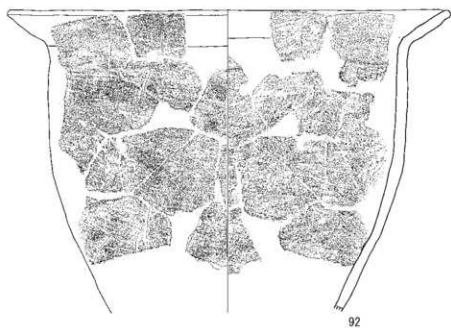
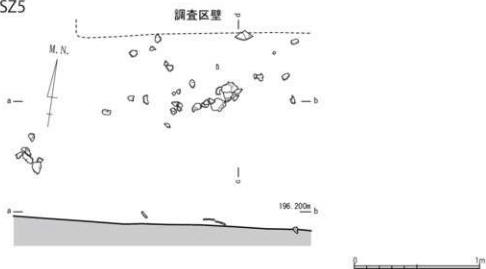
SZ12 (第49図)は塞ノ神式土器(96)の遺物出土状況である。頸部～胴部片で、摺糸文を施文したのち、頸部と胴部の中心付近に横方向に沈線を巡らせている。土器外面にススの付着がある。放射性炭素年代測定の結果はcalBC6776-6639となっている(第3章第3節)。J-4グリッドの北西にて検出されている。外面が地表面に接する形で出土しており、接合された破片はSZ12で出土したもののみであった。

SZ13(第50図)は塞ノ神式土器(97)の遺物出土状況である。土器外面が地表面側を向き、口縁部が花卉状に開いた状態で出土している。殆どの破片がSZ13内で出土している。口縁上部は斜め格子状に沈線を施し、口縁下部は貝殻腹縁刺突を施す。胴部は沈線を施文しているが、沈線区画は持たない。出土地点は4区東側で、丘陵頂部よりやや下った位置である。



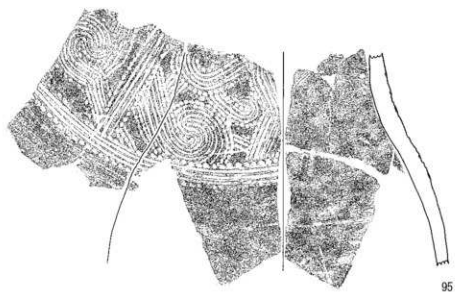
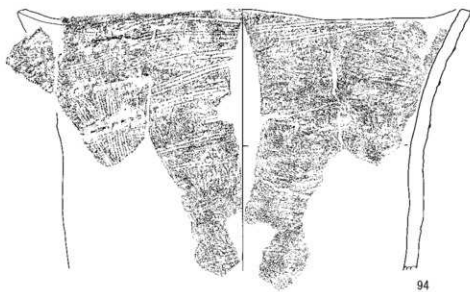
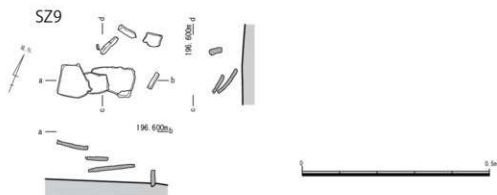
第46図 SZ4出土平柶式土器 接合状況(S=1/300)

SZ5

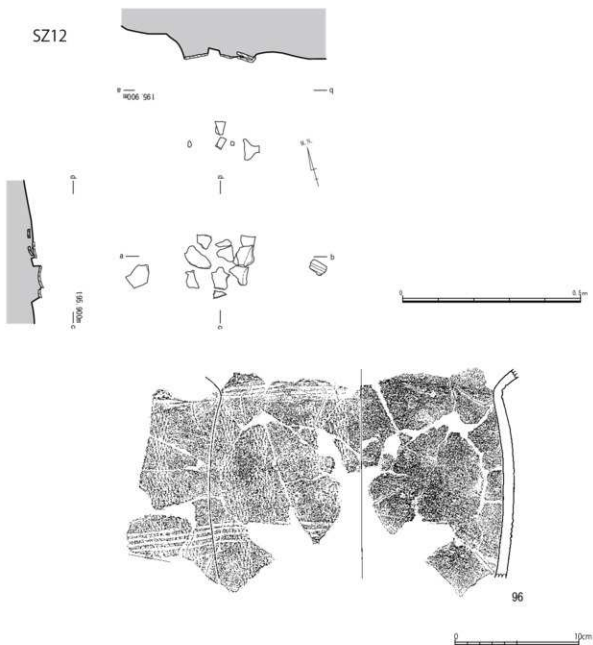


第47図 アカホヤ火山灰下位検出SZ実測図④及び出土遺物実測図(S=1/30・1/3)





第 48 図 アカホヤ火山灰下位検出 SZ 実測図⑤及び出土遺物実測図 (S=1/10・1/3)

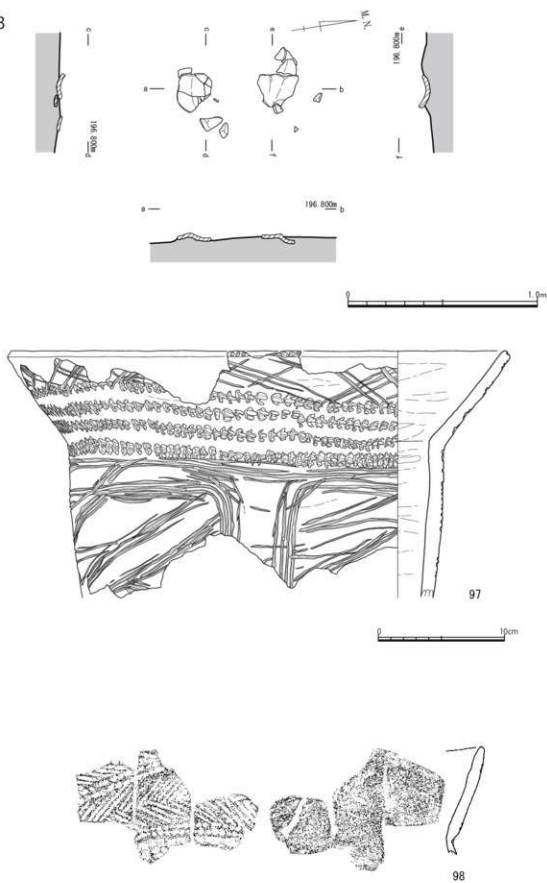


第49図 アカホヤ火山灰下位検出SZ実測図⑥及び出土遺物実測図(S=1/10・1/3)

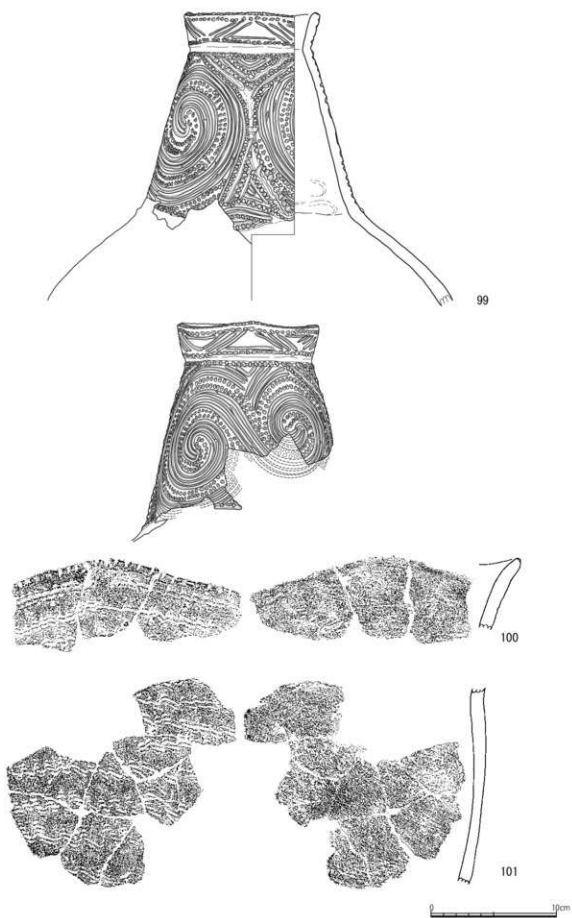
SZ14は遺物出土状況で、平椀式土器の口縁部(98)や壺(99)が出土している。出土地点は4区の中央付近から南東側に向けた位置である。出土状況の実測図は作成していない。(98)は口縁部の端部に短沈線を施し、その下部に連点を施文する。その下に沈線を羽状に施文している。(99)は口縁部に連点と沈線を持ち、頸部では渦巻状に沈線と連点を施文している。胴部はナデ調整を施す。頸部付近の内面には指オサエが認められる。

SZ15は苫浜式土器(100・101)の出土状況である。接合はされていないが、同一個体と思われる。隆線状に貝殻施文を施す。口縁端部にキザミを持ち波状口縁である。出土地点は4区の丘陵頂部から南方向に向けた地点である。出土状況図面の作成はないが、土器の破片10点程がまとまって出土しており、接合された破片の殆どはSZ15で出土している。

SZ13



第50図 アカホヤ火山灰下位検出SZ実測図⑦及び出土遺物実測図(S-1/20・1/3)



第 51 図 アカホヤ火山灰下位検出 SZ14・15 出土物実測図 (S=1/3)



製鋼番号	部材	部位	出土地点	法 盤			色 調		胎 土					文様及び動物		備 考	
				器高(mm)	口径(mm)	口径(mm)	外 面	内 面	石 瓦	灰 石	黒 胎	赤 色 胎	粉 紅	外 面	内 面		
																	器底(mm)
57	深鉢	底部	S118	50	-	-	褐色(2.5YR6/6)	明赤褐色(2.5YR5/6)					○	○	沈物	ナデ	
58	深鉢	口縁部	S124	58	-	-	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)					○	○	ナギミ 刺突 沈物	ナデ	波状口縁
59	深鉢	口縁~胴部	S125	125	-	28	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)					○	○	ナデ 突帯 刺突 刺突	ナデ	
60	深鉢	胴部	S126	-	-	-	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい褐色(5YR6/4)					○	○	刺突 沈物	ナデ	
61	深鉢	胴部	S129	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	黄褐色(2.5YR3/1)					○	○	押型	ナデ	
62	深鉢	口縁部	S129	34	-	-	にぶい褐色(7.5YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)					○	○	沈物 刺突 突帯	ナデ	波状口縁
63	深鉢	胴部	S129	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)					○	○	刺突 沈物	ナデ	
64	深鉢	胴部	S129	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR5/3)	灰黄褐色(10YR5/2)					○	○	沈物	ナデ	
66	深鉢	胴部	S130	-	-	-	浅黄褐色(2.5Y7/4)	黄褐色(2.5Y4/1)					○	○	山型押型	飯むさえ	
67	深鉢	胴部	S130	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)					○	○	縦色山型押型	ナデ	
68	深鉢	胴部	S132	49	-	-	赤褐色(5YR4/6)	にぶい褐色(7.5YR5/4)					○		沈物 刺突	ナデ	
69	深鉢	口縁部	S132	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR5/3)	灰黄褐色(10YR5/3)					○	○	ナギミ目突帯 沈物	ナデ	
71	深鉢	胴部	S133	-	-	-	褐色(5YR6/6)	にぶい褐色(5YR5/4)					○		ナデ	ナデ	
73	深鉢	口縁部	S11	51	-	-	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)					○	○	山型押型	ナデ	
74	深鉢	胴部	S138	-	-	-	赤褐色(10YR3/2)	赤褐色(2.5Y3/1)					○	○	刺突 (工具) ナデ	ナデ	
75	深鉢	胴部	S138	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR6/4)					○	○	貝殻染付	ナデ	
76	深鉢	口縁部	S141	30	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい褐色(7.5YR6/4)					○	○	ナギミ ナデ 貝殻染付	ナデ	
77	深鉢	口縁部	S144	45	-	-	灰黄褐色(10YR6/2)	灰黄褐色(10YR6/2)					○	○	ナデ 沈物 刺突	ナデ	
78	深鉢	胴部	S147	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR5/4)					○	○	結縷文	ナデ	
79	深鉢	胴部	S147	-	-	-	にぶい褐色(5YR6/4)	にぶい赤褐色(7.5YR5/2)					○	○	ナデ 沈物 刺突	ナデ	
80	深鉢	胴部	S149	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)					○		縄文 結縷文	ナデ	
81	深鉢	底部	S150	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/4)	褐色(2.5YR6/6)					○	○	結縷文	(1.3cm) ナデ	
83	深鉢		S154	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6/3)	にぶい褐色(7.5YR6/4)					○	○	沈物 刺突	ナデ	
84	深鉢	口縁部	S157	68	-	-	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい赤褐色(2.5YR5/4)					○	○	ナギミ 沈物 ナデ 突帯	ナデ	波状口縁 穿孔で突帯がつまれている
85	深鉢	胴部	S158	-	-	-	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)					○	○	沈物 刺突	(工具) ナデ	
86	深鉢	口縁部	S159	67	-	-	褐色(7.5YR4/2)	黄褐色(7.5YR6/2)					○	○	刺突 沈物 (縦色) 山型押型	ナデ	
87	深鉢	胴部	S159	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい褐色(7.5YR5/3)					○	○	山型押型 沈物 貝殻染付	ナデ	
88	深鉢	胴部	S27	153	-	-	にぶい黄褐色(10YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/4)					○	○	沈物 器糸	ナデ	
91	深鉢	口縁~胴部	S24 SC31	399	160	395	褐色(5YR7/6)	にぶい黄褐色(10YR7/4)					○	○	ナギミ 底部 沈物 ナギミ目突帯	ナデ	
92	深鉢	口縁~胴部	S25	23.5	-	35	褐色(7.5YR7/6)	にぶい黄褐色(10YR6/4)					○	○	ナデ	ナデ	外面口縁~胴部にスス付着
93	深鉢	底部	S25上	65	128	-	褐色(7.5YR7/6)	にぶい黄褐色(10YR6/4)					○	○	ナデ	ナデ	93の底部か
94	深鉢	口縁~胴部	S29	205	-	352	褐色(5YR6/6)	にぶい褐色(7.5YR6/4)					○	○	貝殻染付 ナデ	ナデ	波状口縁
95	壺	胴~胴部	S210	-	-	-	褐色(5YR6/6)	5YR6/6)					○	○	沈物 刺突 ナデ	ナデ	スス付着
96	深鉢	胴部~胴部	S212	-	-	-	にぶい褐色(7.5YR7/3)	にぶい褐色(10YR6/3)					○	○	沈物 器糸	ナデ	スス付着
97	深鉢	口縁~胴部	S213	195	-	300	にぶい褐色(7.5YR7/4)	にぶい黄褐色(10YR7/3)					○	○	漆点 沈物 貝殻染付刺突 ナデ	ナデ	
98	深鉢	口縁~胴部	S214	87	-	-	にぶい褐色(7.5YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR6/3)					○	○	ナギミ 沈物 刺突 ナデ	ナデ	
99	壺	口縁~胴部	S214	229	-	99	浅黄褐色(2.5Y7/3)	にぶい黄褐色(10YR7/3)					○	○	漆点 (刺突) 沈物 ナギミ目突帯 器糸 ナデ	ナデ	飯むさえ
100	深鉢	口縁部	S215	-	-	-	にぶい黄褐色(10YR6)	にぶい黄褐色(10YR6)					○	○	ナデ ナギミ 貝殻 (浅灰)	ナデ	
101	深鉢	胴部	S215	-	-	-	にぶい赤褐色(5YR5/4)	にぶい褐色(7.5YR6/4)					○	○	貝殻染付	ナデ	

第2表 遺構内出土石器観察表

図録番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
20	SA8	磨石		9.10	10.20	3.50	431	
21	SA8	石鏃		9.50	9.60	3.20	352.0	
25	SA9	石鏃	宍山岩	(1.40)	(0.90)	0.30	(0.3)	
34	SA11	石鏃	針尾山産黒曜石	(1.20)	2.85	0.50	(1.6)	
39	SC43	石鏃	姫島産黒曜石	(2.45)	1.45	0.35	(0.8)	
40	SC43	石鏃	チャート	(1.15)	1.37	0.27	(0.2)	
41	SC43	石鏃	宍山岩	2.25	1.35	0.35	(0.7)	
42	SC43	石鏃	黒曜石	1.25	1.60	0.30	0.4	
43	SC43	石鏃	姫島産黒曜石	2.15	(1.50)	0.35	(0.7)	
44	SC43	石鏃未製品	チャート	1.70	1.10	0.40	0.7	
46	SE3	磨石		8.90	7.80	5.30	500.0	又ス付着
54	SE9	凹み石		(6.30)	(8.40)	(2.90)	253.0	
56	SI16	磨石	砂岩	6.80	6.70	3.30	207.0	
65	SI29	石鏃	宍山岩	7.85	3.50	1.00	28.8	
70	SI32	石鏃	チャート	(2.65)	1.80	0.35	(1.4)	
72	SI34			19.70	16.60	8.40	3100.0	
82	SI53	磨石	砂岩	11.20	12.50	6.70	897.0	
89	SZ8	磨石	瀬島山系花崗岩	9.00	9.10	4.15	530.6	顔打痕あり
90	SZ8	磨石	瀬島山系花崗岩	8.55	7.90	5.00	492.6	

## 2 遺物について

### (1) 出土土器について

土器は1区と4区を中心に出土している。1区では標高192～193m、4区では標高195～196mにやや分布のまとまりがある。土器の出土した層位は1区は黒色土～暗褐色土層（基本層序XI～XVI層）、2区及び3区では暗褐色土層（基本層序XVI層）、4区においては黒色土～暗褐色土層である。下剥峰式、手向山式、妙見式、平格式、塞ノ神式などが出土しており、主体は平格式土器である。

#### 下剥峰式土器（102）

102は波状の短沈線文と横方向に巡る刺突文を持つ個体で、辻タイプに分類される。内面調整はナデ調整である。

#### 押型土器（103～105）

押型文を施す土器の一群である。

103は、精緻な縦位の山形押型文を施す胴部片である。104・105は外傾する口縁部片で、外面は縦位の山形押型文を施す。内面端部は櫛状文を施し、その下部には横位の山形押型文を施す。また穿孔を持つ。

#### 手向山式土器（106～118）

口縁部が外反し、胴部が張り、突帯を施す一群である。外面の施文は地文に押型文を施す。

106・107は口縁部片である。106は連続する突帯を持ち、口唇部にはキザミを持つ。107は口縁端部に刺突文、その下部は押型文を施す。108は胴部片で2条の突帯の下に山形押型文を持つ。109・110は山形押型文を施す胴部片である。111・112も胴部片で菱形の押型文を持つ。113は口縁～胴部片で、口縁部に3条のキザミ目突帯を持つ。3条目は突帯を弧状に貼付する。頸部からは地文に山形押型文を施し、その上から斜位に沈線を施す。114は胴部片で最大径部にキザミ目突帯を持つ。突帯の上部は山形押型文を地文に施した後に沈線を施文、下部は山形押型文を施す。115は頸部片で、外面は沈線を施し、摩耗しているが地文に押型文を施していると思われる。117は口縁部片で、縄文を施文する。118は口唇部に縄文による施文を持ち、その下に斜位に縄文を施す。内面は横方向にナデ調整を施す。

#### 妙見式土器（119～126）

口縁部～頸部に突帯を持ち、頸部から下に沈線や連点文を施す一群である。119～121は手向山式土器に近い特徴を持つ。119は口縁部に4条のキザミ目突帯を持ち、また口唇部にキザミを持つ。突帯貼付後、胴部に沈線を施す。内面はナデ調整である。120は口縁部片で、斜位の突帯にキザミを施す。121は胴部片で、胴部の最大径部にキザミ目突帯を施し、上部は沈線、下部には縄文を施す。

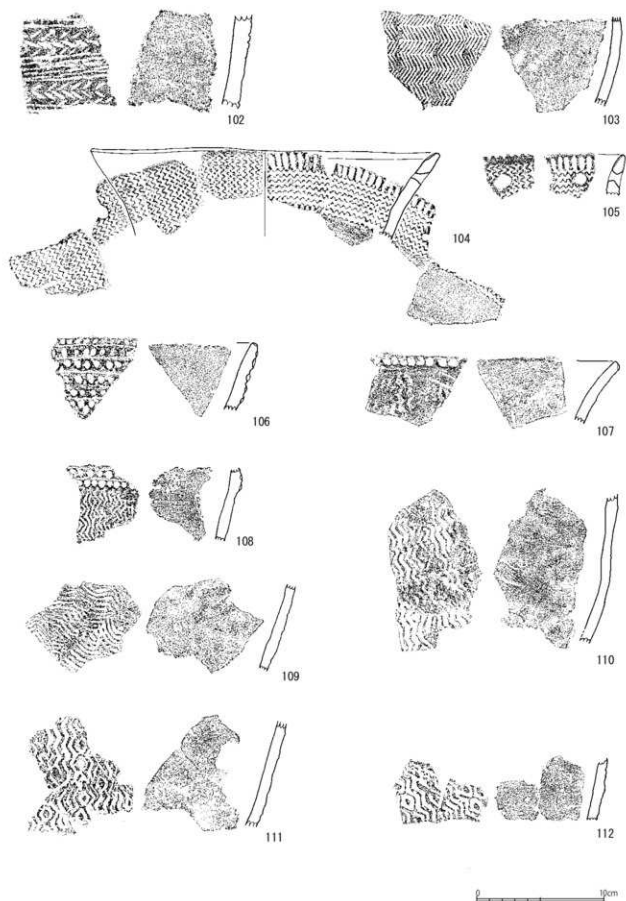
122は口縁端部のやや下にキザミ目突帯を施す。頸部まで結節縄文を施文している。突帯は結節縄文の施文後に貼付している。また口唇部にも縄文を施す。123はやや肥厚する口縁部に波状の短沈線を施す。内外面の調整はナデである。124は口縁端部の下部より3条のキザミ目突帯を施す。125は口縁部で、3条の突帯を持つ。突帯は断面形を三角形に成形している。126は頸～胴部片で、頸部にキザミ目突帯を持ち、胴部に結節縄文を施文する。内面はナデ調整である。胎土に金雲母を多く含む。

#### 平格式土器（127～257）

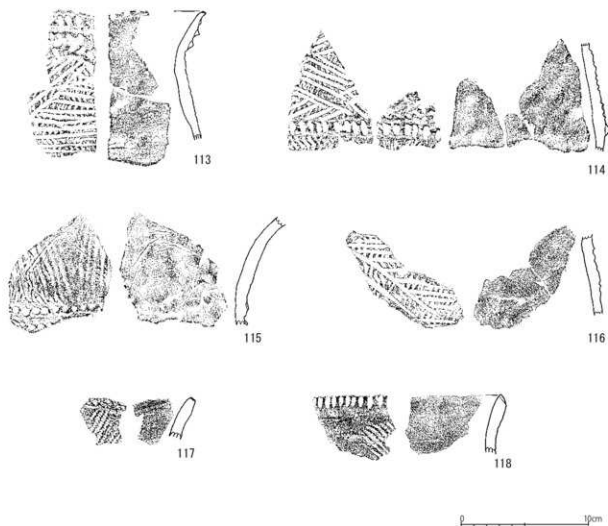
頸部で屈曲して外反、肥厚した口縁部を持ち、胴部は張る。卓越した沈線や結節縄文といった調整を施す一群である。

127～136は妙見式に近い特徴を持つ個体である。127は口縁部片で、口唇部に斜位方向に縄文を施文し、





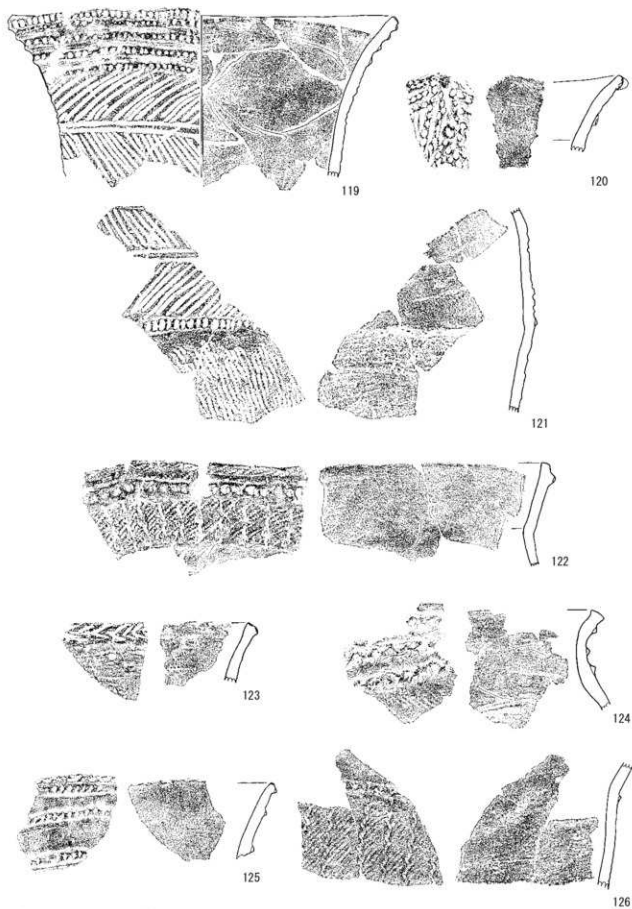
第52図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図① (S=1/3)



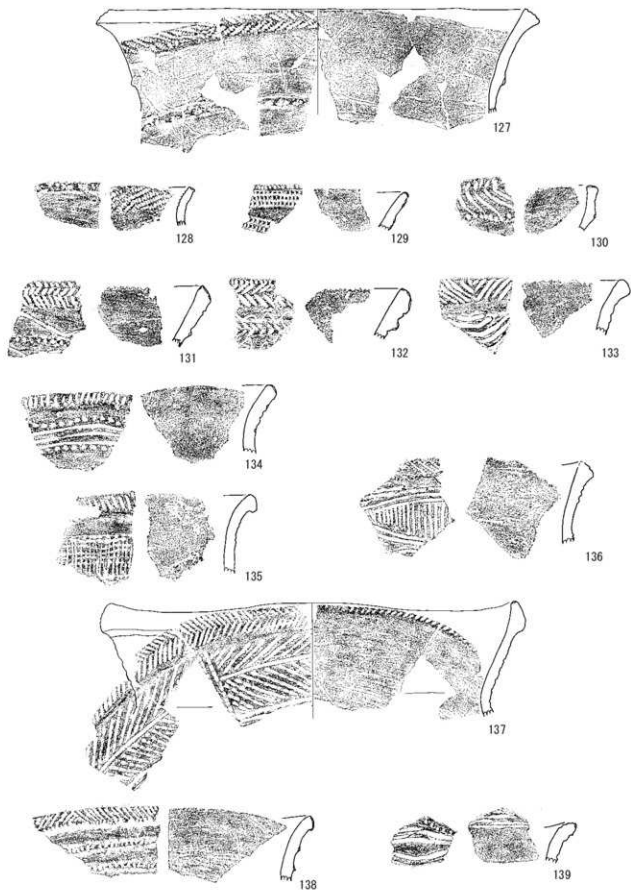
第53図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図② (S=1/3)

途中から波状に縄文を施文する。頸部に低いキザミ目突帯を持つ。その他の器面調整はナデである。128は口唇部にキザミを持ち、外面はナデ調整を施す。内面に斜め方向に縄文を施文する。129は微隆するキザミ目突帯を持つ。130は口唇部にキザミを持ち、口縁部は屈曲する。屈曲の最も張る部分に、連続で刺突を施し、その上部は斜位方向に沈線を施文する。131・132は肥厚する口縁端部に短沈線を施し、その下部に波状に沈線を施文する。133は肥厚した口縁部の下部に横方向に沈線を施す。134は横方向の連点文と沈線を施す。口唇部にススが付着している。135は肥厚した口縁部に縦位の沈線、その下部に連点と縦方向の沈線を施す。外面全体に薄くススが付着する。136は縦方向に沈線を施した後、横方向に沈線を施す。口縁端部が黒変している。口縁端部は下部の施文後に成形している。

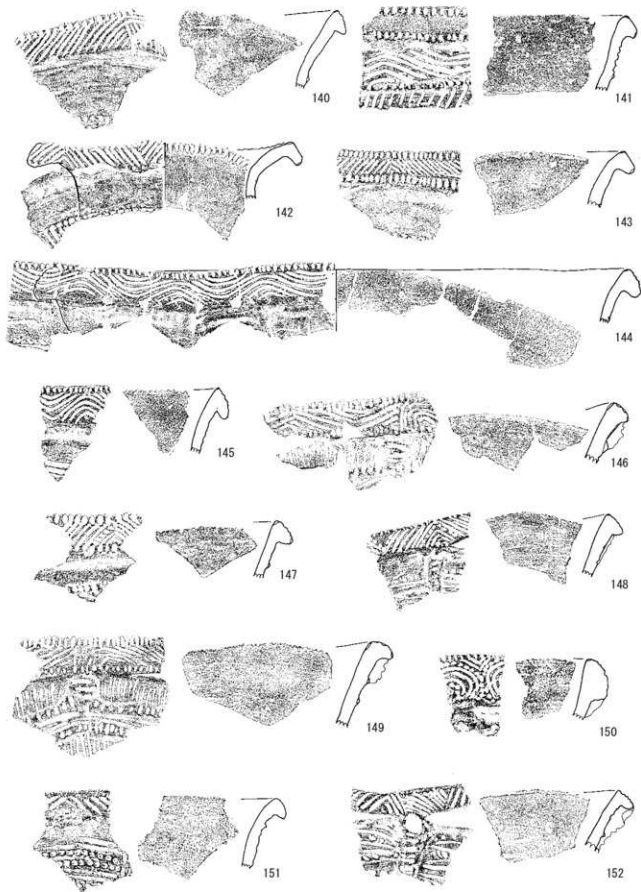
137～159は口縁部を三角形に肥厚させる一群である。137は三角形に肥厚させた口縁端部に波状文を施す。肥厚帯の下部は横方向にナデ調整を施した後、刺突文を押し引いている。138は肥厚帯の下部に2条のキザミ目突帯を施す。139は波状口縁で、口縁内面に横位の沈線を施す。140は口唇部にキザミを持ち、肥厚帯の下部に施文はなく、頸部付近にキザミ目突帯を有する。141は胎土に金雲母を多く含む。肥厚した口縁部の上端と下端にキザミを施し、肥厚部の下部は沈線で施文する。突帯を挟んで上部は横方向、下部は縦方向の沈線を施す。142・143は肥厚した口縁部の上端と下端にキザミを施し、その間に沈線を施す。肥



第54図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図③ (S-1/3)



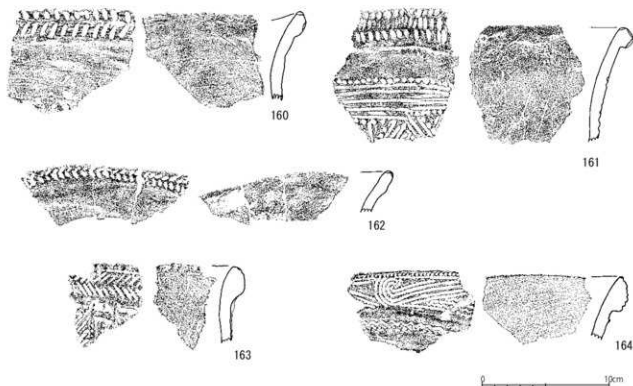
第55図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図④ (S=1/3)



第56図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑤ (S=1/3)



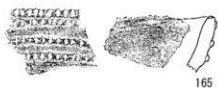
第57図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑥ (S=1/3)



第58図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑦ (S=1/3)

厚部の下はナデ調整である。頸部に突帯を持ち、その下部は縦方向の沈線を施す。波状口縁を呈する。144は肥厚部に流線状に沈線を施し、口唇部にキザミを持つ。肥厚部の下部はナデ調整を施し、その下部は原体を斜め方向に刺突している。微かに口縁部は波状を呈しており、口径は46cmである。145は肥厚部の沈線施文の間に刺突を持つ。146はキザミと沈線による施文を行い、瘤状突起で口縁部肥厚部とその下部の突帯が繋がっている。147は口縁部肥厚部に沈線と連点文を施す。148は波状口縁で肥厚部は沈線と連点による施文を施す。縦位の貼付突帯を持ち、肥厚部に繋がっている。縦位の突帯の端部は棒状工具で貼付後、肥厚部の粘土で覆っている。149はキザミと沈線による施文を行い、瘤状突起で口縁部肥厚部とその下部の突帯が繋がっている。突帯は2条あり、突帯貼付後に沈線を施す。146と同一個体と思われる。150は肥厚部に連点文と沈線で渦巻状に施文する。胎土に金雲母を含む。肥厚部から斜め方向に突帯を伸ばしている。151は沈線と連点を施す。連点は竹管状の原体での施文である。胎土に金雲母を含む。152は肥厚部と縦方向の貼付突帯を持ち、その接続部は直径1.5cm、深さ0.8cmの凹みを持つ。横方向の沈線と刺突を持ち、横方向のキザミ目突帯を持つ。153は口縁～頸部片で、連点を主体とした施文を施す。肥厚部の下端部に棒状工具で刺突を施す。154は沈線と連点による施文である。胎土に金雲母を含む。肥厚部は上端と下端にキザミを施し、中央部は2条の横方向の沈線を巡らせる。SA 8出土の13と類似する。155は沈線と連点による施文を、頸部から上は横方向、頸部から下は縦方向に施す。連点文は断面が平坦な工具で施文している。156は肥厚部上端にキザミを施し、2条の沈線を横方向に施す。口縁部下部の施文は斜位の沈線と連点である。157は肥厚部に波状に沈線を施す。肥厚部の直下より横方向の沈線と連点文を施す。158は肥厚部下端部にヘラ状工具でのキザミを施す。竹管状工具での連点と沈線を施す。肥厚部は一部黒変する。角閃石、石英が目立つ胎土である。159は肥厚部にナイフ状工具での沈線を施す。全体的につくりは粗雑である。

160～164は口縁部肥厚部が幅広化がやや進んだ一群である。肥厚部の成形は丸みを帯びる。160は肥厚部に棒状工具での波状沈線を施す。161は肥厚部に波状沈線を施し、その下部に横方向の連点と沈線を施したのちに、斜位方向に連点と沈線を施文する。162は口唇部に波状沈線を施す。器面はナデ調整である。



165



166



167



168



169



170

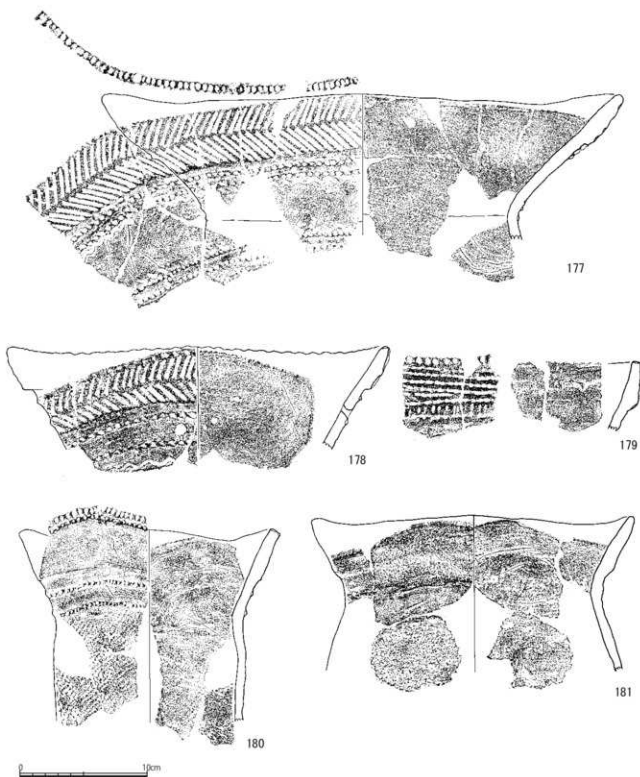


第59図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑧ (S-1/3)





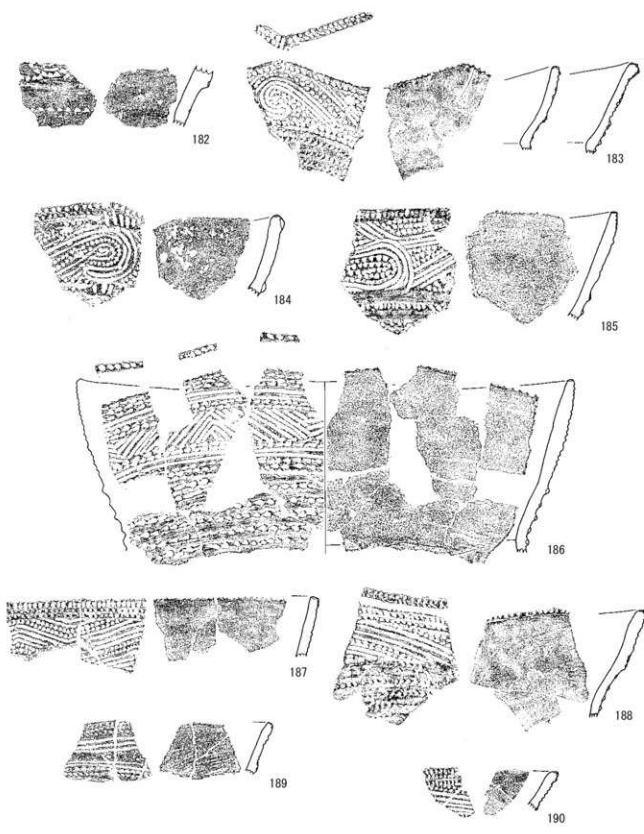
第60図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測⑤ (S=1/3)



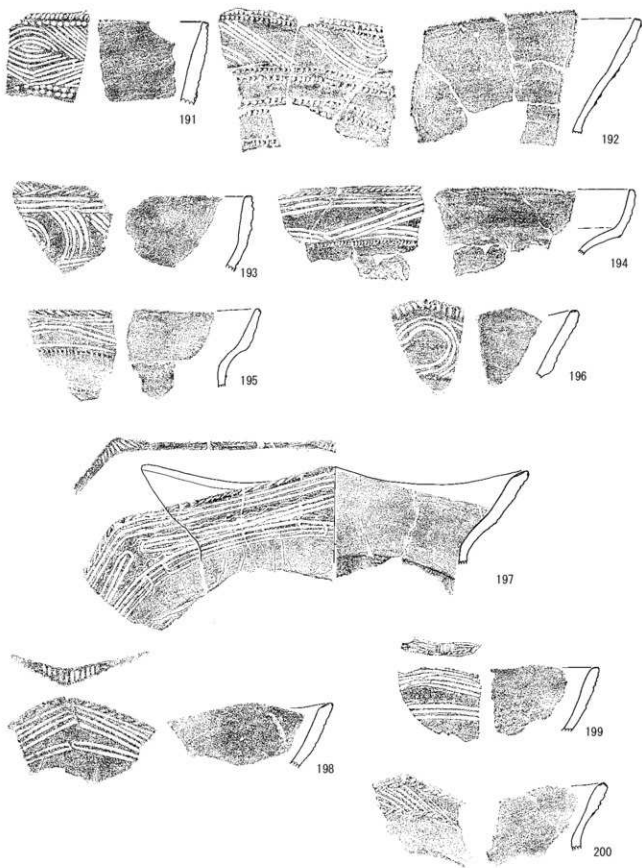
第61図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測⑩ (S=1/3)

163は肥厚帯に波状沈線を施し、肥厚帯から縦方向に細い突帯を3条伸ばしている。肥厚部から0.7cm下部に、縦方向の突帯を橋条につなげる粘土帯を持つ。内外面に赤色顔料を塗布している。164は肥厚帯に蔵手状の沈線と連点を施す。肥厚帯の上端にはキザミを持ち、下端は丁寧に成形している。肥厚部の下部には微突帯を有する。

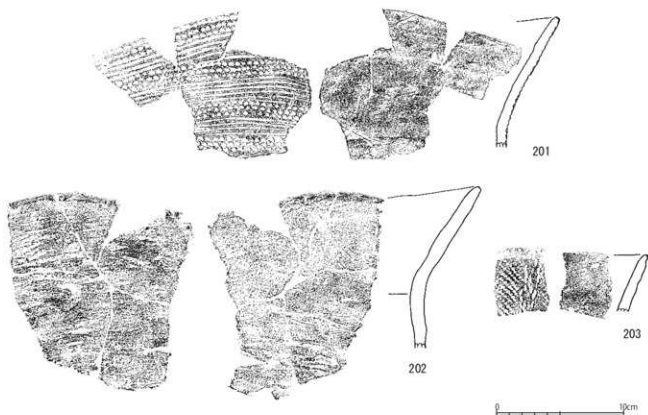
165～178は口縁部肥厚部が幅広化した一群である。165は口唇部にキザミを持ち、3条のキザミ目突帯を持つ。3条目の突帯の下部までが肥厚している。内面は丁寧なナデ調整である。166は肥厚部に渦巻状に沈線と連点を施し、上端と下端にキザミを施す。肥厚部がT字状に成形する。内外面に赤色顔料が残る。



第 62 図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測① (S=1/3)



第 63 図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測② (S=1/3)



第64図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

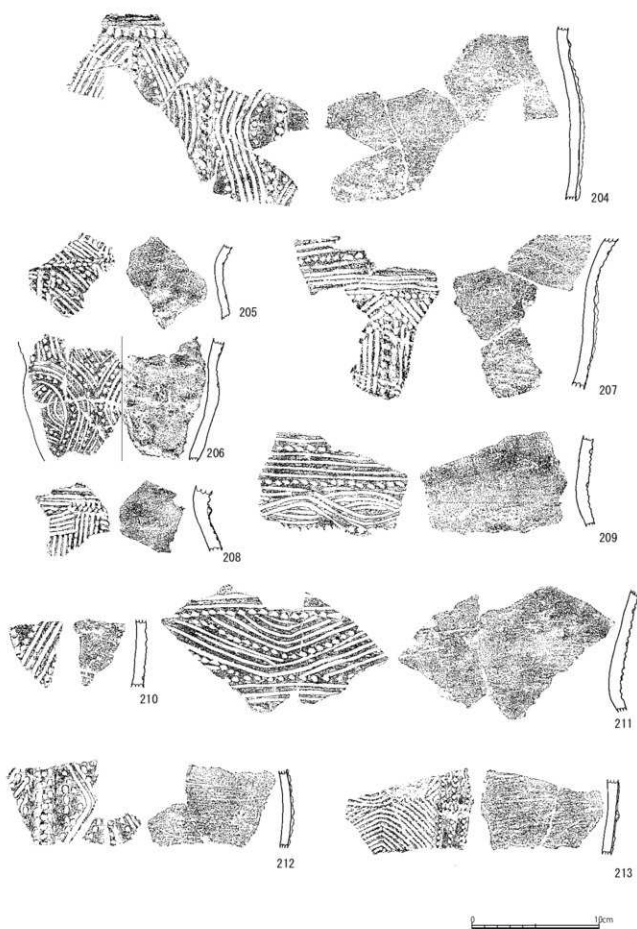
167は幅広化した肥厚部に箆手状に沈線と連点を施す。肥厚部の上端と下端にキザミを持ち、頸部の突帯の下部からは結節縄文を施文する。口縁部は波状口縁で、胎土には金雲母を含む。口縁部と頸部付近にススが附着している。168は肥厚部の端に棒状工具での斜め方向からの刺突を持ち、間を沈線で施文する。頸部にも同じく棒状工具での刺突を施す。胴部は結節縄文を有する。169は肥厚部に弧状に沈線を施す。頸部付近には連点と沈線を施し、連点は竹管で施文する。170は幅広化した肥厚部の上端と下端にキザミを有し、2条の連点と3条の沈線を交互に弧状に施文する。頸部には3条のキザミ目突帯が残存する。171は幅広化した肥厚部の上端と下端にキザミを持ち、その間を沈線と連点文で施文する。肥厚部の直下にも連点を施す。頸部には2条の突帯を有し、1条は弧状に貼付する。胴上部は縄文、胴下部はナデ調整を施す。また口縁部から胴上部まで黒変している。172・173は肥厚部の上端と下端にキザミを持つ。外面は流線状の沈線と連点を施文する。174は肥厚部の上下に竹管状工具での連点を施し、その間を竹管での連点と沈線で施文する。肥厚部下端のキザミを有し、ヘラ状工具を用いている。頸部付近には微突帯を持つ。175は口唇部にキザミを持ち、肥厚部上部は横方向に連点を5条、下部は2条施す。肥厚部の下端や内面は丁寧なナデ調整である。外面にはススが附着している。176は肥厚部の上端と下端にキザミを施す。上端のキザミは極浅い。肥厚部には結節縄文を縦位と横位に施す。177は幅広化した肥厚部に波状の沈線を施し、口唇部にはキザミを持つ。肥厚部の下部には2条のキザミ目突帯を有し、肥厚部と縦方向の突帯で連結されている。頸部付近にも2条の突帯があり、これらも縦方向の突帯で橋状に繋がっている。頸部から下の残存は狭小だが、縄文を施すことが確認できる。178は肥厚部に波状の沈線を施し、口唇部にはキザミを持つ。肥厚部の下部にはキザミ目突帯を2条持つ。また穿孔を2箇所有する。肥厚部には赤色顔料が残存しており、分析の結果、ベンガラによるものであることが分かっている。

179～181は口縁部肥厚帯と頸部との厚みの差が小さくなる一群である。179は肥厚部の上端と下端にキザミを有し、その間を棒状工具で押し引きしている。180は口唇部に2条のキザミを持ち、その間には沈線

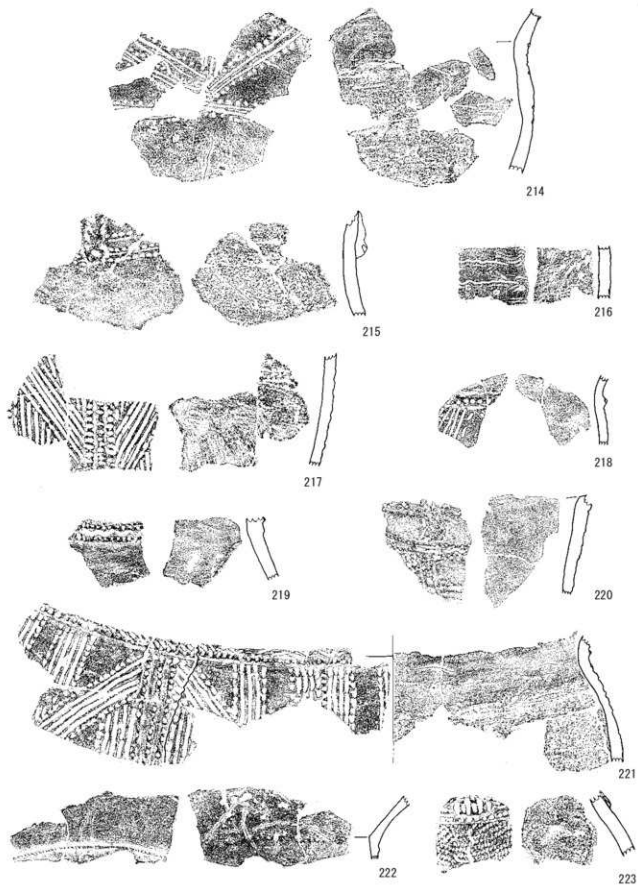
を施す。肥厚帯はナデ調整である。肥厚帯の下部には断面が三角形の2条のキザミ目突帯を有する。胴部はほとんど張らない器形であり、縄文を施文している。181は幅広化した肥厚帯を有し、波状口縁を呈する。波頂部は丸く成形している。器面調整はナデ調整のみで、胎土には金雲母を含む。

182～203は口縁部肥厚帯と頸部との厚みの差が僅かな一群である。182は竹管状の工具で斜め方向から施文している。183は波状口縁を呈し、波頂部と波頂部の垂直線上の肥厚部端が微縮状に膨らむ。口唇部は内外両側からキザミを施す。肥厚部は細かい連点と沈線を箆手状に施文する。肥厚部の下部は残存する範囲で断面が三角形のキザミ目突帯が3条確認できる。184は波頂部と波頂部の垂直線上の肥厚部端が幅広く膨らむ。肥厚部の文様は箆手状で、沈線と連点による施文である。185は3条の連点と沈線を波状に施す。186は口唇部にキザミを持ち、口縁部は斜め方向からの刺突と沈線を交互に施文する。僅かに残る肥厚部の下部より、5条のキザミ目突帯が確認できる。187は口唇部にキザミを有し、口縁端部に微突帯を2条有する。その下部より流線状に沈線と連点を施す。188は口唇部は内外両側からキザミを施し、口縁端部に微突帯を2条有する。その下部より、沈線と竹管で施文する。肥厚部の下端にもキザミを有し、その上下に波状に短沈線を施す。頸部付近では4条のキザミ目突帯が確認できる。189は口唇部にキザミを持ち、肥厚部の上部と下部に連点を施す。190は口唇部にキザミを有し、口縁端部に微突帯を2条有する。191は平らに成形した口唇部にキザミを施し、肥厚部の上下に竹管で連点文を施す。その間を沈線を充填している。外面に少量のススが付着する。192は口縁部に弧状に沈線を施文し、その上下に微突帯を有する。その下部には4条の突帯が確認できる。193は口唇部に斜め方向にキザミを施す。肥厚部は上下に横方向に沈線を施す。肥厚部の下部からやや内側に屈曲する器形である。194・195は口唇部に斜め方向、肥厚部の下部にも細かいキザミを持つ。肥厚部の下部から内側に屈曲する二重口縁状である。196は波状口縁で、渦巻状に沈線を施す。197は口唇部に斜め方向にキザミを持つ。肥厚部は直線の沈線の間に波線の施文を施す。内側に赤色顔料を施す。198は波状口縁で、キザミを施し、波頂部のキザミが長い。口縁部は内湾する。199は口唇部に沈線を施す。外面にススが付着する。200は口唇部の内側と外側からキザミを施す。肥厚部の下端に斜め方向にキザミを施す。肥厚部にはキザミと逆斜位に沈線を施す。頸部付近にススが付着する。201は口唇部にキザミを施し、口縁部から頸部まで沈線と連点文を施す。202は全面ナデ調整である。203は口唇部にキザミを施し、外面は結節縄文を施す。

204～221は沈線と連点を持つ頸～胴部の一類である。204は頸部～胴部片で、頸部にキザミ目突帯を持ち、横方向の突帯から縦方向に3条のキザミ目突帯が伸びる。縦方向の突帯は5cm間隔である。205は頸部に2条の連点文を施文し、その上部は斜位方向の沈線、下部は沈線と連点を施す。また頸部から縦方向に伸びる突帯を持つ。器面の外側にはススが付着している。その付着物からは放射性炭素年代測定の結果7047-6802calBCという値が得られている(第3章第1節)。206は頸部～胴部片で、胴部は弧状に沈線と連点文を施文する。207は頸部に横方向の沈線と連点を施文し、頸部から伸びる縦方向のキザミ目突帯を持つ。その周囲は斜め方向と縦方向に沈線と連点を施す。208は頸部付近の小片で、頸部から上には横方向の沈線、頸部から下には縦、斜位方向の沈線と連点文を施す。また頸部には短突帯を横方向に貼付する。209は頸部から上は横方向の沈線と連点、頸部から下は3本の沈線を波状に施文する。胎土は白色鉱物が卓越する。210は沈線と連点を持つ小片で、外面の付着物の分析の結果、7032-6748calBCの値が出ている(第3章第1節)。211は斜め方向からの刺突と沈線を持つ。212は縦方向のキザミ目突帯を持つ。突帯の左右には斜め方向からの刺突を施す。213は縦方向の3条の突帯と、その突帯を結ぶ橋状突帯を持つ。縦突帯の間には、波状沈線を施す。胴部は沈線と押し引の刺突文を細かく施す。214は2条の沈線の左右に連点文を施す。外面にススが付着している。215は沈線の左右に連点を施し、下部はナデ調整を施す。頸部付近には瘤状突起を持つ。216は竹管文と波状沈線を持つ。217は3条の縦方向のキザミ目突帯を持つ。4条の沈線と押し引の刺突で施文する。218は頸部にキザミ目突帯を持ち、胴部には沈線を施す。219は波状沈線と斜め方向からの刺突を持つ。220は縦方向と横方向のキザミ目突帯を持ち、縦方向の突帯は波状に貼付する。突帯間には波状に沈線を施文する。221は頸部に突帯を持ち、胴部は4条



第65図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図(Ⅱ-S=1/3)



第 66 図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑤ (S-1/3)



の突帯とその左右に連点文を施文する。頸部での内径は 27cm を測る。

222 は器面はナデ調整で、頸部に微突帯を持つ。

223 は頸部に短突帯を持つ。頸部から上は連点文を施す。胴部は結節縄文を施す。

224 ~ 232 は縄文を施文する胴部片である。224 は頸部にキザミ目突帯を持つ。225 は頸部に突帯をもつ。突帯へのキザミは斜め方向である。外面にスガが付着する。226 は原体に縄文を巻きつけて施文する。燃糸の撚り方向と縄文の撚り方向が同じである。227 は頸部に 2 条の突帯を持ち、その突帯を縦方向の短突帯で繋げている。胴部は結節縄文を施文する。228 は頸部にキザミ目突帯を持ち、その上下に結節縄文を施文する。229 は結節縄文を施し、上部には横方向の沈線を持つ。230・231 は結節縄文を施し、胴部上部は黒変する。230 は胎土に金雲母を含む。232 は結節縄文を持ち、内面はハケ状工具でナデを施す。

233・234 はその他の施文を施すものである。233 は口縁部片で、口唇部に斜め方向からキザミを施す。口縁部には突帯を持ち、斜め方向から棒状工具でキザミを施している。器面も横方向に刺突して施文を施すが、突帯部とは原体が異なる。234 は頸部片と思われる小片で、キザミ目突帯を持つ。突帯部よりキザミの面積が広い。器面は棒状工具で斜め方向から刺突を施す。胎土に金雲母を含む。

235 ~ 244 は平椀式の壺型土器である。235 は口縁部片で、斜め方向の沈線を施した後、縦方向の沈線を施す。236 は肥厚部を持ち、肥厚部の上端と下端にキザミを持つ。肥厚部の中央は羽状沈線を持つ。頸部付近に横方向に刺突を施し、その下部は縄文を施文する。237 は肥厚部が T 字状になっており、その上端とキザミを持つ。中央部は渦巻状に押引文を施す。238 は肥厚部の断面形が三角形で、上下にキザミを持つ。肥厚部とその下部は押引で施文する。239 は沈線と押引文で施文する。肥厚部はやや丸みがあり、直下には横方向に沈線と押引文を施す。240 は丸みを帯びた口唇部にキザミを施し、沈線と連点で施文を施す。頸部は指ナデで、その下部に微突帯を持つ。241 は全面ナデ調整で、薄く仕上げている。242 は口縁部が二重口縁で内湾し、口唇部にキザミを施す。肥厚部は沈線で施文する。頸部は突帯を持つ。また肥厚部は黒変している。243 はキザミ目突帯を持ち、突帯の上部は結節縄文、下部はナデ調整である。胎土には金雲母を含む。244 は 2 条のキザミ目突帯を持ち、その上部は連点文を施す。胴部はナデ調整である。

245 ~ 252 は平椀式土器の小型のものである。245 は口縁部片で、幅広化した肥厚部に連点と波状沈線で施文を施す。246 は全面ナデ調整で、波状口縁である。247 は頸部片でナデ調整を施す。248 は口唇部にキザミを持ち、口縁内部に棒状工具で刺突を施す。外面は頸部から上部はナデ調整で、頸部に横方向に沈線を施す。249 は頸部にキザミ目突帯を持ち、頸部の突帯から縦方向に 3 条の突帯が伸びる。縦方向の突帯間には連点文を施す。250 は頸部片で、頸部にキザミ目突帯、胴部に結節縄文を持つ。頸部での内径は 10cm である。251 は頸部片で、頸部に刺突を施す。胴部は結節縄文で、2 箇所の穿孔を持つ。252 は沈線と貝殻腹縁刺突文を持つ。

253 ~ 257 は平椀式土器の底部片である。253 ~ 255 は縄文、256 ~ 257 は結節縄文を施す。

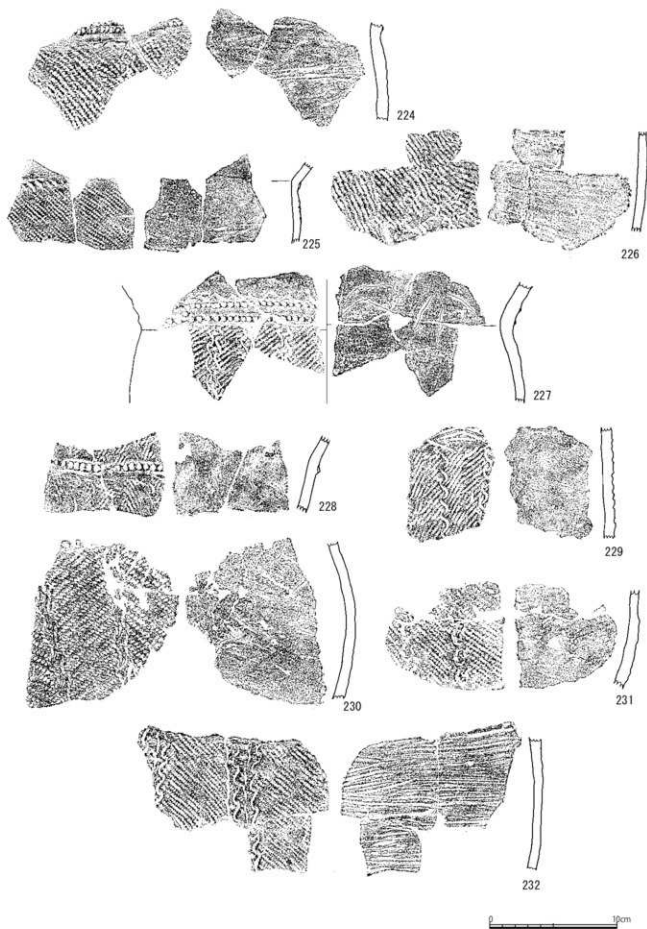
#### 塞ノ神土器 (258 ~ 281)

胴部はバケツ型頸部で屈曲し、口縁が外反に開く一群である。

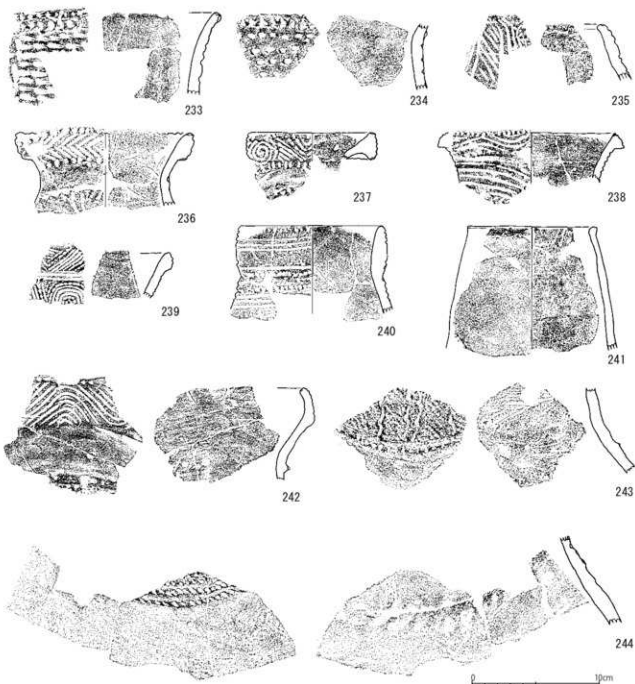
258 ~ 261 は口縁部に沈線を持つものや縦位の燃糸文を持つものである。258 は口唇部にキザミを持ち、外反する口縁部に横位の沈線を持つ。259 は口唇部にキザミを持ち、外反する口縁部に横位の沈線を持つ。胴部に燃糸文を縦位に施文し、頸部に横方向に沈線を施す。260 は胴部に縄文を縦位に施文する。261 は底部片で、底部付近に横方向に沈線を持ち、胴部に縄文を縦位に施文する。

262 ~ 264 は沈線区画を持つものである。262 は口唇部に斜め方向からキザミを施し、口縁上端部と頸部に貝殻腹縁刺突文を巡らせる。口縁部には 3 条の浅い沈線を持つ。胴部は沈線で区画を施した内部に貝殻条痕を施す。263 は頸部付近で、頸部に貝殻腹縁刺突文を施し、その下部に燃糸文を沈線で区画する。264 は沈線区画内に貝殻条痕を施す胴部片である。

265 ~ 278 は口縁部に貝殻刺突文を施すものや沈線区画を持たないものである。265 は口縁部片で、貝殻



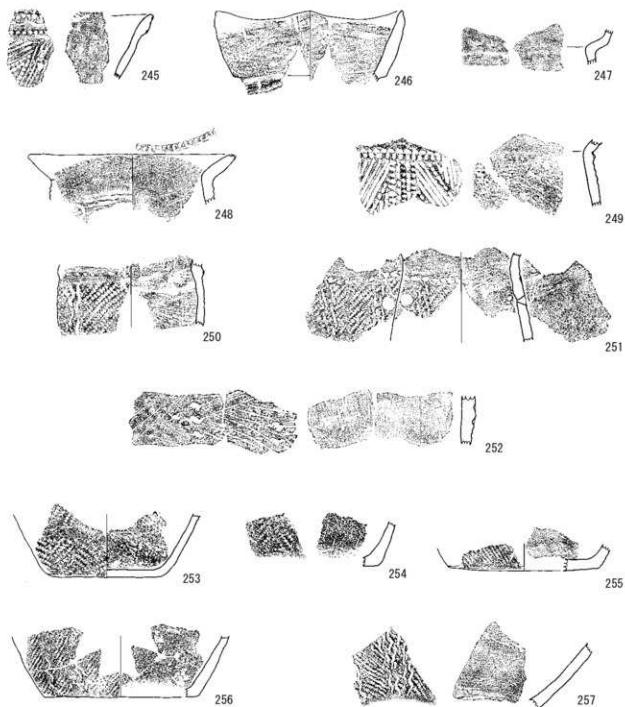
第 67 図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑨(S=1/3)



第68図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑧(S=1/3)

腹縁刺突を持つ。頸部付近から器面が黒変している。266は口唇部に土器外面から刺突を施し、口縁部は貝殻腹縁刺突を施す。267は口唇部に貝殻でキザミを施す。キザミの方向は口縁縁と平行である。口縁部は貝殻押しで施文する。268は口唇部にキザミを施し、口縁上端部に貝殻腹縁刺突を施す。その下部に貝殻条痕を斜位に施文する。269は口唇部に棒状工具でキザミを施す。キザミの方向は口縁縁と平行である。口縁部は貝殻押し文である。270・271は頸～胴部片で、頸部に貝殻腹縁刺突を持ち、胴部は貝殻条痕を施す。272は口唇部に貝殻と棒状工具によるキザミ、口縁部外面に貝殻腹縁刺突を持つ。口縁部はやや内傾する。273は口縁～頸部片で、口唇部に貝殻によるキザミを施し、頸部に貝殻腹縁刺突を施す。器面は指ナデによる調整を施す。274は頸部付近で貝殻腹縁刺突の下部に沈線を持ち、胴部には3条の沈線を横位に施す。275は胴部片で、貝殻腹縁刺突を持つ。276は胴部片で、棒状工具を菱形に施文する。277は櫛状工具で沈線を施文する。278は全面ナデ調整を施す。頸部から下部にスガが付着する。

279・280は壺ノ神式土器で小型のものである。279は頸部～胴部片で、頸部に貝殻腹縁刺突を施し、胴部



第69図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑧ (S=1/3)

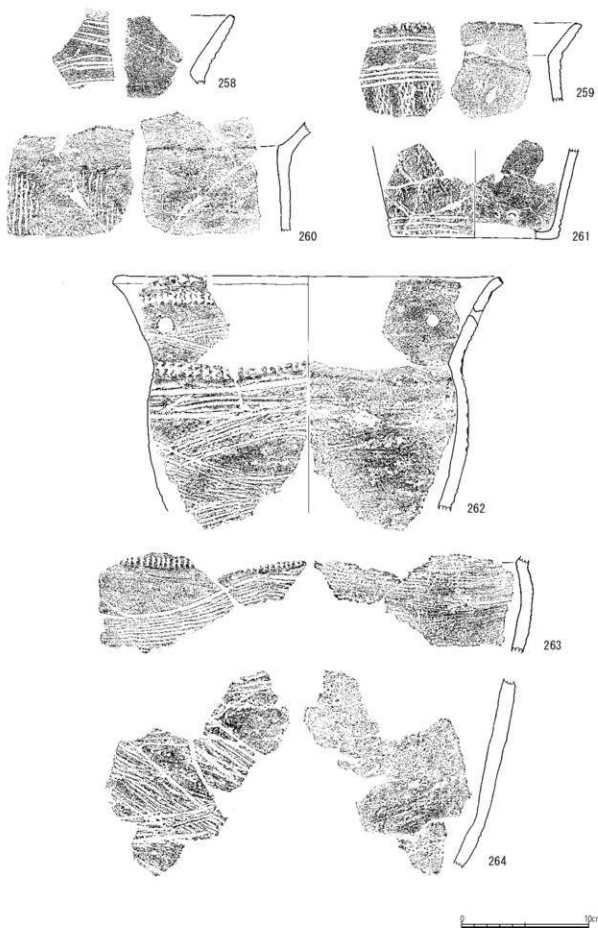
は櫛状工具で沈線を施文する。280は底部片で、底部付近に横方向に沈線を施文する。

281は塞ノ神式土器の底部片で、底部付近と上部に横方向の沈線を巡らせ、その間に縦方向と斜位方向の沈線を施文する。底面付近は白色の付着物がある。

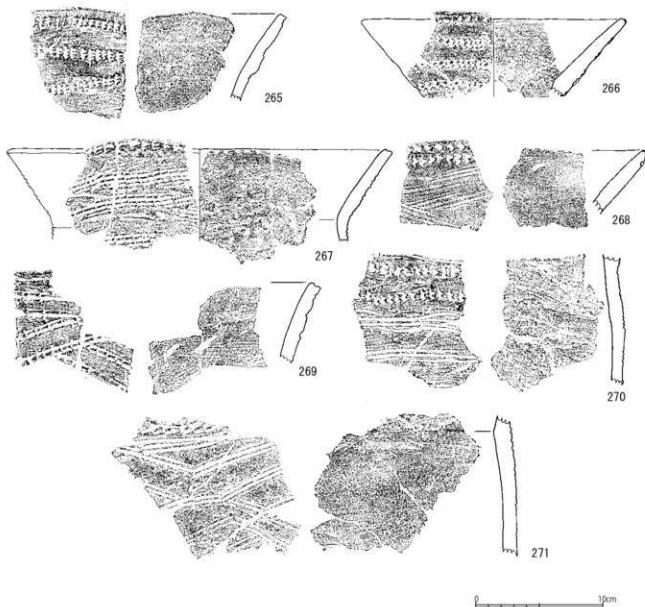
#### 条痕文系土器 (282～289)

外面は貝殻条痕による施文を施し、器形はバケツ状の一群である。

282は口唇部にキザミを施し、外面には斜位方向に貝殻条痕を施す。内面は横方向のナデ調整を施す。



第70図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図⑨ (S=1/3)



第71図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図② (S=1/3)

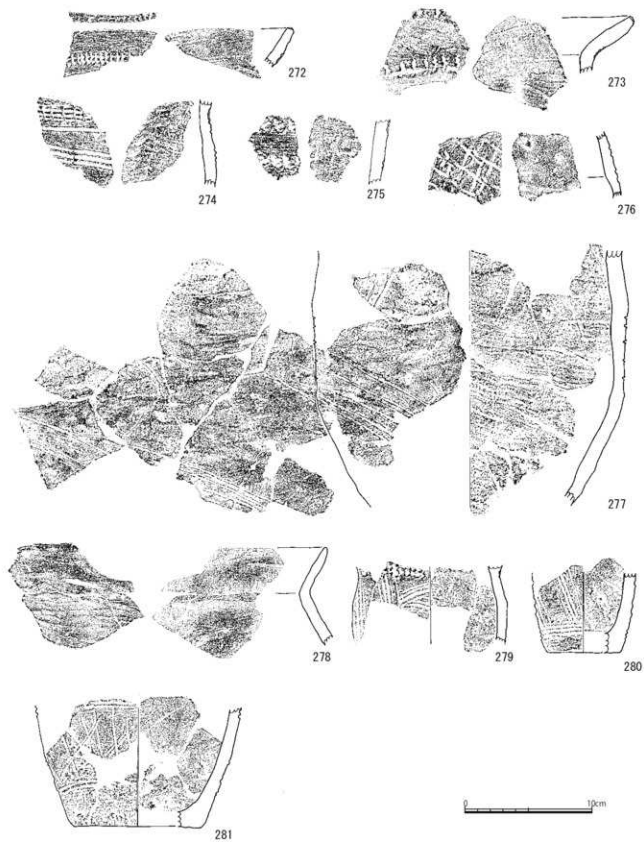
283は口唇部に貝殻によるキザミを施す。284・285は口唇部を平らに調整し、土器外面から口唇部にキザミを施す。外面は浅い貝殻条痕を施す。286は口唇部に貝殻によるキザミを施す。上部にススが附着する。287はへら状工具で口唇部にキザミを施す。波状口縁を呈する。288はV字状に貝殻条痕を施す壺型土器である。289は内外面とも貝殻条痕による調整を施す。

#### (1) 出土石器について

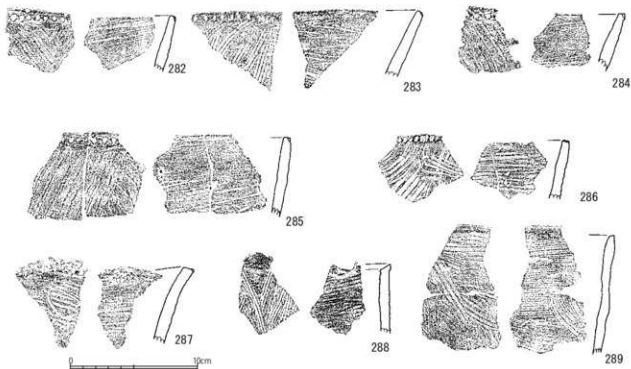
土器と同じく、1区と4区を中心に出土している。1区では標高192～193m、4区では標高195～196mにやや分布のまとまりがある。層位は1区は黒色土～暗褐色土層（基本層序XV～XVI層）、2区及び3区では暗褐色土層（基本層序XVI層）、4区においては黒色土～暗褐色土層である。鎌、石匙等の剥片石器、凹み石や石斧等の礫石器が出土した。また異形石器の出土も目立つ。

#### 石鎌 (290～340)

290～316は1類で、挟りが深く、特徴的な脚部を有する一群である。290～300は黒曜石製で、針尾島



第72図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図②(S-1/3)



第73図 アカホヤ火山灰下位包含層出土土器実測図② (S-1/3)

産、姫島産のものも含まれる。301 はめのうもしくはチャート製、302～309 はチャート製である。310～316 は安山岩製である。

317～329 は2類で、基部に一定の挟りを持つ一群である。317～324 は黒曜石製、325 は玉髓製、326～328 はチャート製、329 は安山岩製である。322 はチップの可能性はある。

330～332 は3類で、基部の挟りが浅いものもしくはないものである。330・331 は黒曜石製、332 は安山岩製である。332 はスクレイパーの可能性はある。

333～338 は4類で、剥片の面を残す一群である。333 はチャート製、334～338 は安山岩製である。333 はスクレイパーの可能性はある。

339、340 は石鏃未製品で、黒曜石製である。

#### 石匙 (341～345)

341・342 は黒曜石、343～345 は安山岩製である。

#### 二次加工剥片 (346・347)

346 は黒曜石、347 はチャートの二次加工剥片である。

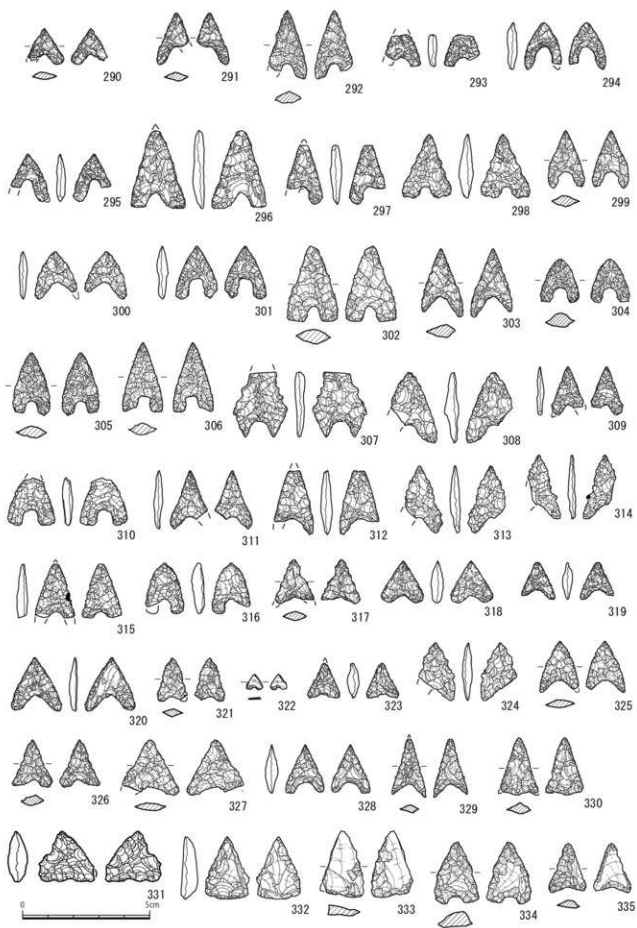
#### 異形石器 (348～355)

348～351 は姫島産黒曜石製、352～354 は安山岩製である。348～352 は三角形の剥片に挟りを持ち、両側は鋸歯状に仕上げている。353 は三角系状の剥片の各辺を鋸歯状に成形している。354 は台形状の剥片に把手を持ち、各辺を鋸歯状に成形している。

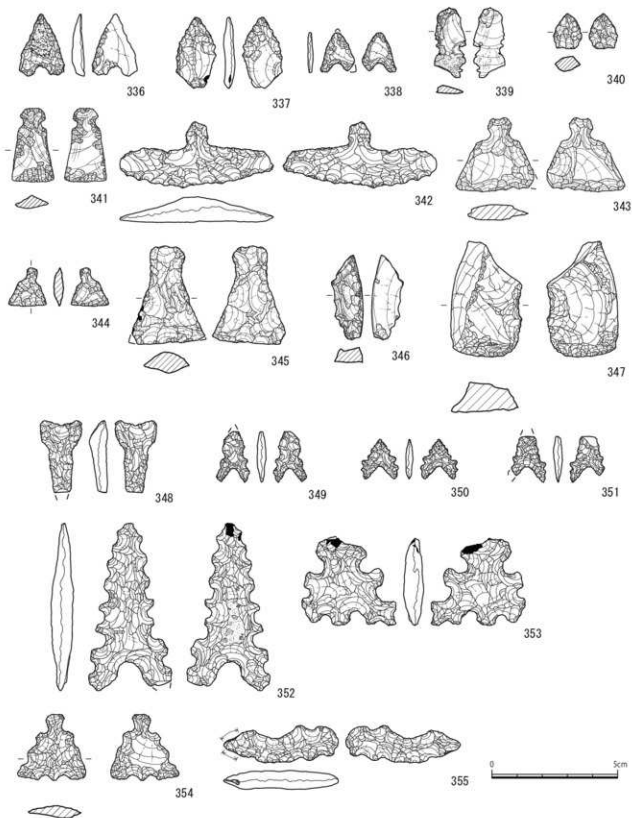
#### スクレイパー (356～359)

356 は頁岩、357 は安山岩、358・359 は砂岩製である。356・357 は剥片の両面に刃部を作製する。358・359 は礫の片側が薄くなるように割り、その部分に刃部を作り出している。





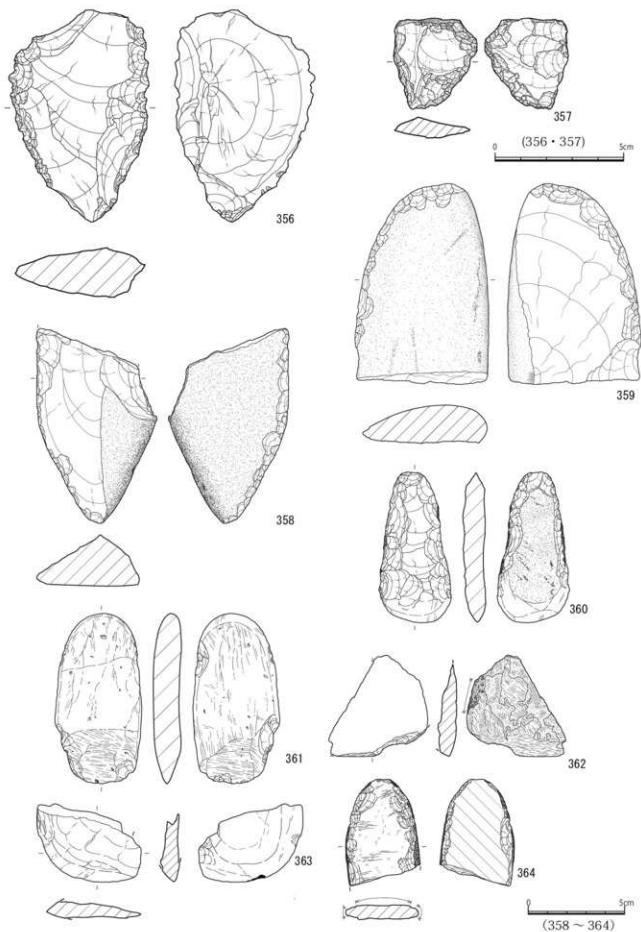
第74図 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図①(S-2/3)



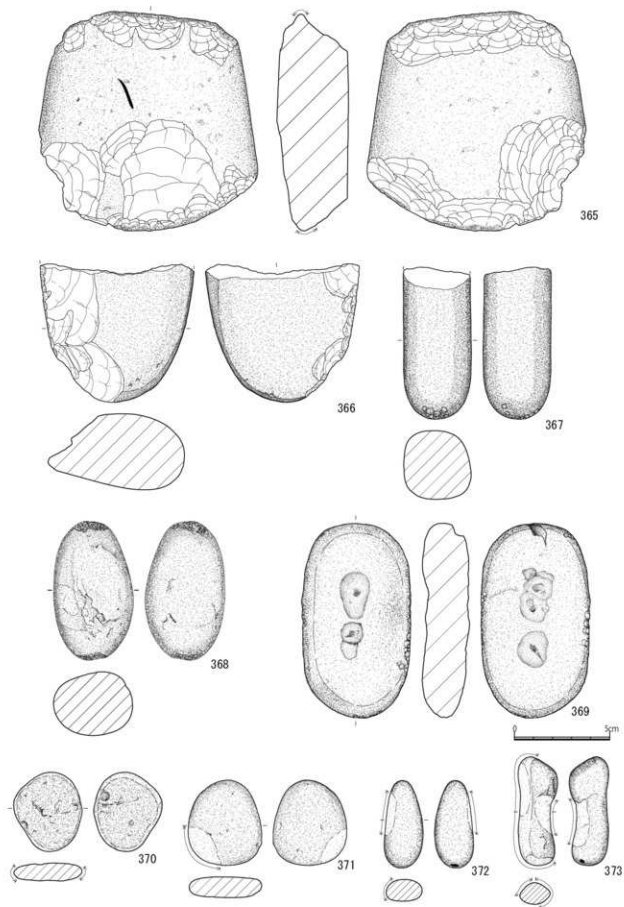
第75図 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図② (S=2/3)

#### 石斧 (360～364)

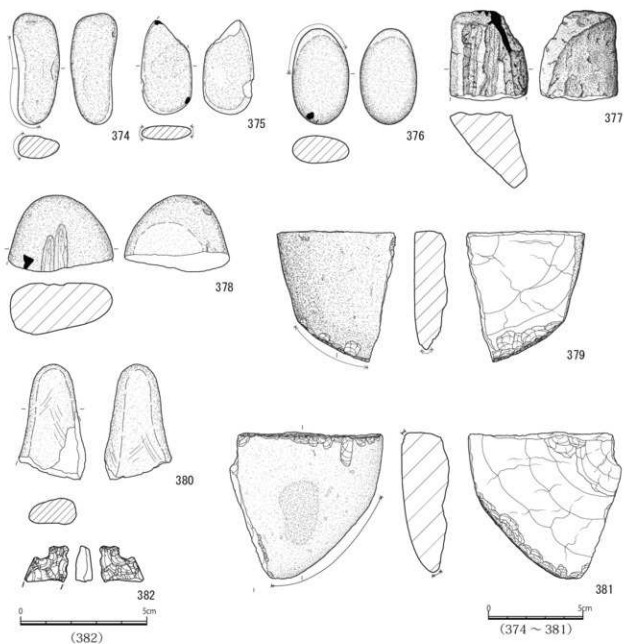
360はホルンフェルス製の局部磨製石斧である。長台形状に礫を成形し、短辺の片側を磨いて刃部を作り出している。361は頁岩製で長楕円形の全面を磨き、短軸側に刃部を製作する。362は砂岩製、363は頁岩と見られる局部磨製石斧の刃部である。364は局部磨製石斧未製品と考えられる。粘板岩製である。



第76図 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図③ (S-2/3・1/2)



第77図 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図④ (S-1/2)



第 78 図 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器実測図⑤ (S=2/3・1/2)

碟器 (365・366)

365、366 は砂岩製の碟器である。一部に刃部を作り出している。365 は上下剥離面に摩擦痕がある。366 は磨石の転用と思われる。

敲石 (367・368)

367 は棒状の砂岩製碟の端部に敲打痕を持つ。368 は楕円状の砂岩製碟の両端部に敲打痕がある。

凹み石 (369)

369 は砂岩製で、楕円状の碟両面の中央部付近に複数個所の凹みを持つ。

その他の石器 (370～382)

370～378 は研磨具と見られる。370～376 は碟の一部に摩擦痕が認められる。377・378 は砂岩製の碟に条線状に凹みが見られる。379～381 は砂岩製で使用痕・摩擦痕がある。382 は針尾島産黒曜石と見られ、









製鉄番号	部科	部位	出土地点	法盤			色 調		助 士										文様及び調整			備 考	実測 No.								
				(口径 mm)	径厚 (mm)	径高 (mm)	外面	内面	石肌	長石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石			黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石	黒石
228	深鉢	製部	H12	-	-	-	にふい赤陶 (SYR5/4)	にふい赤陶 (SYR5/4)																		焼文 突帯 刺	ナデ		703		
229	深鉢	製部	D11	-	-	-	柵 (7.5YR7/6)	にふい青陶 (10YR6/4)																		沈線 結節陶文 黒系	ナデ		31		
230	深鉢	製部	G7	-	-	-	柵 (7.5YR6/6)	柵 (7.5YR4/4)																		結節条痕	ナデ		903		
231	深鉢	製部	F7	116	-	-	柵 (SYR6/6)	灰帯 (SYR4/2)																		焼文 結節陶文	ナデ		702		
232	深鉢	製部	J13	F7	-	-	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	にふい青陶 (10YR7/3)																		結節陶文 ナデ	ナデ		901		
233	深鉢	口鉢部	H11	-	-	63	にふい青陶 (10YR6/4)	にふい青陶 (10YR7/4)																		キザミ目安部 柵材めからの刺突	ナデ	口鉢部にキザミ	303		
234	不明	製部	G6	-	-	-	にふい赤陶 (SYR5/4)	にふい赤陶 (SYR5/4)																		キザミ目安部 刺突	ナデ	刺突は焼文	342		
235	皿	口鉢部	C11	-	-	44	にふい青陶 (10YR6/4)	灰帯 (10YR5/2)																		沈線 湯点	ナデ		905		
236	皿	口鉢部	J15	-	-	-	にふい青陶 (10YR6/4)	明黄帯 (10YR7/6)																		キザミ 沈線 刺突	ナデ		349		
237	深鉢	口鉢部	F14	100	-	21	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	にふい赤陶 (10YR7/4)																		沈線 キザミ 刺突	ナデ		68		
238	深鉢	口鉢部	1-2	T	130	-	柵 (SYR6/8)	明黄帯 (10YR7/6)																		キザミ 沈線 刺突	ナデ	波状口縁	694		
239	深鉢	口鉢部	F7	-	-	37	にふい赤陶 (7.5YR7/4)	にふい青陶 (10YR6/3)																		沈線 刺突	ナデ		351		
240	皿	口鉢部	G7	100	-	66	柵 (SYR6/6)	柵 (SYR6/6)																		キザミ 沈線 湯点	ナデ		347		
241	皿	口鉢部	J7	-	-	-	にふい青陶 (10YR7/4)	柵 (2.5YR6/8)																			ナデ	ナデ 指 ねさえ		923	
242	皿	口鉢部	H14	-	-	74	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	にふい赤陶 (7.5YR6/4)																		沈線 突帯 刺突	ナデ		375		
243	皿	製部	F7	-	-	-	明赤陶 (2.5YR5/6)	明赤陶 (2.5YR5/6)																		焼文 結節陶文 キザミ目安部	ナデ	外面黒染	379		
244	皿	製部	J13	-	-	-	柵 (SYR6/6)	にふい赤陶 (7.5YR5/3)																		キザミ目安部 湯点	ナデ		891		
245	深鉢	口鉢部	C9	-	-	-	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	柵 (SYR6/6)																		湯点 波状沈線 沈線	ナデ		845		
246	深鉢	口鉢部	G7	T6	145	-	54	明赤陶 (2.5YR5/6)	明赤陶 (2.5YR5/8)																	ナデ	ナデ	波状口縁	850		
247	深鉢	製部	H13	-	-	-	にふい青陶 (10YR6/4)	にふい青陶 (10YR6/4)																			ナデ	ナデ		852	
248	深鉢	口鉢部	J11	K10	-	-	にふい青陶 (10YR6/4)	にふい青陶 (10YR6/4)																		キザミ 刺突 沈線	ナデ		843		
249	深鉢	製部	J14	-	-	-	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	にふい赤陶 (7.5YR6/4)																		キザミ目安部 沈線 湯点	ナデ		849		
250	深鉢	製部	115	-	-	-	柵 (7.5YR7/6)	柵 (7.5YR7/6)																		キザミ目安部 焼文 結節陶文	ナデ	頸部径 110	348		
251	深鉢	製部	G7	H14	-	-	にふい青陶 (10YR7/4)	にふい青陶 (10YR7/4)																		刺突 陶文 結節陶文 ナデ	ナデ	穿孔 スス付	352		
252	深鉢	製部	J12	-	-	-	にふい赤陶 (7.5YR7/4)	にふい青陶 (10YR6/3)																		沈線 目紋刺突	ナデ		844		
253	深鉢	底部	D10	-	98	49	にふい赤陶 (7.5YR6/6)	灰帯 (7.5YR4/2)																			陶文	ナデ		902	
254	深鉢	底部	K12	K13	-	120	柵 (SYR6/6)	にふい青陶 (10YR6/4)																			結節陶文	ナデ		42	
255	深鉢	底部	E18	-	-	35	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	にふい赤陶 (7.5YR6/4)																			陶文	ナデ		29	
256	深鉢	底部	D10	-	120	21	にふい青陶 (10YR7/4)	にふい青陶 (10YR7/3)																				黒系	ナデ		41
257	深鉢	底部	D9	-	-	-	赤陶 (2.5YR4/6)	明赤陶 (2.5YR5/6)																		〇	陶文 沈線	ナデ		32	
258	深鉢	口鉢部	I7	-	-	55	にふい赤陶 (7.5YR7/4)	にふい赤陶 (7.5YR7/4)																			キザミ 沈線	ナデ		794	
259	深鉢	口鉢部	J11	J15	-	-	明帯 (7.5YR5/4)	柵 (7.5YR6/6)																			沈線 黒系 キザミ	ナデ		805	
260	深鉢	製部	J9	-	-	-	にふい赤陶 (7.5YR5/4)	にふい赤陶 (7.5YR5/4)																			黒系	ナデ	外面スス付	816	
261	深鉢	製部	J7	-	-	71	にふい青陶 (10YR7/4)	にふい青陶 (10YR7/4)																			陶文 沈線	ナデ	内面黒染あり	814	
262	深鉢	口鉢部	K9	304	-	186	にふい赤陶 (SYR5/4)	にふい赤陶 (SYR5/4)																		目紋刺突 目紋条痕 沈線	ナデ	黒染 穿孔 (位取り孔) 有り	780		
263	深鉢	製部	J8	-	-	-	にふい赤陶 (7.5YR7/4)	にふい赤陶 (7.5YR6/4)																			目紋刺突 沈線 湯点	ナデ		786	
264	深鉢	製部	J9	J10	-	-	赤陶 (SYR4/6)	柵 (SYR6/6)																			沈線 目紋条痕 ナデ	ナデ		796	
265	深鉢	口鉢部	J8	-	-	70	にふい青陶 (10YR7/4)	にふい青陶 (10YR7/3)																			目紋刺突	ナデ	波状口縁 黒染あり	767	
266	深鉢	口鉢部	111	J9 J10	204	-	61	にふい赤陶 (SYR6/4)	にふい赤陶 (7.5YR6/4)																		目紋刺突	ナデ		773	
267	深鉢	口鉢部	110	J10 J11	300	-	52	柵 (7.5YR6/6)	にふい青陶 (10YR5/4)																	目紋引引 口吻部に目紋引	ナデ		764		
268	深鉢	口鉢部	112	-	-	-	にふい青陶 (10YR6/4)	にふい青陶 (10YR6/4)																			目紋刺突 口吻部に目紋キザミ条痕	ナデ		758	
269	深鉢	口鉢部	J9	-	-	64	灰帯 (SYR5/2)	にふい赤陶 (SYR5/4)																			目紋刺突引 刺突	ナデ		762	
270	深鉢	製部	J9	J12	-	-	にふい赤陶 (7.5YR6/4)	柵 (7.5YR6/6)																			目紋刺突 条痕	ナデ		771	
271	深鉢	製部	K9	-	-	-	にふい赤陶 (SYR5/4)	にふい赤陶 (10YR5/4)																			目紋引引 条痕	ナデ	横状工具による条痕文	761	
272	深鉢	口鉢部	-	-	-	30	にふい青陶 (10YR6/4)	にふい青陶 (10YR7/4)																			目紋刺突 ナデ	ナデ	口鉢部にキザミ 沈線	49	

図面番号	部材	部位	出土地点	法盤		色		測		土										文様及び調整		備考	実測 No.								
				(幅 mm)	(厚 mm)	外	内	石	瓦	石	瓦	土	瓦	土	瓦	土	瓦	土	瓦	土											
273	深鉢	口縁～胴部	J12	-	-	-	-	にぶい・黄緑 (10YR6/4)	にぶい・黄緑 (10YR5/3)																口縁(口縁部)に 目取刺突	ナデ		774			
274	深鉢	胴部	H10	-	-	-	-	にぶい・黄緑 (10YR6/4)	赤黄緑 (10YR5/2)																	目取横線引き 沈線	ヨコナデ		929		
275	深鉢	胴部	-	-	-	-	-	にぶい・黄 (7.5YR6/3)	赤黄緑 (10YR6/2)																		目取	ナデ		926	
276	深鉢	胴部	D9	-	-	-	-	明黄緑 (2.5Y7/6)	明黄緑 (2.5Y7/6)																			沈線	ナデ		50
277	深鉢	胴部	J8-KK K2	-	-	-	-	にぶい・黄 (7.5YR6/6)	赤黄緑 (10YR5/2)																			沈線	指ナデ		928
278	盤	口縁～胴部	J6	-	-	-	-	にぶい・黄緑 (10YR7/4)	にぶい・黄緑 (10YR5/3)																						927
279	深鉢	胴～胴部	H11 J10	-	-	-	-	黄 (5YR6/6)	にぶい・黄 (7.5YR5/4)																		削突	沈線	ナデ	胴部径 11	757
280	深鉢	底部	J11	-	58	62	-	にぶい・黄 (7.5YR5/4)	にぶい・黄 (10YR5/5)																						380
281	深鉢	底部	J9	-	110	92	-	黄 (7.5YR6/6)	にぶい・黄 (7.5YR5/4)																						382
282	深鉢	口縁部	H11	-	-	44	-	にぶい・黄 (7.5YR6/4)	にぶい・黄緑 (10YR6/4)																						888
283	深鉢	口縁部	J8	-	-	50	-	黄 (7.5YR7/6)	黄 (7.5YR7/6)																						896
284	深鉢	口縁部	H11	-	-	44	-	にぶい・黄 (7.5YR6/4)	にぶい・黄緑 (10YR6/3)																						907
285	深鉢	口縁部	H11	-	-	62	-	黄 (7.5YR4/3)	黄 (7.5YR4/1)																						906
286	深鉢	口縁部	J11	-	-	45	-	にぶい・黄緑 (10YR6/4)	にぶい・黄緑 (10YR6/4)																						889
287	深鉢	口縁部	H10	-	-	58	-	にぶい・黄緑 (10YR7/4)	にぶい・黄緑 (10YR7/4)																						892
288	皿	口縁部	J11	-	-	52	-	黄 (7.5YR7/6)	にぶい・黄緑 (10YR6/4)																						891
289	深鉢	口縁～胴部	H16	-	-	-	-	黄 (7.5YR6/6)	黄 (7.5YR4/1)																						915

第4表 アカホヤ火山灰下位包含層出土石器観察表

掲載番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	実測 No.
290	J11	石鏃	黒曜石	1.40	(1.40)	0.30	(0.30)		2
291		石鏃	黒曜石	2.05	(1.25)	0.35	(0.50)		18
292		打製石鏃	黒曜石	2.70	(1.50)	0.55	(1.20)		29
293		石鏃	黒曜石	(1.25)	(1.40)	0.34	(0.50)		88
294		石鏃	黒曜石	1.84	1.44	0.38	(0.60)		93
295		石鏃	黒曜石	(1.87)	(1.49)	0.35	(0.50)		94
296		石鏃	針尾島黒曜石	3.05	2.10	0.45	(2.00)		83
297		石鏃	針尾島黒曜石	(2.30)	(1.40)	0.45	(1.00)		85
298		石鏃	水晶	2.50	1.90	0.57	1.70		7
299		石鏃	蝦島産黒曜石	2.25	1.45	0.45	0.80		84
300		石鏃	蝦島産黒曜石	1.86	(1.65)	0.31	(0.60)		109
301		石鏃	あのみう?	2.07	1.63	0.45	1.00		95
302		石鏃	チャート	3.00	2.00	0.60	2.80		3
303		石鏃	チャート	2.70	1.60	0.55	1.40		13
304		石鏃	チャート	1.70	1.50	0.60	1.10		47
305	E13	石鏃	チャート	2.45	1.45	0.50	1.20		48
306		打製石鏃	チャート	2.70	1.55	0.50	1.50		58
307		石鏃	チャート	(2.56)	2.13	0.39	(1.90)		99
308		石鏃	チャート	2.76	(1.80)	0.55	(1.60)		107
309		石鏃	チャート	(1.90)	(1.25)	0.28	(0.40)		113
310		石鏃	安山岩	(1.85)	1.85	0.40	(1.10)		86
311		石鏃	安山岩	2.30	(1.45)	0.35	(0.70)		103
312		石鏃	安山岩	(2.52)	(1.53)	0.45	(1.30)		104
313		石鏃	安山岩	2.64	(1.48)	0.38	(1.00)		105
314		石鏃	安山岩	2.51	(1.28)	0.29	(1.00)		106
315		石鏃	安山岩	(2.11)	(1.55)	0.42	(1.10)		112
316		石鏃	安山岩	2.00	1.50	0.51	(1.20)		115
317		石鏃	黒曜石	(1.75)	(1.50)	0.40	(0.60)		21
318		石鏃	黒曜石	1.65	1.66	0.48	0.90		87
319		石鏃	黒曜石	1.45	1.31	0.39	0.40		92
320		石鏃	黒曜石	2.11	1.97	0.31	0.80		102

取割番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	巻注 No.
321		石鏃	針尾島黒輝石	1.70	1.20	0.35	0.50		20
322		石鏃	姫島産黒輝石	0.60	0.65	0.10	0.10		5
323		石鏃	姫島産黒輝石	(1.37)	1.27	0.46	0.50		91
324		石鏃	姫島産黒輝石	2.27	(1.40)	0.40	0.80		108
325	F11	石鏃	玉軸	2.00	(1.50)	0.30	0.70		28
326		石鏃	チャート	1.85	1.60	0.45	0.70		12
327	西壁	石鏃	チャート	2.15	(2.25)	0.35	(1.20)		66
328		石鏃	チャート	1.90	1.51	0.50	0.90		111
329		石鏃	安山岩	(2.30)	1.35	0.35	0.60		19
330		石鏃	姫島産黒輝石	(2.25)	(1.50)	0.45	(1.10)		9
331		石鏃	姫島産黒輝石	1.32	(1.45)	0.50	0.70		116
332		石鏃	安山岩	2.45	1.72	0.66	2.60	未成品?	90
333		石鏃	赤色チャート	2.60	(1.60)	0.45	(1.80)		1
334		石鏃	安山岩	2.45	1.75	0.70	2.50		8
335		石鏃	安山岩	1.95	1.45	0.30	0.60		11
336		石鏃	安山岩	2.46	1.80	0.50	1.40		89
337		石鏃	安山岩	2.82	1.58	0.45	1.80	未成品?	101
338		石鏃	安山岩	(1.57)	(1.35)	0.20	0.40		114
339	1区E11・E12 トランジヤナー	石鏃未成品?	黒輝石	2.80	1.25	0.40	1.20		67
340		石鏃未成品?	姫島産黒輝石	1.40	1.10	0.60	0.80		10
341		石造	黒輝石	2.95	1.69	0.50	2.00	原寸大	55
342		石造	姫島産黒輝石	2.65	6.10	1.00	8.10		77
343		石造	安山岩	(2.95)	(3.10)	0.60	(4.90)	原寸大	57
344		石造	安山岩	1.50	1.50	0.40	0.70		4
345		石造	安山岩	3.90	(2.90)	1.00	8.00		68
346	東・2区E15	二次加工削片	黒輝石	3.40	1.25	0.60	2.60		16
347	表扉	二次加工削片	チャート	4.60	2.80	1.40	16.20	原寸大	49
348		異形石鏃	姫島産黒輝石	(2.85)	1.65	0.72	(2.00)		82
349		異形石鏃?	姫島産黒輝石	(2.01)	1.32	0.36	0.60	両側に突起あり	96
350		異形石鏃?	姫島産黒輝石	1.57	1.49	0.28	0.40	両側に突起あり	97
351		異形石鏃?	姫島産黒輝石	(1.83)	(1.37)	0.36	0.60	両側に突起あり	98
352		異形石鏃	安山岩	(6.65)	3.30	0.90	(12.20)		78
353		異形石鏃	安山岩	(3.45)	3.75	0.80	8.20	ガジリあり	80
354	4区表扉	異形石鏃	安山岩	2.60	2.70	0.50	2.80	原寸大	73
355		異形石鏃	安山岩	1.50	4.55	0.75	4.30	上面と後面に一部磨面あり	81
356	E4	スクレイパー	頁岩	8.20	5.45	2.10	78.70	原寸大	50
357	D15	スクレイパー	安山岩	3.55	3.25	1.05	10.60		17
358		スクレイパー	砂岩	(10.10)	(62.50)	2.90	(65.70)		45
359		スクレイパー	砂岩	10.40	6.90	2.70	240.20	原寸大	53
360		石斧	ホルンフェルス	7.80	3.75	1.20	46.70	両側面に縦行痕あり	74
361		石斧	頁岩	8.85	4.50	1.50	90.10		75
362		石斧片	砂岩	(5.25)	(5.15)	(1.05)	(27.70)	右側面に縦行痕あり	6
363	E14	局部磨製石斧	頁岩?	(4.10)	(5.40)	(1.00)	(25.80)	全体的に風化	原寸大 76
364		局部磨製石斧	粘板岩	(5.50)	(3.90)	(0.80)	(23.60)	側面に磨製痕あり	原寸大 51
365	D9	礮石	砂岩	11.50	11.50	3.75	727.10	上下両面に厚磨面あり	52
366	D13	礮石	砂岩	(7.25)	(8.05)	(4.40)	(289.30)	磨石転用か	44
367		礮石	砂岩	(8.00)	3.60	3.65	(177.30)		31
368		礮石	砂岩	7.30	4.20	3.45	138.50		32
369		凹み石	砂岩	10.20	5.70	2.78	235.00	側面に縦行痕あり	46
370		研削具	頁岩?	4.15	3.60	0.95	19.20		38
371		研削具	砂岩	4.47	3.86	12.00	29.40		30
372		研削具	砂岩	4.60	2.05	1.20	15.00		33
373		研削具	砂岩	5.70	2.05	1.45	21.30		34
374	1区E11・E12	研削具	砂岩	5.85	2.45	1.25	25.00		35
375		研削具	砂岩	(4.95)	2.70	0.80	(13.10)		37
376	1区	研削具	砂岩	5.05	3.00	1.50	30.90		39
377		研削具?	砂岩	(4.75)	4.15	4.35	(74.30)	矢柄研削器?	40
378	C16	研削具	砂岩	(4.05)	5.55	(2.75)	(65.70)	矢柄研削器?	41
379	E14	磨面ある削片	砂岩	6.90	6.30	1.90	109.10	下部の磨面に厚磨面あり	原寸大 60
380	3区	磨面のある石	砂岩	(6.19)	3.54	(1.80)	(4.39)	原寸大	56
381	E14	磨面ある削片	砂岩	7.75	8.10	2.60	196.80	上下両面に厚磨面あり	後面に手摺痕 54
382		不明	針尾島黒輝石	(1.42)	(1.73)	0.65	(1.50)	破損資料	100

### 第3節 アカホヤ火山灰上位の調査

アカホヤ火山灰上位では、造成や耕作の影響により、調査区の一部しか遺物包含層が残存していなかった。そのため、図79の範囲を調査範囲とした。遺物の出土した層位は1区のアカホヤ二次堆積層（基本層序X層）、4区においてはアカホヤ火山灰上位の黒色～褐色土（基本層序VII～IX層）、アカホヤ二次堆積層である。主な出土遺物は縄文時代後晩期のものであり、当地域の土器型式である、大平式土器、入佐式土器、黒川式土器、石器は石鏃が出土している。遺構検出は随時実施したが、最終遺構検出はIX層で行った。

遺構は竪穴遺構2基、土坑26基が検出された。

#### 1 遺構について

##### (1) 竪穴遺構

SA1は平面プランは円形状で、規模は2.89×2.68m、検出面からの深さは10cmである。4区の西側で検出された。一部攪乱により消滅している。柱穴と思われるピットが遺構壁際を中心に8基検出されている。規模は径8～13cm、深さ6～20cmを測る。深さは6～20cmが計測される。出土遺物は大平式土器(383～387)が出土している。(383)は口縁部で縦横方向に鋸歯状の沈線を施している。(384)は口縁部片で口縁上端部に刺突を施す。(385)は胴部片で貝殻条痕による調整を施す。(386)は底部片である。(387)は遺構の検出面付近で出土しており、遺構外の東でまとまって出土したものと接合されている。口縁部に横方向に鋸歯状に沈線を施す。胴部はナデ調整である。

SA2は4区の西側、J-15区の南向きに傾斜する地形部分で検出されている。樹根等の影響により、遺構の残存は東半ほどである。SA2の周囲より、SC5・14・15も検出されている。SA2の規模は残存で約2.25×0.85mである。

##### (2) 土坑

SC1は1区の北東側に位置している。調査区西端トレンチで、炭化材、焼土などを含む土を確認したことで検出された焼土坑である。残存で0.65×0.2mを測る。埋土中から出土した炭化材は1234-1119calBCでコナラ属アカガシ垂属と同定されている(第3章第1節)。このことから縄文後期の遺構と考えられる。また、土壌分析の結果、用途を特定できる成分は検出されなかった(第1章第1節)。

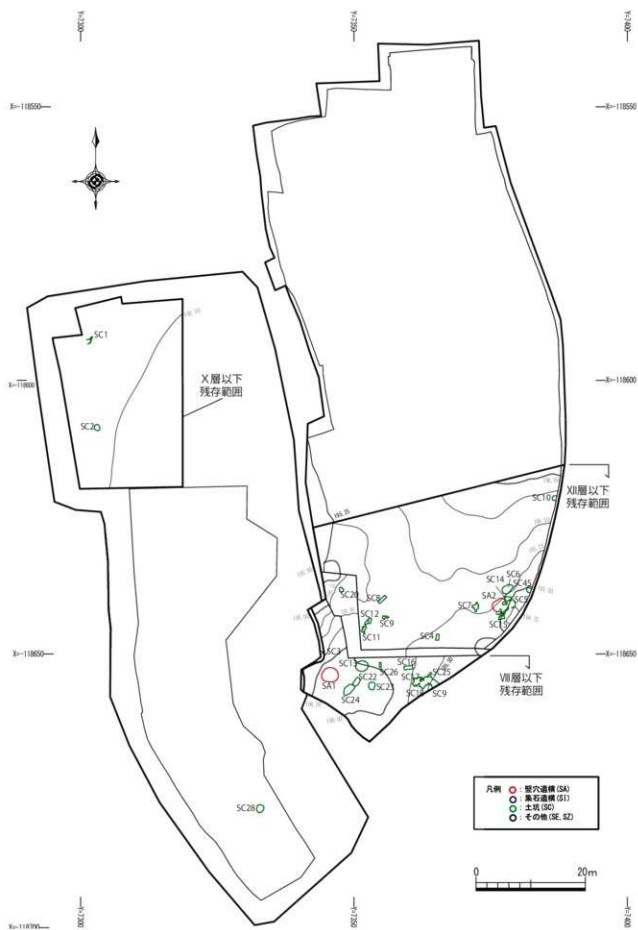
SC2は1区の西側で検出されている。平面形は円形で、規模は1.1×0.95m、検出面からの深さは15cmを測る。黒褐色の埋土で、埋土中からは炭化物、骨片が出土した。自然科学分析の結果、炭化物はサクラ属で年代は223-334calADの値が出ている。また出土した骨片は陸生の哺乳綱の四肢骨破片と同定された(第3章第1節)。分析結果より弥生時代後期から古墳時代前期の遺構と考えられる。

SC3は4区南東の調査区際から検出された。上端は0.6×0.2mのみが残存し、全体の形は不明である。深さは検出面から1.4mほど残存する。底面付近の形状は楕円状を呈する。埋土は黒褐色土で、御池軽石を多く含む。

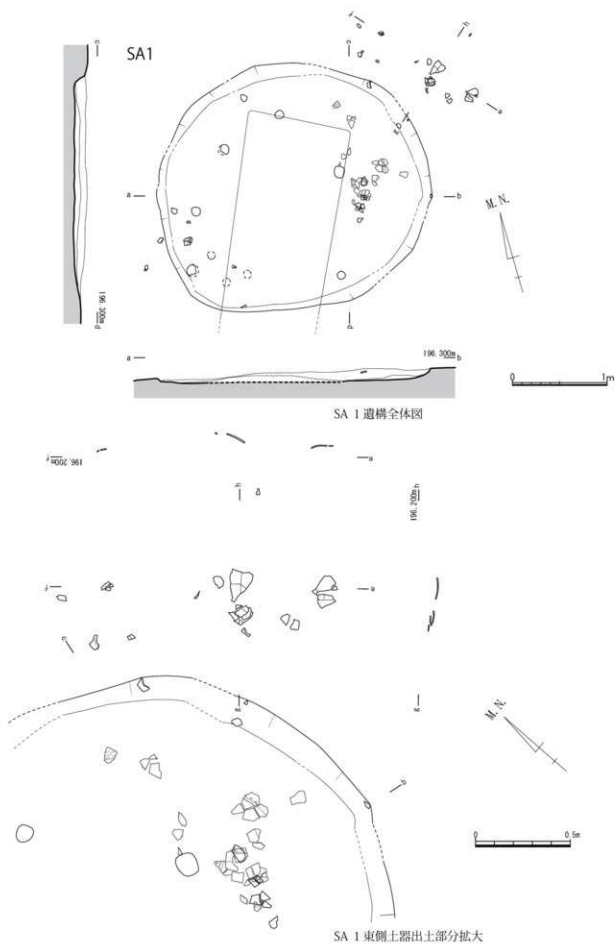
SC4は4区の南側で検出された。検出面はXI層で黒褐色土が落ち込んでいることで検出している。平面形は長方形で、規模は1.12×0.55m、深さは検出面から1.17mである。断面形はやや袋状に膨らみ、東西軸方向は棚状になっている。底面にはピットが2所箇あり、中央付近のピットは径10cm、深さ12cmである。東西の棚状施設の縁にもピットが各1箇所確認されている。埋土中から条痕文を持つ胴部片(388)とナデ調整の小片(389)が出土している。

SC5は4区の東側にて検出された。XI層を精査したところ、黒褐色土が落ち込んでいたことで検出している。攪乱の影響を受けており、底面付近が残存する。遺構範囲の推定は1.15×0.6mで深さ55cmである。

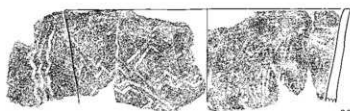
SC6は4区東側に位置する。埋土は黒褐色土で御池軽石がやや密集している。遺構の平面形は楕円状で、



第 79 図 アカホヤ火山灰上位検出遺構配置図 (S=1/700)



第 80 図 アカホヤ火山灰上位検出 SA 実測図①及び出土土遺物実測図 (S=1/40・1/20)



383



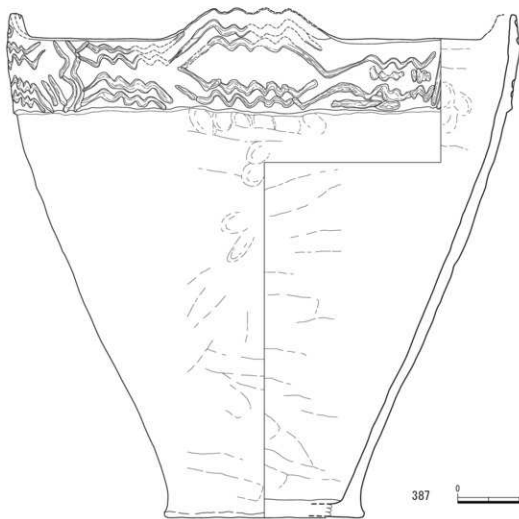
385



384



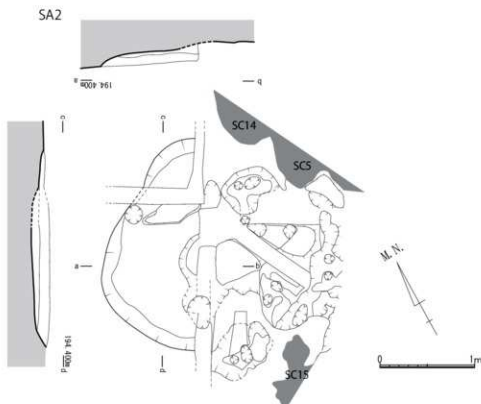
386



387



第81図 アカホヤ火山灰上位検出SA1出土遺物実測図(S=1/3)



第 82 図 アカホヤ火山灰上位検出 SA 実測図② (S=1/40)

規模は  $1.95 \times 1.4\text{m}$ 、深さ  $65\text{cm}$  である。底面に径  $10\text{cm}$ 、深さ  $15\text{cm}$  のビットが確認された。

SC7 は 4 区東側で検出された。平面形は「T」字状を呈する。底面と考えられる面は大きく 3 面あり、階段状に低くなり、北端の底面が最も深い。遺物は遺構の北東のビットの検出面から土器が出土している。埋土中には炭化物が含まれており、3 点を自然科学分析にかけたところ、1 点は  $8801\text{-}8638\text{cal BC}$  のクリ、2 点目は  $1745\text{-}1636\text{cal BC}$  でコナラ属アカガシ亜属、3 点目は  $1761\text{-}1641\text{cal BC}$  でコナラ属アカガシ亜属という結果が出ている (第 3 章第 1 節)。

SC8 は 4 区西側のⅡ層上で検出された。規模は検出面では  $1.5 \times 0.6\text{m}$  の不定形である。黒色土と、明赤褐色の焼土を含む土が平面的に広がっていたことで検出している。全長  $2.25 \times 0.9\text{m}$  である。底面は凹凸が激しい。SC 8 で出土した炭化物の放射性炭素年代測定では、 $\text{calBC}766\text{-}539$  という分析結果が出ている (第 3 章第 3 節)。

SC9 は 4 区西側で検出された。埋土は焼土を含む黒褐色土である。規模は  $1.2 \times 0.65\text{m}$  で不定形である。西側と東側が深くなっており、中央部分は浅い。埋土中より黒色磨研土器 (390) が出土した。

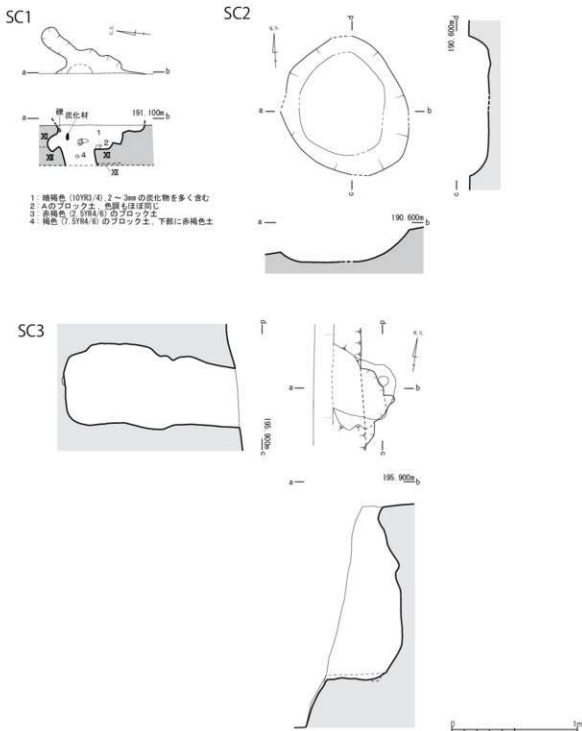
SC10 は 4 区の東側で、調査区際で検出された。平面形は円形で径は  $0.85\text{m}$  を測る。埋土は黒色土で御池軽石を含む。断面形はフラスコ状と思われる。

SC11 は 4 区の西側で確認された。検出面はⅡ層である。規模は約  $1.2 \times 0.55\text{m}$  である。SC12 と幅  $10\text{cm}$ 、厚み  $8\text{cm}$  の小穴で繋がっている。

SC12 は 4 区西側で検出された。埋土は黒色土に黄橙色軽石と橙色軽石を含む。  $1.1 \times 0.75\text{m}$ 、深さ  $1.3\text{m}$  の楕円状部分と、  $1.1 \times 0.45\text{m}$ 、深さ  $30\text{cm}$  の長円形部分からなる二段掘り土坑である。

SC13 は 4 区南側で検出された。土器、チャート片、炭化物等が密集していることで検出した。平面形は楕円状で二段掘りの土坑である。規模は  $1.85 \times 1.4\text{m}$  で深さ  $25\text{cm}$  で、深さ  $15\text{cm}$  程で傾斜の変化点がある。遺物は検出面や埋土中から土器やチャート剥片が出土している。遺物は底部付近から多く出土しているが、いずれも遺構底面には接していない。(391) は晩期粗製土器である。外面が黒変する。(392) は底部片である。(394) は口縁部片で、ナデ調整を施す。外面が黒変する。(395 ~ 397) は黒色磨研土器である。398・





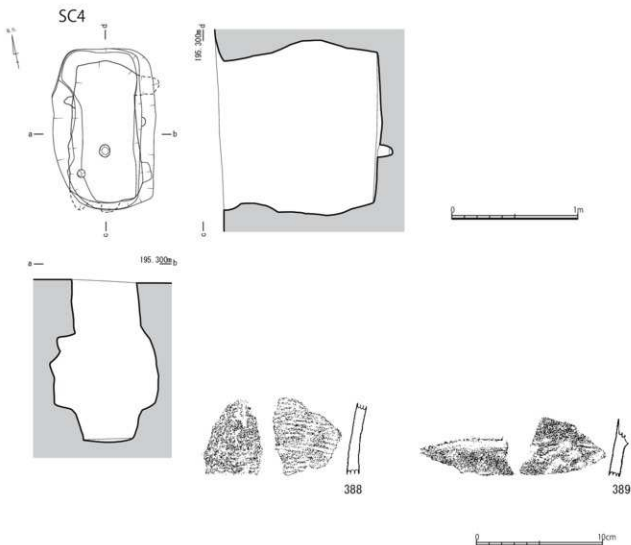
第 83 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図① (S=1/30)

399 は打製石鏃で、チャート製である。

SC14 は 4 区の東側、SC5 の北西側に位置していた。攪乱の影響により、遺構の推定規模は  $0.6 \times 0.35$  m、深さ 48cm である。内黒の土師器細片が出土している。

SC15 は 4 区東側の SC5・14 の南側に位置している。攪乱の影響を受けている、推定規模は  $0.85 \times 0.55$  m、深さは 36cm である。

SC16 は 4 区南側の XI 層が残存する地点で検出された。長方形に黒色土の落込んでいたことから検出されている。規模は上端は  $1.1 \times 0.75$  m で、検出面から約 60cm の深さで広がり、底面に棚状施設を持つ、ランプ形の土坑である。



第84図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図②出土及び遺物実測図 (S=1/30・1/3)

SC17は4区南東側の調査区壁近くで検出された。攪乱の影響により、遺構の一部しか残存しない。推定規模は0.8×0.7mの楕円状である。貝殻条痕を持つ胴部片(400)が出土している。

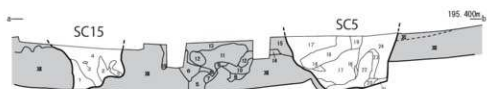
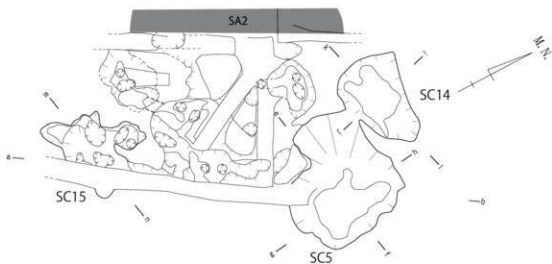
SC18は4区南東側で、SC17の東側で検出された。同じく攪乱の影響により、遺構の一部のみしか残存しないが、底面付近が平坦である範囲を遺構としている。推定規模は1.3×0.7mである。

SC19は4区南東側で、調査区壁にかかって検出されている。SC17・18と同じ攪乱の影響で、遺構底面付近のみが残存する。推定で短軸1m、長軸は1.3mほどと思われる。

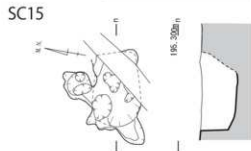
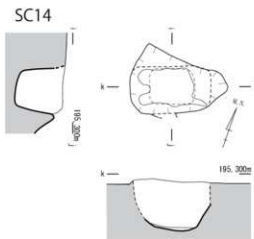
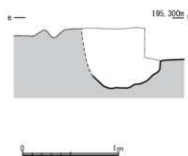
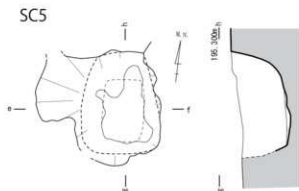
SC20は4区西側のXI層が残存している地点で検出されている。上面付近で遺物が多く出土したことで検出している。遺構の底面は第XIII層まで掘っており、規模は0.7×0.55mを測る。検出面では黒色磨研土器や粗製時、チャート製のチップなどが出土しており、遺構の埋土内からも遺物が出土した。(401・402)は黒色磨研土器の口縁部片である。(403)は粗製土器で、口縁端部が黒変する。内面は口縁端部から丈4.5cm以下は表面が淡黄色に変色している。

SC22で4区南側で検出しており、SC24と切りあっている。IX層面で御池軽石等を含む箇所があったことで検出している。遺構内は樹根により攪乱を受けていた。推定で、楕円状の平面形で、1.4m×1mを測る。遺物が出土しており、(404)は胴部片で、内外面とも貝殻条痕で調整を施す。

SC23は4区の南端に位置している。規模は推定で1.9×1.6mを測る。平面形は方形である。土坑の底面は、XI層まで掘り込んでいる。底面付近は攪乱の影響を受けている。(406)は縄文晩期と思われる土器の胴部片で、他に口縁部の細片も出土している。

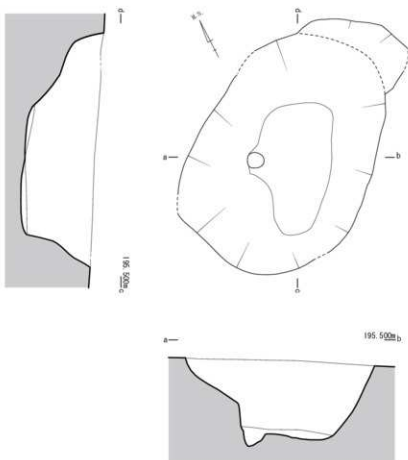


- 1 : 2 に類似するが、全体の色調は黒みが強い
- 2 : 黒褐色土と褐色土の混生で全体の色調は暗褐色を呈する
- 3 : アカホヤブロック残等を含む
- 4 : 黒褐色土 (10YR2/2) 僅かに御池粒石 (径 5mm)、アカホヤ塊を含む
- 5 : 黒褐色土 (10YR2/2)
- 6 : アカホヤのブロック断片を含む。全体の色調は黒褐色 (10YR3/4) を呈する
- 7 : アカホヤのブロックを含む黒褐色 (10YR2/2) 土
- 8 : 黒褐色土 (10YR2/2) 詰りは弱い
- 9 : 黒褐色土 (10YR2/2) 詰まる
- 10 : 暗褐色 (10YR3/3) のブロック土を含む暗褐色土 (10YR3/4) で詰まる やや硬い
- 11 : 全体の色調は暗暗赤褐色 (2.5YR2/2) を呈する。暗赤褐色 (2.5YR3/4) 粒 (2mm) を僅かに含む
- 12 : 暗褐色 (10YR3/3) のブロック土。一部アカホヤあり
- 13 : 黒褐色土 (10YR2/2) で詰まる。粒石の混入少ない
- 14 : 暗褐色土 (10YR3/4) でよく詰まる。ブロック状
- 15 : 暗褐色土 (10YR2/3) で下部暗褐色が濃くなり詰まる
- 16 : 黒色土 (10YR2/2) でやや詰まる
- 17 : 暗褐色土 (10YR2/3)
- 17' : 17 と同層であるが、やや赤褐色みを呈する
- 18 : 暗褐色土 (10YR2/2)、赤褐色 (2.5YR2.5/2) の細粒をわずかに含む
- 19 : 暗褐色土 (10YR2/2) 24 に比べやや黒みが強い
- 20 : 暗褐色土 (10YR2/3)
- 21 : 褐色土 (10YR4/6)
- 22 : 暗褐色土 (10YR3/4) を含む暗褐色土で全体の暗褐色が強い
- 23 : アカホヤ粒を含む暗褐色土 (10YR2/3)
- 24 : 黒色土 (10YR2/1) に赤褐色 (5YR4/6) の金石が含まれる。量は少ない

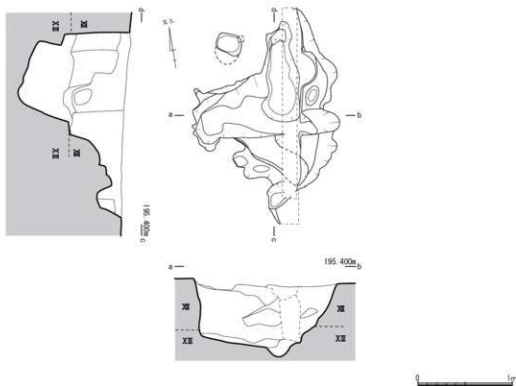


第 85 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図③ (S=1/30)

SC6

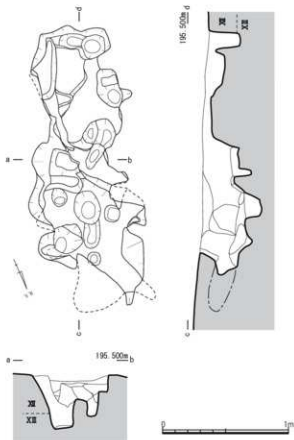


SC7

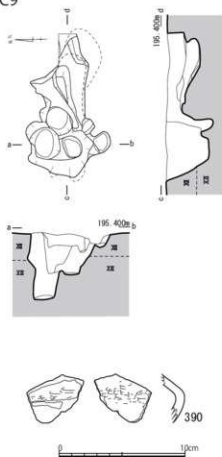


第 86 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図④ (S-1/30)

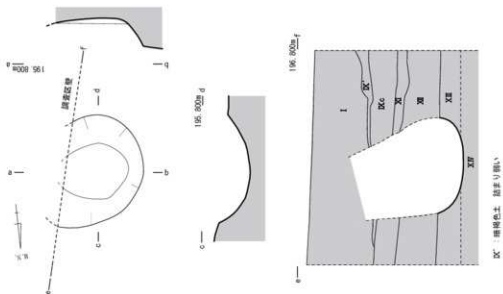
SC8



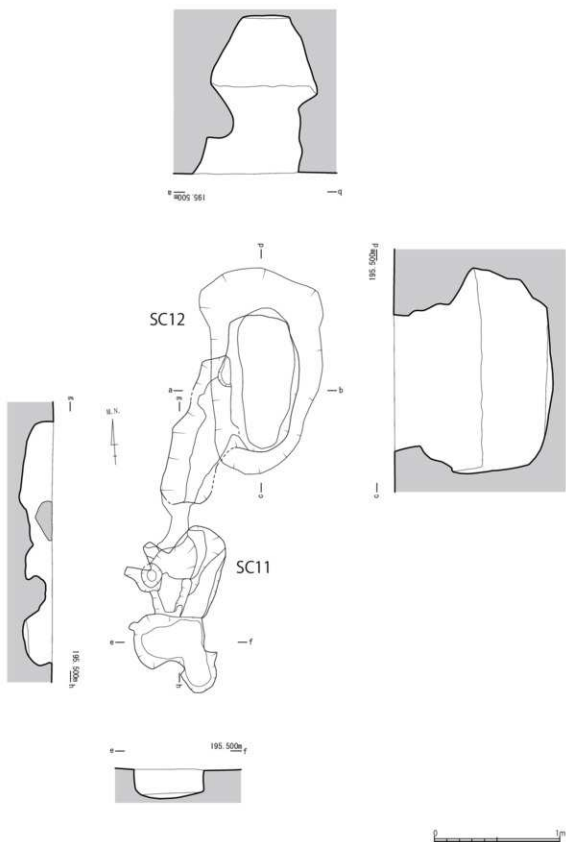
SC9



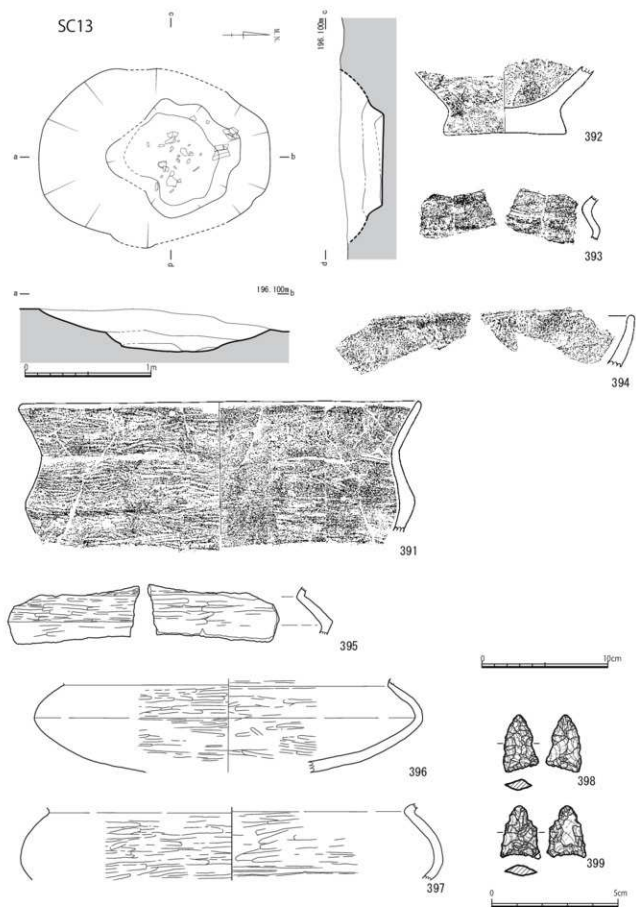
SC10



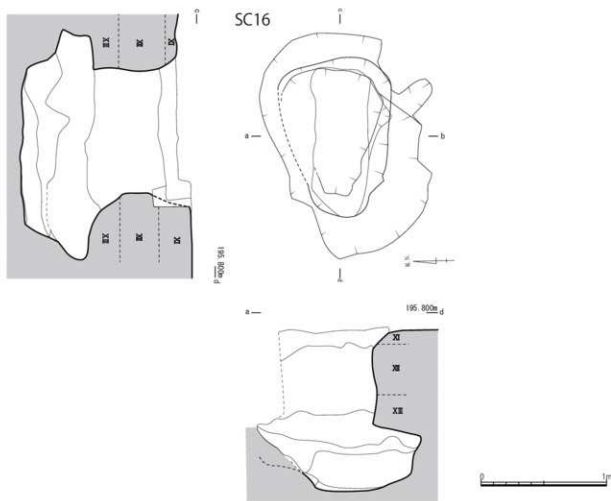
第 87 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑤及び出土遺物実測図 (S=1/30・1/3)



第 88 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑥ (S-1/30)



第 89 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図⑦及び遺物実測図 (S=1/30・1/3・2/3)



第90図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図⑧ (S=1/30)

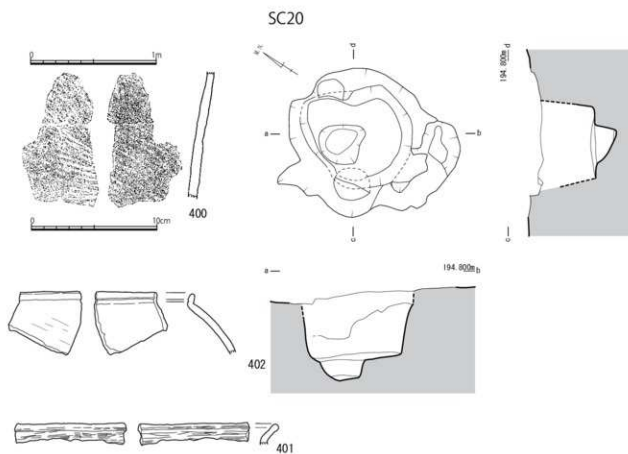
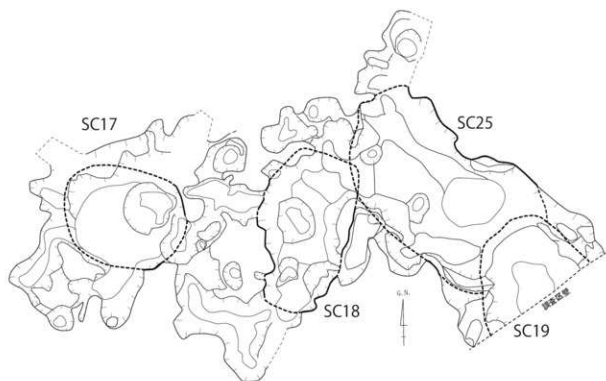
SC24は4区南側で検出しており、遺構の一部をSC22が切っている。攪乱の影響を受けている。平面形は隅丸長方形で、推定規模は $2.0 \times 1.3\text{m}$ を測る。出土遺物は沈線を施す胴部片(405)の他、土器細片2点や多くの礫が出土している。

SC25は4区南東側で検出されている。攪乱の影響により、遺構の一部の一部のみが残存している。SC18・19によって一部を切られている。推定規模は $1.9 \times 0.8\text{m}$ である。

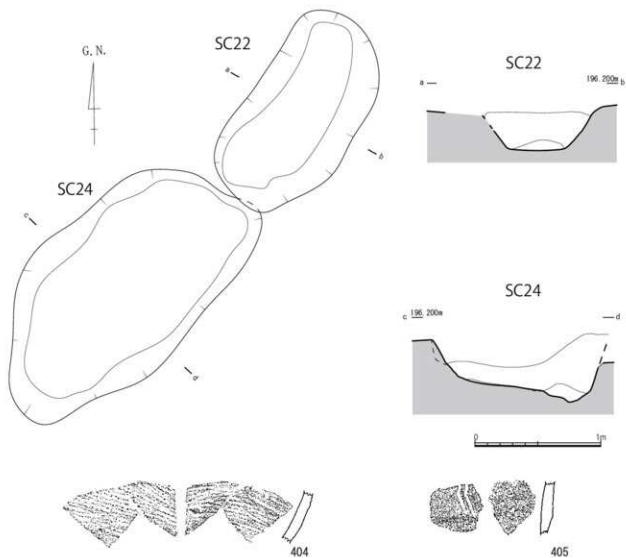
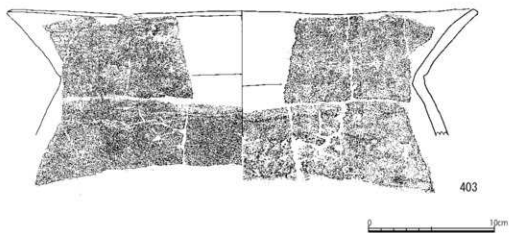
SC26は4区南側位置している。重機で第XIII層を除去中にしている際に石皿が出土したことで検出されたため、略図のみ作成した。検出面の平面形は隅丸方形で、中ほどが横に広がり、棚場施設を持つ、ランプ状の土坑である。検出面の規模は $0.9 \times 0.35\text{m}$ 、下端は $1.15 \times 0.5\text{m}$ である。出土した遺物は、土器は貝殻条痕を持つもの(407)や沈線をもつもの(408)、石皿(409)である。石皿は中央部を凹ませている。

SC28は3区の東側に位置する。径1m程範囲で炭化物を含む黒褐色土が確認されたことで検出された。土坑は楕円状で、規模は $1.5 \times 1.2\text{m}$ を測る。

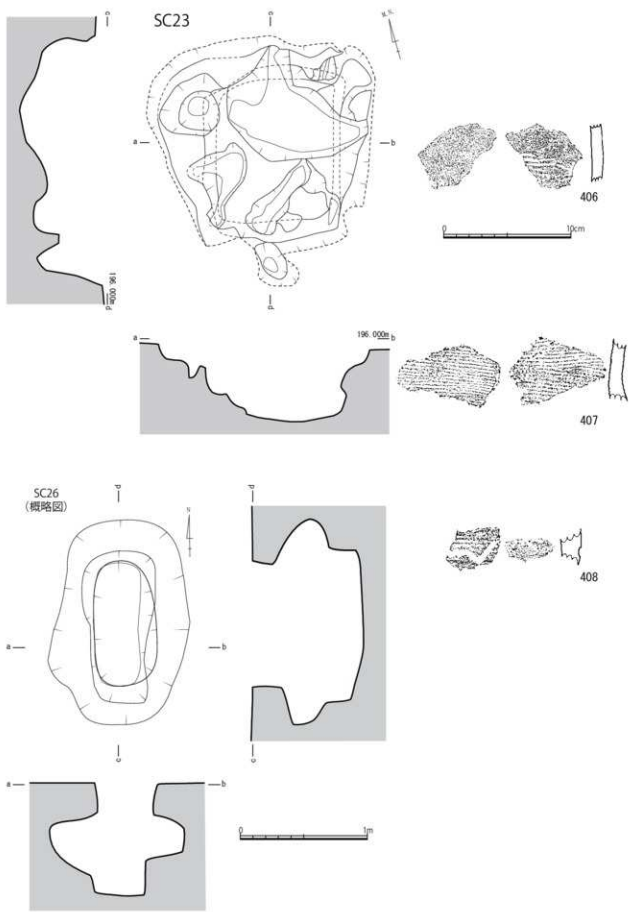




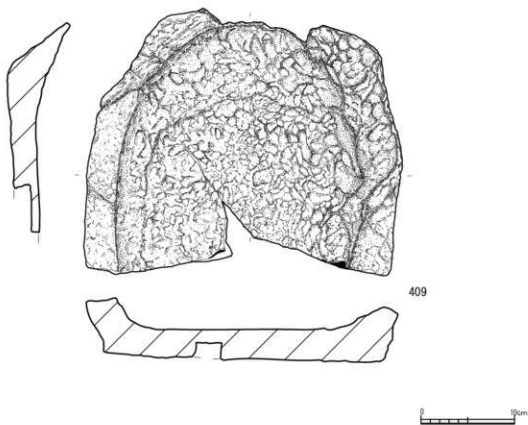
第91図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図⑨及び遺物実測図 (S=1/30・1/3)



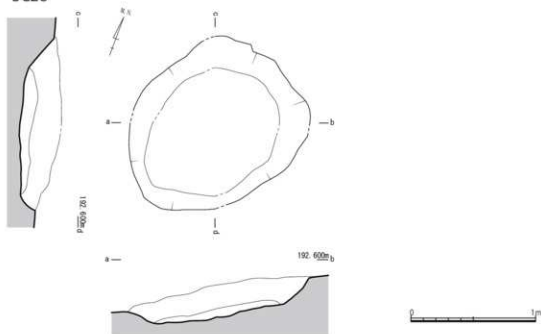
第92図 アカホヤ火山灰上位検出SC実測図⑩及び遺物実測図 (S-1/30・1/3)



第 93 図 アカホヤ火山灰上位検出 SC 実測図①・概略図及び遺物実測図 (S=1/30・1/3)



SC28



第94図 アカホヤ火山灰上位検出 SC実測図② (S-1/30)

第5表 遺構内出土土器観察表

発掘番号	部 種	部 位	出土地点	法 量			色 調		土 質						文様及び調整		備 考	実測 No.				
				部高 (mm)	底径 (mm)	口径 (mm)	外 面	内 面	石灰	長石	白色炭化物	黒石	雲母	黒色炭化物	赤色炭化物	鉄石			砂粒	外 面	内 面	
383	深鉢	口縁部	SA1	74	-	226	灰黒 (7.5YR4/2)	灰黒帯 (10YR5/2)	○	○						○	沈線	工具ナデ	257			
384	深鉢	底部	SA1	34	94	-	紺 (7.5YR6/6)	紺 (5YR6/6)	○	○							ナデ	ナデ	258			
385	深鉢	口縁部	SA1	22	-	-	にぶい赤黒 (5YR5/4)	紺赤帯 (5YR5/6)	○	○							刺突 ナデ	ナデ	465			
386	深鉢	胴部	SA1	-	-	-	にぶい赤黒 (10YR6/3)	にぶい赤黒 (10YR7/3)	○	○							染黒	染黒	262			
387	深鉢	口縁~頸部	SC1	331	125	324	紺 (5YR6/6)	紺 (5YR6/2)	○	○						○	沈線 (凹線) 指凸	指凸さえナデ	志記 No.2			
388	深鉢	口縁部	SC4	-	-	-	にぶい赤黒 (5YR5/4)	にぶい赤 (7.5YR6/4)	○	○							ナデ 透点	ナデ	456			
389	深鉢	胴部	SC4	-	-	-	にぶい赤黒 (10YR6/4)	紺 (7.5YR6/6)	○	○							染黒	(貝殻) 染黒	458			
390	浅鉢	胴部	SC9	-	-	-	にぶい赤黒 (10YR6/4)	灰黒帯 (10YR5/2)	○	○							ミガキ	ミガキ	454			
391	深鉢	口縁~胴部	SC13	105	-	312	紺 (7.5YR6/8)	にぶい赤黒 (10YR6/4)	○	○							染黒	工具ナデ	スス付着	264		
392	深鉢	底部	SC13	-	960	-	にぶい赤黒 (7.5YR7/6)	紺 (10YR7/4)	○	○	○						貝殻染黒	ナデ	ナデ	267		
393	浅鉢	胴~胴部	SC13	-	-	-	にぶい赤 (7.5YR7/2)	黒帯 (7.5YR3/2)	○	○							ナデ	ナデ	外面スス付着	261		
394	深鉢	口縁部	SC13	-	-	-	にぶい赤 (7.5YR5/4)	灰帯 (7.5YR5/2)	○	○						○	(工具) ナデ	(工具) ナデ	外面黒変	266		
395	浅鉢	胴部	SC13	-	-	-	黒帯 (10YR3/2)	灰帯 (10YR5/2)	○	○							○	ミガキ	ミガキ	263		
396	浅鉢	胴~胴部	SC13	-	-	-	黒帯 (10YR3/2)	黒帯 (10YR3/1)	○	○							○	ミガキ	ミガキ	スス付着	255	
397	浅鉢	口縁~胴部	SC13	-	-	-	にぶい赤 (7.5YR4/4)	紺 (7.5YR4/2)	○	○								ミガキ	ミガキ	233		
400	深鉢	胴部	SC17	-	-	-	にぶい赤 (7.5YR5/4)	暗灰帯 (2.5Y4/2)	○	○							○	工具ナデ 貝殻染	工具ナデ ナデ	スス付着	153	
401	浅鉢	口縁部	SC20	26	-	-	黒帯 (7.5YR3/1)	黒帯 (7.5YR3/1)	○	○								ミガキ	ミガキ	457		
402	浅鉢	口縁部	SC20	50	-	-	黒帯 (10YR3/2)	灰帯 (10YR5/2)	○	○								○	ミガキ	ミガキ	内外摩耗	259
403	深鉢	口縁~頸部	SC20	98	-	370	紺 (7.5YR4/3)	にぶい赤帯 (7.5YR6/4)	○	○								○	ナデ	ナデ	口縁黒変 内面口縁付着赤変	260
404	深鉢	胴部	SC22	-	-	-	紺 (2.5YR6/8)	にぶい赤 (7.5YR6/4)	○	○								○	貝殻染黒	貝殻染黒	254	
405	深鉢	胴部	SC24	43	-	-	にぶい赤帯 (10YR6/3)	暗灰帯 (2.5Y4/2)	○	○								○	沈線 ナデ	ナデ	157	
406	深鉢	胴部	SC23	-	-	-	紺 (7.5YR4/2)	明灰 (7.5YR5/6)	○	○								○	ナデ	貝殻染黒 ナデ	156	
407	深鉢	頸部	SC26	-	-	-	にぶい赤 (7.5YR6/4)	にぶい赤 (7.5YR6/4)	○	○								○	貝殻染黒	貝殻染黒 ナデ	154	
408	深鉢	胴部	SC26	-	-	-	にぶい赤帯 (5YR5/4)	明赤帯 (5YR5/6)	○	○									ナデ 沈線	ナデ	158	

第6表 遺構内出土石器観察表

発掘番号	出土地点	種 別	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	委託 No.
398	SC13	石鏝	チャート	2.25	1.40	0.45	1.2		14
399	SC13	石鏝	チャート	(2.05)	(1.53)	0.45	(1.2)		15
409	SC26	石鏝		28.50		2.60	5000.00		942

## 2 遺物について

1区のアカホヤ二次堆積層（基本層序X層）、4区においてはアカホヤ火山灰上位の黒色～褐色土（基本層序VII～IX層）、アカホヤ二次堆積層で出土した遺物をここで掲載する。一部、攪乱中等の遺物についても、当時期に該当すると想定される遺物についても、ここで掲載している。

### (1) 出土土器について

土器は1区と4区を中心に出土している。出土分布は、遺物包含層が残存する範囲が狭いため、明確なことは述べ難く、比較的遺物包含層に満遍なく出土しているが、SC13周辺にやや分布の偏りがある。中尾田Ⅲ類、大平式、市来式、縄文晩期の粗製土器や黒色磨研土器が出土している。

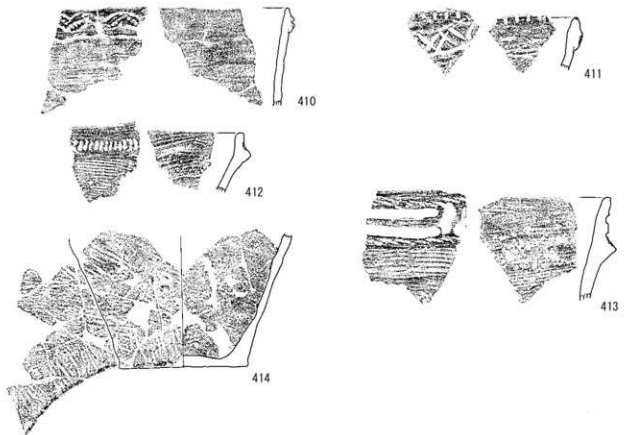
#### 中尾田Ⅲ類土器 (410)

幅広の肥厚帯に突帯が貼付される個体である。

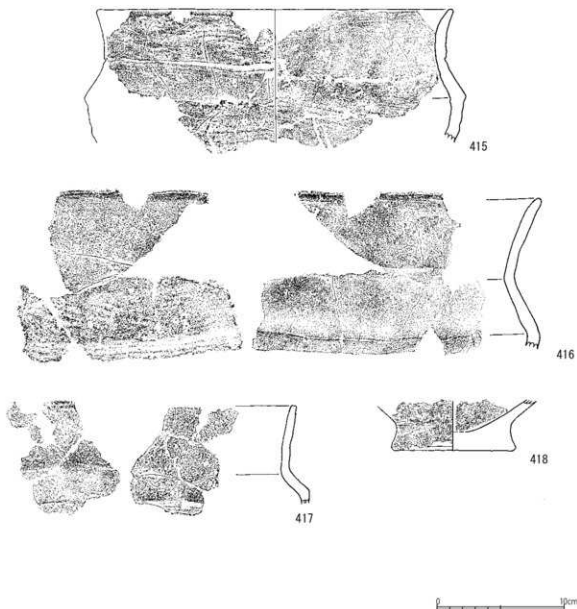
410は肥厚部に更に紐状に粘土を貼り付け、その上に施文している。

#### 大平式土器 (411)

幅広の口縁部肥厚帯に沈線や刺突文を施す個体である。411は口縁部で、口縁部付近を肥厚させ、棒状工具で沈線を施している。



第95図 アカホヤ火山灰上位包含層出土土器実測図① (S=1/3)



第96図 アカホヤ火山灰上位包含層出土土器実測図② (S-1/3)

#### 市来式土器 (412・413)

口縁部を三角形に肥厚させて文様帯を成形する土器の一群である。

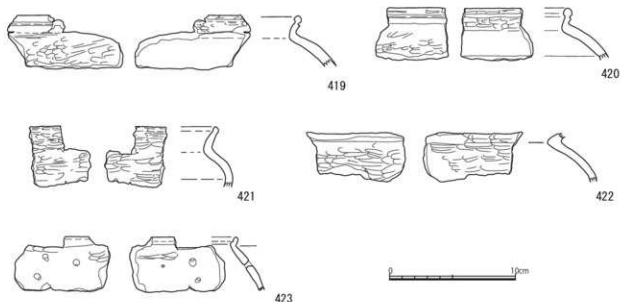
412は文様帯に貝殻腹縁刺突を施す。肥厚部の下部や内面は貝殻条痕を持つ。内面は黒変する。413は肥厚部に貝殻腹縁刺突と沈線を持つ。

#### 底部 (414)

414は胴部～底部片で、バケツ状の器形で、平底である。内外面に貝殻条痕を持つ。外面にスガが付着している。

#### 粗製土器 (415～417)

415・416は頸部に沈線を巡らせる。口縁部は外反し、肩部が張る器形である。415は口縁部付近にスガ



第97図 アカホヤ火山灰上位包含層出土土器実測図③ (S=1/3)

付着し、416は口縁端部から丈4cm程下部は浅黄色に変色しており、外面にはススが付着している。417は肩部のせり上がりがより顕著である。418は底部片で、粗製土器の底部片と思われる。外面にススが付着する。

#### 黒色磨研土器（419～423）

浅鉢型の器形で、内外面にミガキを施す一群である。

419・420は口縁端部の内外面に沈線を持ち玉縁状である。419は口縁部付近や胴部が黒変する。421は口縁端部の沈線は薄い。422は頸部～胴部片で、胴部が張り、頸部の屈曲が強い。423は短い口縁部を持ち、頸部の屈曲が強い。胴部に3箇所の穿孔を持つ。

#### （2）出土石器について

石器も、土器と同様に1区と4区を中心に出土している。出土分布についても土器と同様遺物包含層が残存する範囲が狭く、また出土点数が少ないため、明確なことは述べ難く、遺物包含層に満遍なく出土している。出土した石器の種別は、石鏃、石匙、石斧、スクレイパー、石皿等である。

#### 石鏃（424・425）

424は黒曜石製の打製石鏃で、基部に一定の挟りを持つ2類に分類される。425はチャートの打製石鏃で、基部の挟りが浅い3類である。

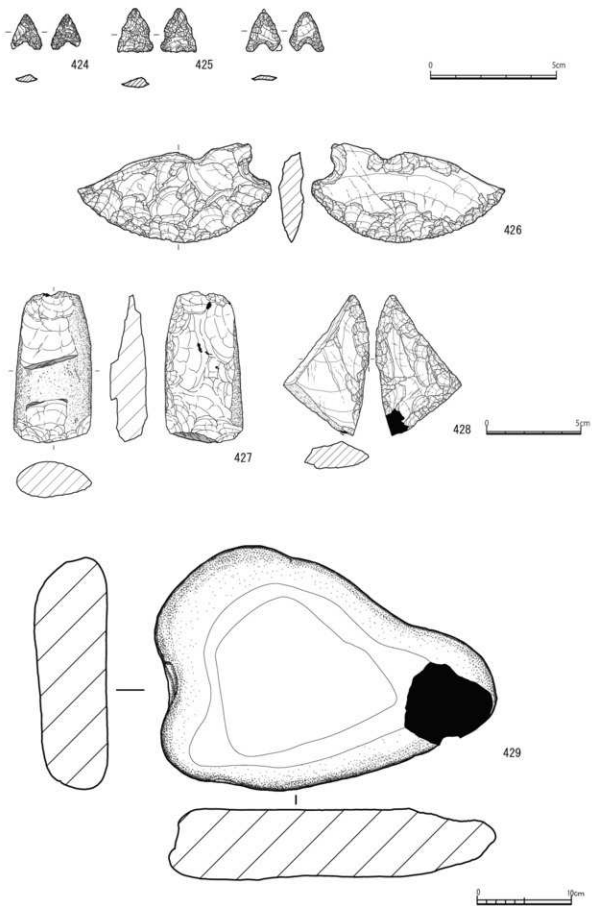
#### 石匙（426）

426はチャート製の石匙で、扇状の剥片に刃部とつまみ部分を作り出している。最大長3.95cm、最大幅7.7cm、厚さ1.05cmを測る。

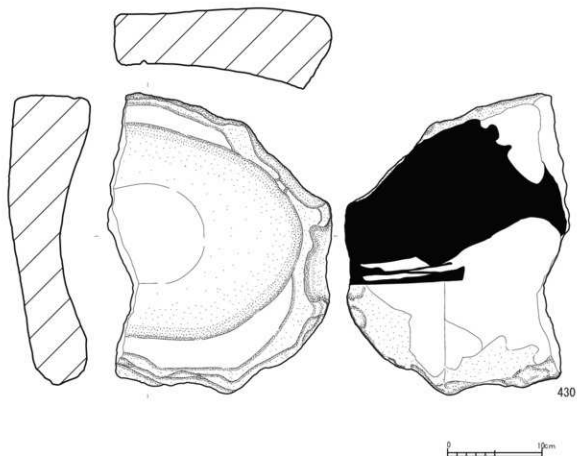
#### 石斧（427）

427は局部磨製石斧で、凝灰岩製と思われる。全体的に白く風化している。片面の基部と刃部の中央部付近に自然面を残して、段差を作り出している。最大長8cm、最大幅4.1cm、厚さ2cmを測る。





第 98 図 アカホヤ火山灰上位包含層出土石器実測図① (S=2/3・1/2・1/4)



第99図 アカホヤ火山灰土位包含層出土石器実測図② (S-1/4)

スクレイパー (428)

428は三角形の剥片に刃部を作り出している。残存で、最大長7.45cm、最大幅4.55cm、厚さ1.4cmを測る。

石皿 (429・430)

429は片面にのみ摩滅痕を持つ。最大長36.4cm、最大幅26cm、厚さ7.8cmである。430は石皿の破片で、表面の中央部付近が凹んでいる。裏面にも角度が異なる摩滅面を3面持つ。最大長32cm、最大幅23.8cm、厚さ8.6cmを測る。

第7表 アカホヤ火山灰上位包含層出土石器観察表

観察番号	器種	部位	出土地点	法 量			色 面		胎 土							文様及び調整		備 考	実測 No.			
				器高 (mm)	底径 (mm)	口径 (mm)	外面	内面	石英	長石	白色胎土	黒石	黒母	黒色胎土	黒色胎土	赤色胎土	砂粒			外 面	内 面	
410	深鉢	口縁部	H16	-	-	-	暗褐色 (7.5YR3/3)	暗褐色 (7.5YR4/3)	○									突帯ナデ	突帯刺突	ナデ		916
411	深鉢	口縁部	G16	-	-	-	暗褐色 (7.5YR4/4)	暗褐色 (7.5YR4/2)	○									ナデ 赤ヤミ 粘	ナデ	ナデ	外面スス付着	917
412	深鉢	口縁部	B11	49	-	-	暗褐色 (5YR6/6)	暗褐色 (5YR6/6)	○									目取刺突 条痕	条痕	工具ナデ		37
413	深鉢	口縁部		80	-	-	にぶい暗褐色 (7.5YR6/4)	にぶい暗褐色 (7.5YR6/4)	○									目取刺突 条痕	沈澱 条痕	工具ナデ	スス付着	40
414	深鉢	胴～底部	G15	103	102	-	暗褐色 (2.5YR5/8)	暗褐色 (7.5YR5/1)	○									条痕	条痕	ナデ		912
415	深鉢	口縁～胴部	G14	-	-	-	灰褐色 (7.5YR4/2)	暗褐色 (7.5YR6/1)	○									沈澱 ナデ	ナデ	ナデ	外面スス付着	913
416	浅鉢	口縁～胴部	G14	-	-	-	灰黄褐色 (10YR5/2)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	○									ナデ	ナデ	ナデ	外面黒変(口縁部、胴部)	904
417	深鉢	口縁～胴部	G14	-	-	-	暗褐色 (7.5YR5/6)	明黄褐色 (10YR7/6)	○									ナデ	ナデ	ナデ		914
418	深鉢	底部	G15	-	98	-	にぶい黄褐色 (10YR7/4)	にぶい黄褐色 (10YR7/2)	○									ナデ	ナデ	ナデ		939
419	浅鉢	口縁～胴部	H16	-	-	-	灰黄褐色 (10YR5/2)	灰黄褐色 (10YR6/2)	○										ミガキ	ミガキ		908
420	浅鉢	口縁～胴部	G15	-	-	-	灰黄褐色 (2.5YR6/2)	黄褐色 (2.5Y5/1)	○										ミガキ	ミガキナデ		938
421	浅鉢	口縁～胴部	G14	-	-	-	暗褐色 (5YR6/2)	暗褐色 (5YR2/1)	○										ミガキ	ミガキ		910
422	浅鉢	胴～底部	G16	-	-	-	にぶい暗褐色 (7.5YR5/4)	にぶい暗褐色 (7.5YR6/4)	○										ミガキ	ミガキ		911
423	浅鉢	口縁～胴部	H16	-	-	-	暗灰黄褐色 (2.5Y4/2)	暗灰黄褐色 (2.5Y4/2)	○										ミガキ(摩耗)	ミガキ(摩耗)	摩耗あり	909

第8表 アカホヤ火山灰上位包含層出土石器観察表

観察番号	出土地点	種別	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備 考	実測 No.
424		石鏝	閃輝石	(1.40)	(1.20)	0.35	80.40		23
425		石鏝	チャート	1.75	1.40	0.40	0.80		22
426		石鏝	チャート	3.95	7.70	1.05	29.40		26
427		局部磨製石斧	凝灰岩?	8.00	4.10	2.00	82.50	全体的に風化	25
428		スクレイパー	火山岩	(7.45)	(4.55)	1.40	(37.10)		27
429	B10	石鏝		36.40	26.00	7.80	10200.00		
430	H 16	石鏝		32.00	23.80	8.60	8500.00		

## 第4節 時期不明の遺構・遺物について

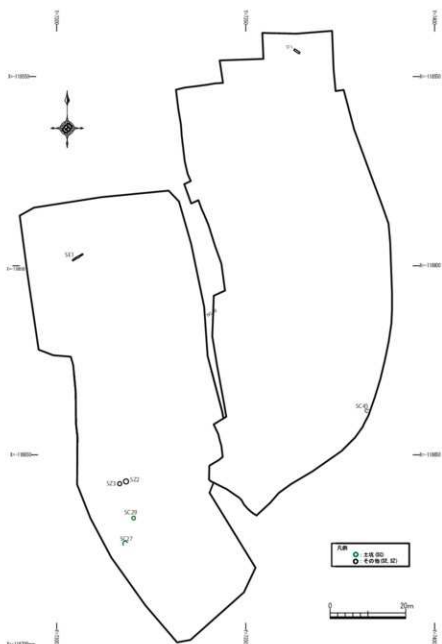
埋土の様相、自然科学分析の結果等と、その遺構の検出面を対比した際に、同じ層で検出された遺構と差異の大きいものや、遺構内遺物が出土せず遺構の形状のみでは時期の特定が困難であった遺構をここで記載している。

### 1 遺構について

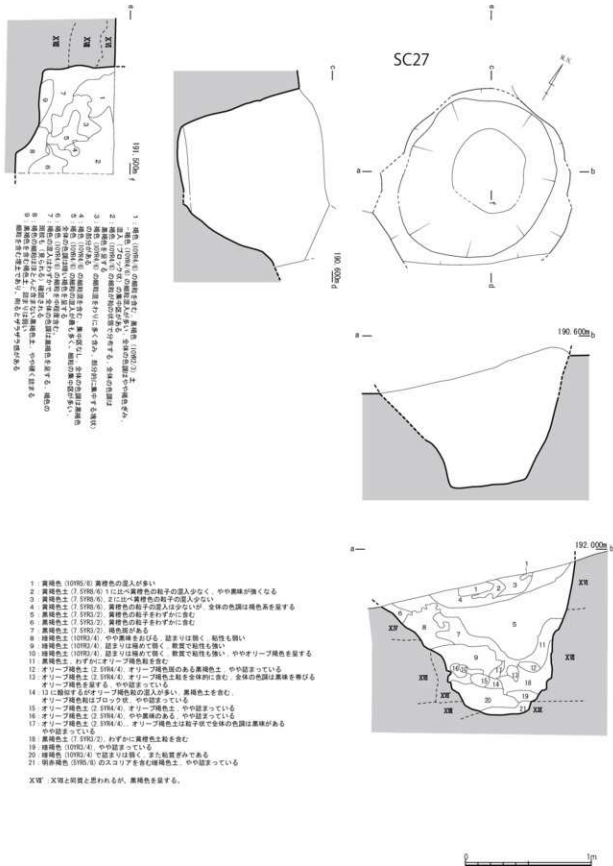
土坑3基、溝状遺構1基、陥し穴遺構1基、その他土坑3基を報告する。

#### (1) 土坑

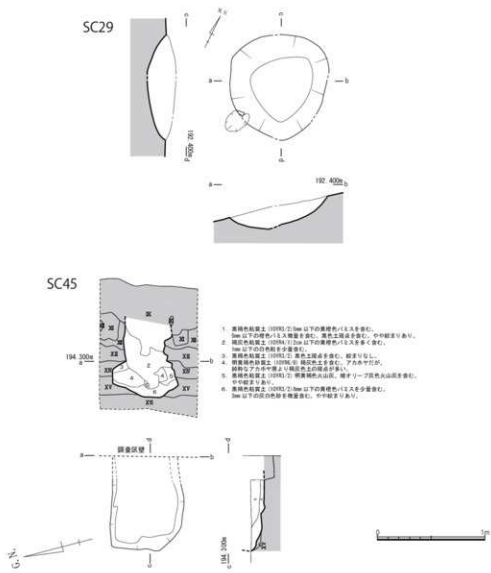
SC27は3区で検出されている。XIV層精査中に検出されており、調査区の先行トレンチで遺構の一部は残



第100図 時期不明遺構配置図(S=1/1000)



第101図 時期不明SC実測図①(S=1/30)



第102図 時期不明SC実測図②(S=1/30)

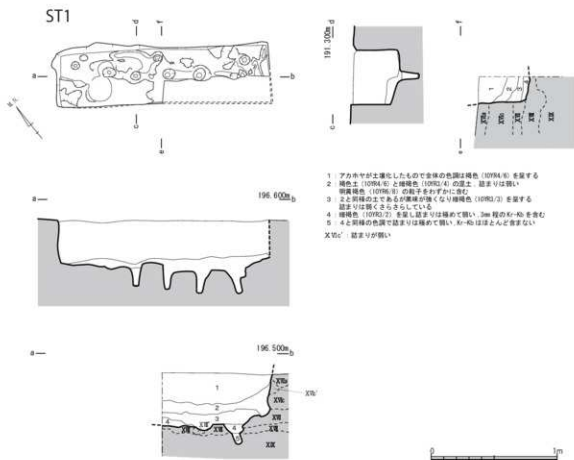
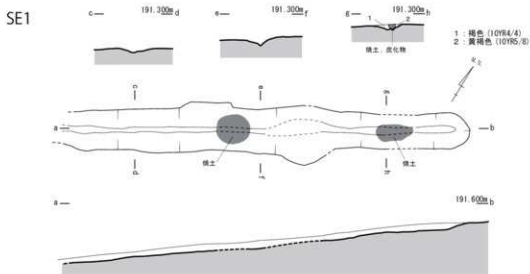
存していない。遺構の平面形は円形で、約  $1.5 \times 1.5\text{m}$  を測る。底面はXIV層まで掘り込まれている。自然科学分析の結果、埋土中にアカホヤ火山灰を含む（第3章第1節）ことから、アカホヤ火山灰降下以降の遺構である。

SC29は3区で検出されている。平面形は円形で、約  $95 \times 90\text{cm}$ 、検出面からの深さは約  $20\text{cm}$  を測る。SC27と同様で、XIV層精査中に検出されており、埋土中に黄褐色土を含むことから、アカホヤ火山灰降下後の遺構であると推測される。

SC45は4区から検出されている。調査区壁面に掛かって検出された。XVI層精査中に確認されているが、IX層から掘削されており、アカホヤ火山灰降下後の遺構と考えられる。下部が袋状に膨らんだ形状をしている。底面付近から炭化物が検出された。

## (2) 溝状遺構

SE1 1区で検出されている。第X層で検出された。規模は幅  $30\text{cm}$  で直線状に伸びており、深さは約  $5\text{cm}$  である。断面形はV字状である。全長は残存で  $3.3\text{m}$  である。埋土は褐色で、検出面中央部付近の一部に炭

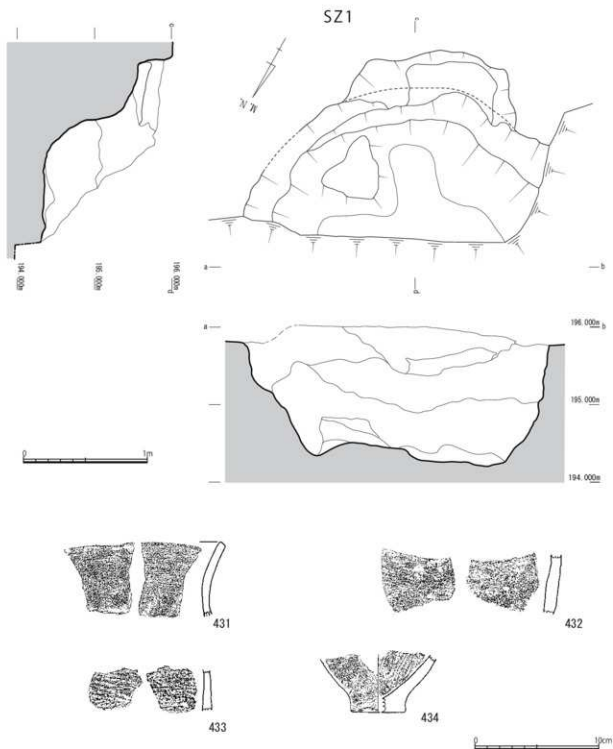


第103図 時期不明SE・ST実測図 (S=1/30)

化物を含む焼土が検出された。

### (3) 陥し穴遺構

ST1は4区の北端で検出された、検出面はXVI層である。遺構の平面形は長方形で、規模は1.7×4.5m、検出面からの深さは35cmを測る。底面に径約8cmの逆茂木と思われる小ピットが並ぶ。



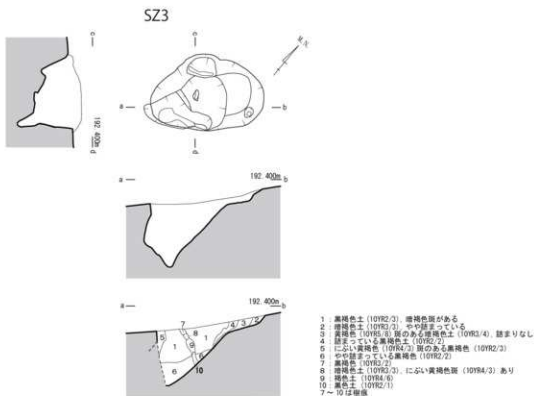
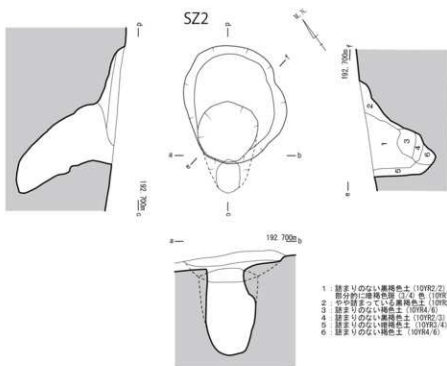
第104図 時期不明SZ実測図① (S=1/30・1/3)

#### (4) その他遺構

SZ1は4区の南西で検出された。調査区壁際に位置しており、北半は削平されている。大型の土坑と考えられるが、性格は不明である。埋土中から遺物が出土しているが、遺構埋没中の混入と思われる。遺構の規模は推定で径1.2m、深さは約85cmが残存する。(431)は底部片である。(432)は深鉢の口縁部片である。(433・434)は胴部片である。埋土や出土遺物から、縄文後期から古代以降の頃の遺構と考えられる。

SZ2は2区で検出されたスロープ付き土坑である。西向きに傾斜地に所在する。遺構の上端は楕円状で1×0.7mで、二段掘りとなっている。下段は南西方向に斜めに掘られている。埋土から遺物は出土していない。検出層はXVI層である。





第 105 図 時期不明 SZ 実測図② (S=1/30)

SZ3は2区で検出され、SZ2の西側に位置している。スロープ付き土坑で、2段掘りとなっている。検出層はXVI層である。上端は楕円状で0.95×0.6mを測る。下段は南西方向に斜め掘りされている。遺物は出土していない。

第9表 時期不明遺構内出土土器観察表

発掘番号	器種	部位	出土地点	法量			色澤		土							文様及び調物		備考	実測No.	
				器高(mm)	口径(mm)	口径(mm)	外面	内面	石炭	長石	白色系物	舞石	出母	黒色系物	赤色系物	軽石	砂粒			外面
431		口縁部	SZ1	58	-	-	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	にぶい黄褐色 (10YR6/3)	○						○			ナデ	ナデ	265
432		胴部	SZ1	-	-	-	にぶい赤褐色 (5YR5/4)	にぶい赤褐色 (7.5YR7/4)	○						○			ナデ	ナデ	455
433		胴部	SZ1	-	-	-	灰褐色 (7.5YR4/2)	にぶい赤褐色 (7.5YR6/4)	○	○							○	ナデ	ナデ	459
434		底部	SZ1	42	44	-	黄灰 (2.5Y4/1)	黄灰 (10YR4/1)	○	○					○		ナデ	ナデ	268	

## 2 遺物について

表採遺物や一括遺物等、遺物包含層以外から出土した遺物で、前節までの遺物と様相の異なる遺物だが、遺跡の変遷を語る上で必要な遺物をここで掲載する。

### (1) 土器について

435 は成川式の破片で貼り付け突帯にキザミを施す。キザミは布目痕がある。表土から出土している。

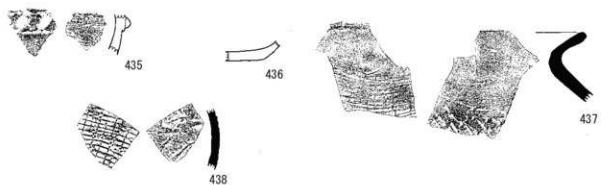
436 は土師器皿の底部で4区から出土している。底部は不明瞭だがヘラ切りである。

437 は須恵器の口縁部～胴部片である。胴部に格子状、内面に板痕がある4区表土から出土している。

438 は須恵器の胴部片である。外面に格子状のタタキ、内面に同心円状の当て具痕がある。4区表土から出土した。

### (2) 石器について

439 は1区の風倒木で出土した。風倒木の検出面はXVI層である。異形石器で上端部に穿孔と思われる痕跡がある。下端部には敲打痕も見られる。側面にはキザミが施されており、キザミの断面形は深部が丸みを帯びたV字状である。表面は中央付近に縦の沈線を施し、X字状に線刻を施す。X字の線刻の端部は側面のキザミと一致する。



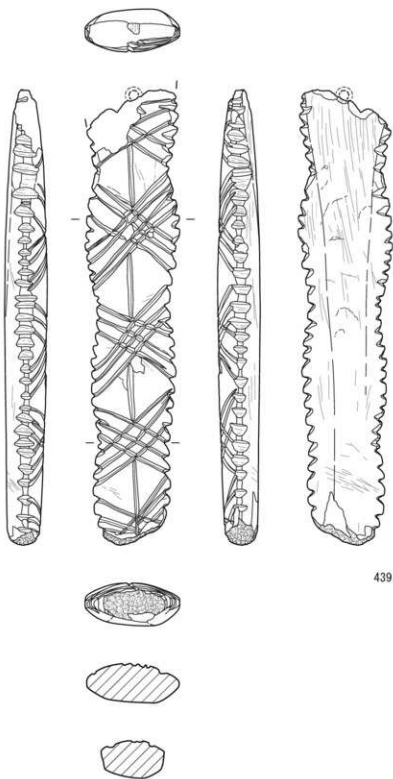
第106図 時期不明土器実測図 (S=1/3)

第10表 時期不明土器観察表

観察番号	器種	部位	出土地点	寸法			色調		胎土							文様及び調整		備考	実測No.		
				器高(mm)	底径(mm)	口径(mm)	外面	内面	石英	白色胎土	黒石	赤母	黒色胎土	赤色胎土	砂粒	外面	内面				
435	甕	胴部	-	-	-	-	にぶい黄緑(10YR6/4)	にぶい黄褐色(10YR5/3)	○									貼り付け突帯 ナデ	ナデ	突帯のキザミに板目痕	918
436	皿	底部	一括	-	-	-	黄緑(10YR5/6)	橙(7.5YR6/8)	○									ナデ	ケズリ		920
437	甕	口縁～胴部	-	-	-	-	灰青(5Y 6/2)	灰青(5Y 6/2)	○						○			タタキ	ナデ 当て具痕		922
438	-	胴部	D区	-	-	-	灰青(2.5Y6/2)	黄灰(2.5Y6/1)							○			タタキ	当て具痕		919

第11表 時期不明石器観察表

観察番号	出土地点	種類	石材	最大長さ(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考	委託No.
439		異形石器(重錐石器製品)	頁岩	(12.00)	(2.50)	1.10	(44.00)	上端部に穿孔 下端部に敲打痕あり 断面寸大	72



439



第 107 图 时期不明石器实测图 (S=1/1)